

株式足利銀行營業成績比較表

Table showing financial performance for Tokai Bank (株式足利銀行) for the 12th and 13th periods. It includes columns for assets (資本金), liabilities (負債), and various income and expense items.

株式鹿沼銀行 (土部郡鹿沼町) 資本金 四百二十萬圓 拂込資本 三百三十六萬九千圓 諸積立金 八十七萬圓 諸預り金 七百萬圓

當行は明治二十六年五月の創業にして爾來業績隆々として... (Text describing the bank's history and performance since its founding in 1893.)

株式鹿沼銀行營業成績比較表

Table showing financial performance for Tokai Bank (株式鹿沼銀行) for the 12th and 13th periods. It includes columns for assets (資本金), liabilities (負債), and various income and expense items.

株式宇都宮銀行 (宇都宮市杉原町) 資本金 四百萬圓 拂込資本 二百五十萬圓 諸積立金 七十五萬圓 諸預り金 六百五十萬圓

當行は明治二十九年六月の創業である。其の資本金、創立年限に於て下野銀行に遜るゝと雖も、其の内容の充實せる業績の良好なる點に於ては寧ろ遙かに之を凌駕してゐるものと観せらる。即ち歐戰前(大正二年)百五十萬圓の資本、八十二萬五千圓の拂込を以て百四十八萬餘圓の預金を有し、二十五萬五千圓の積立金を有して居たものが、好況期の八年末には百十四萬圓の拂込に對し、四百二十一萬圓の預金を吸収してゐるから約四倍弱に相當し、漸次増加率を考へて見れば、知るべし。而して反動期に入ると最近二年末には、關東震災等の不祥事あつたにも拘らず影響する處少なく預金は即つて六百七十萬餘圓に増加し、十三年末には二百七十萬圓を減つて六百四十二萬餘圓を示してゐるが、これを下野銀行の好況時代八百萬圓より反動期の四百餘萬圓に半減したに比すれば、其の差額は餘程優良であると思ふべきであらう。而して一面貸出方面に就て見ると戦前には預金の百五十%、八年には百

株式宇都宮銀行營業成績比較表

Table showing financial performance for Tokai Bank (株式宇都宮銀行) for the 12th and 13th periods. It includes columns for assets (資本金), liabilities (負債), and various income and expense items.

株式下野銀行 (宇都宮市大町) 資本金 五百五十萬圓 拂込資本 三百十三萬五千圓 諸積立金 七十八萬圓

株式下野銀行營業成績比較表

Table showing financial performance for Tokai Bank (株式下野銀行) for the 12th and 13th periods. It includes columns for assets (資本金), liabilities (負債), and various income and expense items.



重役 (取締役) 矢板寛、矢口長右衛門、鈴木良一、見目清、瀧澤民、高柳與一郎、瀧澤武、高田常四郎(監査)大谷兵三郎、坂尾金一郎、青木勝藏(支配)手塚幸松

株式 下野産業銀行 (資本金矢板町一五四)

設立 大正九年十一月  
資本金 百五十萬圓  
拂込額 五十二萬五千圓  
總株數 三萬株  
重役 (取締役) 阿久津徳重、片山順作、關谷彌八郎、瀧澤善太郎、増形隆物、三浦清、大澤勝(監査)大澤忠次郎、大島光國、佐久間徳太郎、藤田三郎(支配)大森誠

株式 那須商業銀行 (資本金那須郡大田町)

設立 明治三十二年一月  
資本金 百五十萬圓  
拂込額 五十五萬圓  
總株數 二萬株(舊五千株)  
重役 (頭取) 増田新七(常務) 山本久吉(取締) 植竹熊次郎、若林五郎平、増淵晋一郎、川上久兵衛、瀧田秀雄(監査) 江部順治、石和田幸太郎、阿久津正(支配) 増淵晋一郎

株式 茂木銀行 (資本金茂木町)

設立 明治三十年十二月  
資本金 百四十萬圓  
拂込額 四十八萬圓  
總株數 二萬株(舊四千株)  
重役 (頭取) 阿見勲次郎(取締) 藤廣治、平野彌一郎、見目源九郎、瀧野幸助、若井文七(監査) 大兼善三郎、那須慎吉、今井與志(支配) 近澤勇

株式 烏山銀行 (資本金烏山町)

設立 明治二十八年十二月  
資本金 百四十萬圓  
拂込額 四十六萬圓  
總株數 二萬株(舊二千株)  
重役 (取締) 新井高吉、岡城太平(同支配) 吉田良實(監査) 大橋清吉、横山平一郎

株式 黒羽銀行 (資本金黒羽町)

設立 大正八年十月  
資本金 百五十萬圓

拂込額 四十六萬圓  
總株數 二萬株(舊二千株)  
重役 (頭取) 藤原徳之助(取締) 藤原徳之助、植竹熊次郎、菊池春之助(監査) 竹熊次郎、菊池政三郎、菊池春之助(支配) 藤原徳之助、植竹虎太(支配) 菊池金助

株式 下毛貯蓄銀行 (資本金下毛町)

設立 大正十年十二月  
資本金 百五十萬圓  
拂込額 二十五萬圓  
總株數 二萬株  
重役 (代表取締) 上野次郎(取締) 田中勝次郎、藤野高太郎、齋藤太兵衛、矢板寛、石崎丈太郎、見目清、金子太平、大橋清吉、増田新七、瀧澤直七(監査) 矢板寛、田中千代吉、大谷兵三郎、加藤重吉、村山源助、上野順一、手塚五郎平、藤田富次郎、川上勝吉、加藤正信

19、群馬縣ノ部

株式 上毛實業銀行 (本店前橋市野町)

資本金 五百九十萬圓  
拂込額 百五十二萬圓  
諸積立金 二十一萬九千圓  
諸預り金 七百六十二萬圓

本邦物産地としての前毛地方が如何なる地位に處すべきかは敢て贅言の要なからう。而して此の經濟的地位を知るに及び金融機關の著しく發達してゐる事實が必ずしも偶然の結果なりとは断じ得ないであらう。本縣の金融界が其の今日の如く繁栄發展を呈するの理由は遠く且つ深く存するのである。此の有数の機業地を代表する金融機關として近時隆々たる躍進振りを示す上毛實業銀行は果して如何なる實業を有するであらうか。

「踏るべき其の沿革」 資本集中主義が高唱され、事業合同論が喧嘩せらるゝに際し、小資本銀行の散在は漸次廢棄の所以に非ずして、敵視好況の陰謀向は冷めやらぬ大正十年七月、同縣下に本店を有する上野銀行(資本金二百萬圓)新田銀行(同五十萬圓)群馬貯蓄銀行(同五十萬圓)の三行を合併して新に資本金五百七十萬圓の上毛實業銀行を設立し、越つて翌年十月更に玉村銀行(二百萬圓)を合併し、總資本五百九十萬圓となし、百五十二萬圓の拂込を以て金融界を躍進し現在に及んだのである。

創業以來の業績 以上の如く其の創業歴史に於ては最も新しき部面に屬すれども、夙に營業して良好の成績を挙げ前途有望なる銀行多數を一九一〇年創設されたのであるから其の發展振りは頗る目覚ましいものであり、創業一年後に於て五百九十萬圓の預金を吸ひ出し貸出亦五百五十萬圓に上るの盛

況を呈したものである。以て同業銀行一十年を經過したる大正十一年上半年期以降の業績を比較對照して其の發展進歩の如何に急速であつたかを知らしめよう。(單位千圓)

項目	十一年上	十二年上	十三年上	十四年上
資本	100,000	100,000	100,000	100,000
預金	100,000	100,000	100,000	100,000
貸出	100,000	100,000	100,000	100,000
現金	100,000	100,000	100,000	100,000
有價証券	100,000	100,000	100,000	100,000
現預金	100,000	100,000	100,000	100,000

(備考) 貸出には割引手形、倉庫手形、コールローンを含みます。以上によつて知り得る如く十二年下期、即ち關東大震災の突發せる際、尙且つ預金は著しく増加し、半期間六十餘萬圓の割合を以て増加してゐる反對に貸出に於ては他の何れの期よりも著しく減少してゐる事實が判明する。是れ即ち經營者側の施設宜しきを得た手腕の程を物語ると同時に、常に一〇〇%以上の貸出が行はれながら何等過貸の危険性を含むものに非ざる事實を明白に立證してゐることを窺知し得るであらう。斯くして同業銀行の業績は極めて隆盛であると共に其の業績は頗る良好なる事を認定し得る。即ち其の損益動向に於て毎期二十餘萬圓の純益(繰越)を別とするを挙げ一年一割の株主配當を維持して來つたのである。尤も十四年上期には減配態度に基づき一分を減じたが一面に於て諸準備金及繰越金等の増加となつてゐるから寧ろ内容の充實を窺ひ得る結果となつたのである。此く觀じれば同業銀行の業績は眞に縣下を代表する實業を有し、これを他の大都市銀行と比較するも敢て遜色なき堅實性に富んでゐるものと評し得べく、其の前途たるや有望なるべきを疑はぬのである。

株式 上毛實業銀行營業成績比較表

項目	第十一年	第十二期	第十三年	第十四期
資本	590,000	590,000	590,000	590,000
預金	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
貸出	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
現金	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
有價証券	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
現預金	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
未拂利息及未経過引料	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
前期中繰越金	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
当期純益	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
其他合計	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
諸積立金	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
諸預り金	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
諸負債	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000
手形	1,520,000	1,520,000	1,520,000	1,520,000

當座預金 貨越  
引付金 手形  
他店手形  
預金 金貨  
所有有價証券  
社債 公債 債券  
營業用土地建物什器  
所有動産 不動産  
現金 不産  
其他 共計

當座預金	九六,三三〇	一,一〇,一三二
引付金	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
他店手形	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
預金	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
所有有價証券	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
社債	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
公債	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
債券	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
營業用土地建物什器	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
所有動産	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
不動産	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
現金	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
不産	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
其他	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
共計	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇

伊勢崎銀行 (群馬伊勢崎町)  
**資本金 四百三十五萬圓**  
**拂込資本 百八十四萬五千圓**  
**諸積立金 十七萬五千圓**  
**諸預り金 七百六十九萬圓**

當行は大正十一年十二月資本金四百萬圓を以て設立され、總物集積市場たる伊勢崎唯一の金融機關として其産業發達に資する處頗る多く、隨つて又業況の活況を帯へる點に於て

伊勢崎銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十二年		下十三年	
	期年	期年	期年	期年
資本金	4,350,000	4,350,000	4,350,000	4,350,000
諸積立金	1,750,000	1,750,000	1,750,000	1,750,000
諸預り金	7,690,000	7,690,000	7,690,000	7,690,000
當座預金	963,330	1,101,332	963,330	1,101,332
引付金	330,000	330,000	330,000	330,000
他店手形	330,000	330,000	330,000	330,000
預金	330,000	330,000	330,000	330,000
所有有價証券	330,000	330,000	330,000	330,000
社債	330,000	330,000	330,000	330,000
公債	330,000	330,000	330,000	330,000
債券	330,000	330,000	330,000	330,000
營業用土地建物什器	330,000	330,000	330,000	330,000
所有動産	330,000	330,000	330,000	330,000
不動産	330,000	330,000	330,000	330,000
現金	330,000	330,000	330,000	330,000
不産	330,000	330,000	330,000	330,000
其他	330,000	330,000	330,000	330,000
共計	13,820,000	13,820,000	13,820,000	13,820,000

伊勢崎銀行 (群馬伊勢崎町)  
**資本金 二百萬圓**  
**拂込資本 百六十二萬圓**  
**諸積立金 三十五萬圓**

當行は大正七年十月資本金二百五十萬圓を以て設立され、前次發展して内容の充實を致し、十年には上毛野村(一、〇〇〇)前積立金(五〇〇)の三行を合併して二百五十萬圓を

群馬銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十二年		下十三年	
	期年	期年	期年	期年
資本金	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
諸積立金	3,500,000	3,500,000	3,500,000	3,500,000
諸預り金	7,690,000	7,690,000	7,690,000	7,690,000
當座預金	963,330	1,101,332	963,330	1,101,332
引付金	330,000	330,000	330,000	330,000
他店手形	330,000	330,000	330,000	330,000
預金	330,000	330,000	330,000	330,000
所有有價証券	330,000	330,000	330,000	330,000
社債	330,000	330,000	330,000	330,000
公債	330,000	330,000	330,000	330,000
債券	330,000	330,000	330,000	330,000
營業用土地建物什器	330,000	330,000	330,000	330,000
所有動産	330,000	330,000	330,000	330,000
不動産	330,000	330,000	330,000	330,000
現金	330,000	330,000	330,000	330,000
不産	330,000	330,000	330,000	330,000
其他	330,000	330,000	330,000	330,000
共計	13,820,000	13,820,000	13,820,000	13,820,000

上州銀行 (高崎市田町)  
**設立 大正八年六月**  
**資本金 三百三十一萬圓**  
**拂込額 百六萬圓**  
**總株數 六萬六千二百株(舊六千二百株)**

當行は大正八年六月の創立にして、同年十月高崎銀行、高崎積善銀行、上毛野村銀行の三行を合併し、次いで十一年七月藤岡銀行を、更に十二年八月安中銀行を何れも合併し、其の歴史は殆んど合併に依つて終結してゐる。現今重役は左の諸氏である。

- 取締役代表 小澤宗平
- 取締役 住谷常七郎
- 取締役 小林彌七郎
- 同 山田昌吉
- 同 川端元治
- 同 成田八百藏
- 同 井上保三郎
- 同 石井伊三郎
- 同 吉井梅次郎
- 取締役 櫻井伊兵衛
- 同 新井清兵衛
- 同 岸龜吉
- 同 嶋山次郎
- 同 柳澤庄平
- 同 松山真哉
- 同 須藤定八
- 同 中林源次郎
- 支配人 小笠原健之助

群馬縣農工銀行 (前橋市本町)  
**設立 明治三十一年三月**  
**資本金 二百萬圓**  
**拂込額 拂込済**  
**總株數 十萬株(新舊等分)**

當行は明治三十一年三月の創立にして、同年十月高崎銀行、高崎積善銀行、上毛野村銀行の三行を合併して設立す。

- 取締役代表 小澤宗平
- 取締役 住谷常七郎
- 取締役 小林彌七郎
- 同 山田昌吉
- 同 川端元治
- 同 成田八百藏
- 同 井上保三郎
- 同 石井伊三郎
- 同 吉井梅次郎
- 取締役 櫻井伊兵衛
- 同 新井清兵衛
- 同 岸龜吉
- 同 嶋山次郎
- 同 柳澤庄平
- 同 松山真哉
- 同 須藤定八
- 同 中林源次郎
- 支配人 小笠原健之助

株式 上毛貯蓄銀行 (前橋市山町二)

設立 大正十年七月
資本金 二百五十萬圓
拂込額 二十五萬圓
總株數 二萬株
重役 (代表取締役) 佐藤重平、江原三郎、平田健太郎、藤井新兵衛、小澤宗平、星野源右門、大島戸一(監査)大澤福太郎、清水岩次郎、星野銀治、山田昌吉、若原喜一郎(支配)岡崎秀雄

20、山梨縣ノ部

株式 若尾銀行 (甲府市八日町)
資本金 五百萬圓(拂込済)
諸積立金 九十七萬圓
諸預り金 二千二百六十萬圓

關東財閥の主要体系を成せるもの、それ甲州系統か、而して甲州關東に云はゞ若尾一門を中心とせし一派たること勿論である。其關係せる事業、凡そ幾十種なるかを知らず云

株式 若尾銀行營業成績比較表

Table with 4 columns: 十二期, 十三期, 十四期, 十五期. Rows include 負債ノ部 (Capital, Reserves, Loans), 資産ノ部 (Assets), and 其他 (Other). Total assets and liabilities are 6,650,000 for all periods.

株式 第十銀行 (前橋市常盤町)

資本金 五百萬圓(拂込済)
諸積立金 百七十萬圓
諸預り金 一千二百二十萬圓

大内容の要なる銀行として一般から信用されてゐる。而して一面貸出に於ても諸積立、手形、常座等の諸貸出に別引手形、コールローン等を加へ兩者合して千五百九十八萬餘圓に達してゐるが有價證券、現金、並に其他所有財産等に於ては四百二十餘萬圓を有するから、貸出超過に對する保證は十分であり、これに依つて内容の堅實性を對するものでは決してないのである。其の證據には利息引料等の収入毎期百萬圓に餘り、收支計算に於て三十餘萬圓の純益を挙げ、各期を通じて年一割の好配當を維持してゐる點に徴するも

株式 第十銀行營業成績比較表

Table with 4 columns: 第五十一期, 第五十六期, 第五十七期, 第五十八期. Rows include 負債ノ部 (Capital, Reserves, Loans), 資産ノ部 (Assets), and 其他 (Other). Total assets and liabilities are 10,000,000 for all periods.

其の業績の良好に内容の充實程度を窺知するに十分である。要するに山梨縣下に於ける代表銀行としての地位を確立してゐるものと觀察すべきである。現重役は左の諸氏で何れも地方を代表するの人物たるは無い。
取締役 矢島榮助 常務取締役 細田武雄
取締役 生原忠右衛門 取締役 雨宮五郎
同 名取忠愛 同 山本彦吉
監査役 佐竹源造 監査役 成島治平

株式 有信銀行 (甲府市市町町)

資本金 二百萬圓(拂込済)
諸積立金 五十三萬圓
諸預り金 七百十九萬圓

當行は明治十八年七月の創立で資本金、二十、若尾に遠く及ばないが根柢深く扶植した信用力は敢て他に譲らない強さを有してゐる。常に堅實なる營業方針を執へ、二大強

株式 有信銀行營業成績比較表

Table with 4 columns: 下十三期, 下十四期, 下十五期, 下十六期. Rows include 負債ノ部 (Capital, Reserves, Loans), 資産ノ部 (Assets), and 其他 (Other). Total assets and liabilities are 10,000,000 for all periods.

敵を前にして巴戦を試みつゝ、業績の大を前へ内容益々充實して今や七百二十萬圓の預金を有し受々たる戦陣を張つてゐるのである。試みに其の重役諸氏の顔面を見れば、如何に信用するに足るものであるかを知らるに十分であらう。即ち左の諸氏である。
取締役 大木 喬命 常務取締役 寺田喜平治
取締役 河口善之助 取締役 内藤守兵衛
同 寺田忠三郎 同 横 雅朝
監査役 小林八右衛門 監査役 渡邊澤次郎



明治十年十月を以て創立第十九銀行を創立せられたに其の端を以て、爾來年々開するに茲に四十八年、其間堅實主義を以て著々其の地歩を進めて、無事不撓の業績を樹け、常に下層業界の任に堪し其の地位を固め、よく健全なる発展を遂げ、共に自らの亦其の内容を極度に充實し、歐戰好況期以來、旭大の度を加へて今日に及んだのである。左に歐戰前戦時及戦後の反動期以來今日に至る間の業績を比較して見よう。(単位千圓)

公積	資本	積立	預り	貸出	純益
二年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
八年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
十二年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
十四年上	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

株式会社 第十九銀行 營業成績比較表

負債ノ部	第九十三期	第九十五期	第九十六期
資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
公積金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未償還資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
その他	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他共合計	7,750,000	7,750,000	7,750,000

株式会社 中信銀行 (長野市上田町)

株式会社 長野農工銀行 (長野市上田町)

當行は明治十二年一月を以て創立され、銀行各同の上にある記帳を作り上げた事、其の功を稱へなければならぬ。近時銀行各同の喧しき折衝、小細事を一せしめて有力なる大資本の銀行を設立する事、斯業の健康なる発達を期する所以であるから、此意味に於て、同行の出現は頗る有益の施設である云はねばならぬ。十四年七月には、旭大川邊銀行(二十萬圓)を買収した、現今一千三百餘萬圓の預金を有し、縣下第三位の銀行として一般から非常な信頼を蒙られてゐる。現任重役は左の諸氏である。

當行は明治三十一年五月の創立にして、爾來其の職能たる地方産業開發に努力し、發達助成に盡す處頗る多く、一而業績年々進歩に著しきを得、地方農工銀行中に於て出色の成績を挙げ、今日に至つた。現今六百餘萬圓の資本金を四百五十萬圓まで増進し、前後四十八回に及び、一千三百五十一萬二千餘圓の債券を發行し、現在高八百六十五萬餘圓に達して居る。而して、千八百八十二萬五千餘圓を貸出し、收支計算に於ては、三十三萬餘圓の純利益を計上し、九年九分の株主配當を行つてゐるのである。現重役並に十四年上期末現在營業成績主要科目は次の如くである。

株式会社 中信銀行 營業成績比較表

資産ノ部	第十二期	第十三期	第十四期
未償還資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
手形	1,000,000	1,000,000	1,000,000
貸付	1,000,000	1,000,000	1,000,000
他	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他共合計	7,750,000	7,750,000	7,750,000

株式会社 長野農工銀行 (長野市上田町)

株式会社 長野農工銀行 (長野市上田町)

當行は明治三十一年五月の創立にして、爾來其の職能たる地方産業開發に努力し、發達助成に盡す處頗る多く、一而業績年々進歩に著しきを得、地方農工銀行中に於て出色の成績を挙げ、今日に至つた。現今六百餘萬圓の資本金を四百五十萬圓まで増進し、前後四十八回に及び、一千三百五十一萬二千餘圓の債券を發行し、現在高八百六十五萬餘圓に達して居る。而して、千八百八十二萬五千餘圓を貸出し、收支計算に於ては、三十三萬餘圓の純利益を計上し、九年九分の株主配當を行つてゐるのである。現重役並に十四年上期末現在營業成績主要科目は次の如くである。

負債ノ部	第十二期	第十三期	第十四期
資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
公積金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未償還資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
その他	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他共合計	7,750,000	7,750,000	7,750,000

其他共合計 二五〇、〇〇〇  
 拂込未済資本 一五〇、〇〇〇  
 年賦貸付 一五、四四三  
 定期貸付 一、四七四、四〇六  
 代理貸付 三〇八、八四一  
 短期引手形 一三九、六〇〇  
 コーポレーション 一八七、四七三  
 所有有價証券 六四五、〇〇〇  
 所有不動産 三九〇、八六七  
 所有土地建物什器 八、一〇二  
 所有金 一〇、八七九  
 現金 二七、一四四  
 其他共合計 二五、四二二、七五七

株式 小諸銀行 (北佐久郡小諸町)  
 資本金 二百萬圓  
 拂込額 二百萬圓  
 諸積立金 三十六萬圓  
 諸預り金 四百七十萬圓

長野縣の經濟力を大ならしむる上に佐久郡一帯を境外視する能はないことは云ふまでもない。それ程經濟的發展を遂げてゐる同地方、殊に小諸町を中心とする一帯に金融機關の發達してゐる事も亦説明の要ないのである。明治十四年四月、早くも銀行事業を創設し地方産業の隆興に資し其の圓滿なる發展を助長した功勞者は、實に株式會社小諸銀行であらう。同銀行は創業以來穩健者なる經營方針を取りながら、而も産業振興の爲には常に積極的政策に出で、之れを援護し、其の消長と共に行運の隆替を同じくして今日に及んだのであるが、歐戰以來長足の進歩發展を遂げて戦前五十萬圓の資本に過ぎなかつたものが、好況時には百萬圓に増資され、今や五百萬圓に達する準備をして二百萬圓に増資され、今や五百萬圓に達する準備を有し、七百五十萬圓の貸出を行ひ、而も其の總てが確實性に富む貸出のみならずを以て業績の上に良好の結果を齎し、収入利息引料等の收入多額に上り、毎期よく二十萬圓近き純利益を計上して一年一割の株主配當を持續してゐる隆盛振りに堪へざるを得ない。これを要するに同行の營業内容は、多年の信用に基く社會の信頼厚く、預金増の一途を辿り利潤亦年々増加して行く實狀に在り、其前途は頗る有望なるべしと觀察されてゐる。現任重役は左の諸氏である。

頭取 小野榮左衛門 常務取締役 柳澤 憲一  
 常務取締役 小林 克巳 取締役 柳澤 順三  
 取締役 小山重右衛門 監査役 大塚 宗次  
 監査役 小山重三郎

株式 佐久銀行 (北佐久郡岩村町)  
 設立 明治十四年五月  
 資本金 三百萬圓  
 拂込額 二百萬圓

株式 小諸銀行營業成績比較表

項目	下十二年	下十三年
資本金	200,000	200,000
拂込額	200,000	200,000
諸積立金	360,000	360,000
諸預り金	470,000	470,000
其他共合計	2,500,000	2,500,000

重役 六高株(舊二萬株)  
 (頭取)堀川幸太(常務)森泉三代太、阿部  
 美雄(取締役)木内宗三郎、神津邦太郎(監  
 査)中村真太郎、前田勲、堀川一郎

株式 佐久銀行營業成績比較表

項目	下十二年	下十三年
資本金	300,000	300,000
拂込額	200,000	200,000
諸積立金	360,000	360,000
諸預り金	470,000	470,000
其他共合計	2,500,000	2,500,000

株式 信産銀行 (下伊那郡飯田町)  
 設立 明治三十三年十一月  
 資本金 二百萬圓  
 拂込額 百二十五萬圓

株式 信産銀行營業成績比較表

項目	下十三年	下十四年
資本金	200,000	200,000
拂込額	125,000	125,000
諸積立金	360,000	360,000
諸預り金	470,000	470,000
其他共合計	2,500,000	2,500,000

重役 四萬株(新舊等分)  
 (頭取)瀧澤清圓(常務)市瀬明(取締役)山下  
 松太郎、萩元健造、前澤明文、木出善四  
 郎、代田市郎(監査)五十君新太郎、杉山  
 善九郎、野原文四郎

株式 信産銀行營業成績比較表

項目	下十三年	下十四年
資本金	200,000	200,000
拂込額	125,000	125,000
諸積立金	360,000	360,000
諸預り金	470,000	470,000
其他共合計	2,500,000	2,500,000





萬圓の預金に對する保證には十分過ぎるのである。此の故にこそ収入利息、割引料等の増加を見るに至り、隨つて利益金増定の増進となり、毎期八十餘萬圓の純利益（繰越金を別とする）を挙げ、利益金の四割以上の準備積立を保持しながら、尙且つ一年一割の株主配當を保持し得る所以である。此の觀じれば同様の業績は眞に優良なるを知るに同様に、其の内容が如何に充實してゐるかを窺知するに難からぬであらう。思はれる。而して此の如く良好の業績を誇り得る所以のものには、要するに縣下最古銀行として多年培養し來つた絶大な信用力の然らしむること勿論であるが、而も亦種々善實を信託して經營施設しき得、漸進的に牢固たる基礎を築き上げたる歴代重役並びに資本運用の妙手を活躍し來つた直接經營擔當者の不斷の努力を稱したる點も亦幸ひ難

### 株式第四銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十二年	下十三年	下十四年	下十五年
資本金	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000
公積金	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
特別當座預金	6,200,000	6,200,000	6,200,000	6,200,000
定期預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
再割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
仕入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他共合計	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000

き事實とせねばならぬ。現任重役は左の諸氏で何れも地方の有力者たるが、就中白勢頭取は同地方唯一の名望家であり財界の大元老として名高く、あらゆる事業に交渉するに依つて發達大成するに備せらるゝ程の勢力家である。宇野重忠亦地方財界の代表的人物、東京一ツ橋を出でた新智識、夙に實業界に入り同業重役として此處に參與し現今事務の重任に處し益々業績隆興を策してゐる。

### 株式長岡銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十二年	下十三年	下十四年	下十五年
資本金	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000
公積金	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
特別當座預金	6,200,000	6,200,000	6,200,000	6,200,000
定期預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
再割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
仕入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他共合計	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000

六十九銀行と共に長岡市に於ける主力銀行であり、其預金額有餘に於ては彼を抜く五百餘萬圓、縣下第二位に處す明治二十九年十月を以て創立され、堅實なる營業方針はよく世人の信用を得し、今や確乎不拔の基礎を築き地方産業界の爲に奮與する處頗る多く、縣下を代表する堂々たる銀行となつたのである。今歐戰以前に於ける資本其他營業主要科目の推移を知るべく表示すれば次の如くである。（單位千圓）

### 株式長岡銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十二年	下十三年	下十四年	下十五年
資本金	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000
公積金	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
特別當座預金	6,200,000	6,200,000	6,200,000	6,200,000
定期預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
再割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
仕入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他共合計	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000

### 株式六十九銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十二年	下十三年	下十四年	下十五年
資本金	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000
公積金	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
特別當座預金	6,200,000	6,200,000	6,200,000	6,200,000
定期預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
再割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
仕入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他共合計	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000

新派縣三天銀行の一として隆々たる業績を挙げつゝある六十九銀行は、創立第六十九銀行にして明治十一年四月を以て創設された古き歴史を有する銀行である。明治三十一年四月に以て滿期と同時に株式會社に組織を變更し、此處に民間商業銀行として其の營業一切を繼承したのであるが、爾來經營方針宜しきを得たるに、多年培養したる信用力を以て行運日進なる、今や資本金一千三百萬圓の大銀行として縣下有数の堅實なる基礎を誇るに至つたのである。試みに歐戰前後並に反動期以來の同業成績中主要科目を比較對照すれば次の如き數字を示し得る。（單位千圓）

### 株式六十九銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十二年	下十三年	下十四年	下十五年
資本金	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000
公積金	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
特別當座預金	6,200,000	6,200,000	6,200,000	6,200,000
定期預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
再割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
仕入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過割引	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他共合計	11,300,000	11,300,000	11,300,000	11,300,000

**特別當座預金**  
 定期預金 三、六〇〇、〇〇〇  
 通知預金 四、〇〇〇、〇〇〇  
 其他預金 三、〇〇〇、〇〇〇  
 借入金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 再割引手形 一、〇〇〇、〇〇〇  
 他店引手形 一、〇〇〇、〇〇〇  
 仕掛引手形 一、〇〇〇、〇〇〇  
 未経過利息 一、〇〇〇、〇〇〇  
 未経過引利息 一、〇〇〇、〇〇〇  
 前期繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 常期繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 其他共合計 三、六〇〇、〇〇〇

**負債ノ部**  
 未償還資本 一、〇〇〇、〇〇〇  
 諸債金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 公積金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 特別當座預金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 定期預金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 通知預金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 其他預金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 借入金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 再割引手形 一、〇〇〇、〇〇〇  
 他店引手形 一、〇〇〇、〇〇〇  
 仕掛引手形 一、〇〇〇、〇〇〇  
 未経過利息 一、〇〇〇、〇〇〇  
 未経過引利息 一、〇〇〇、〇〇〇  
 前期繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 常期繰越金 一、〇〇〇、〇〇〇  
 其他共合計 三、六〇〇、〇〇〇

**株式 百三十九銀行** (高田市英庫町)  
 資本金 二百六十八萬五千圓  
 拂込額 百七十三萬圓  
 諸積立金 二十二萬圓  
 諸預り金 七百七十五萬圓

當行は明治十二年二月を以て百三十九銀行として創立せられたる古き歴史を有してゐる。歐戰以來額に内容の拡大を遂げ、現今二百六十八萬五千圓の資本を有し、七百七十五萬圓の預金を抱擁する信用高き銀行となつたのである。毎期十

株式百三十九銀行營業成績比較表

項目	十二期	十三期
特別當座預金	3,600,000	4,000,000
定期預金	4,000,000	3,000,000
通知預金	3,000,000	3,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000
再割引手形	1,000,000	1,000,000
他店引手形	1,000,000	1,000,000
仕掛引手形	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000
未経過引利息	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000
常期繰越金	1,000,000	1,000,000
其他共合計	3,600,000	3,600,000
未償還資本	1,000,000	1,000,000
諸債金	1,000,000	1,000,000
公積金	1,000,000	1,000,000
特別當座預金	1,000,000	1,000,000
定期預金	1,000,000	1,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000
其他預金	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000
再割引手形	1,000,000	1,000,000
他店引手形	1,000,000	1,000,000
仕掛引手形	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000
未経過引利息	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000
常期繰越金	1,000,000	1,000,000
其他共合計	3,600,000	3,600,000

**株式 柏崎銀行** (新潟県柏崎町)  
 資本金 二百九十萬圓

當行は明治十五年四月の創立にして行勢の發展を遂げ、大正十一年十一月には同縣下野銀行を合併して五十萬圓を増資し、現今總資本二百九十萬圓、拂込額百七十萬圓を以て地方金融の潤滑を圖り、業績隆々たるものがある。毎期十餘萬圓の純益を計上し、年九分の株主配當を持續して信譽を博すること頗る厚い。現任重役左の如し

株式柏崎銀行營業成績比較表

項目	十二期	十三期
特別當座預金	3,600,000	4,000,000
定期預金	4,000,000	3,000,000
通知預金	3,000,000	3,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000
再割引手形	1,000,000	1,000,000
他店引手形	1,000,000	1,000,000
仕掛引手形	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000
未経過引利息	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000
常期繰越金	1,000,000	1,000,000
其他共合計	3,600,000	3,600,000
未償還資本	1,000,000	1,000,000
諸債金	1,000,000	1,000,000
公積金	1,000,000	1,000,000
特別當座預金	1,000,000	1,000,000
定期預金	1,000,000	1,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000
其他預金	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000
再割引手形	1,000,000	1,000,000
他店引手形	1,000,000	1,000,000
仕掛引手形	1,000,000	1,000,000
未経過利息	1,000,000	1,000,000
未経過引利息	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000
常期繰越金	1,000,000	1,000,000
其他共合計	3,600,000	3,600,000

取締役 中野正七  
 取締役 安藤正治  
 取締役 村山眞雄  
 取締役 山下新造  
 取締役 金子桂吉  
 取締役 岡田吉太郎  
 取締役 石塚常榮

**株式 新潟銀行** (新潟市上大河町通八番町)  
 資本金 四百十萬圓  
 拂込額 三百六十萬圓  
 總株數 八萬二千株(舊四萬二千株)

當行は明治三十年三月の創立にして新潟市に於ける第四銀行に次ぐ大銀行として信用を拂はれてゐる。時勢の進展に伴ひ、大正十二年四月同縣下五泉吉田銀行を合併して十萬圓を加へ、總額四百十萬圓となし、以て今日に及んだのである。營業歴史の古いこと、経営方針の堅實なるを以て、業務は益々擴大して前途大いに望まれてゐる。現任重役は左の諸氏である。

取締役 齋藤喜十郎  
 取締役 大塚益太郎  
 取締役 山口誠太郎  
 取締役 伊藤九郎太  
 取締役 小澤七三郎  
 専務取締役 齋藤康之助  
 取締役 齋藤吉作  
 取締役 中野忠太郎  
 監査役 田代三吉  
 吉田安四郎

**株式 小千谷銀行** (北魚沼郡小千谷町)  
 設立 明治十四年四月

**株式 三條銀行** (南魚沼郡三條町)  
 設立 明治十四年五月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 百十四萬圓  
 總株數 三萬株(舊一萬二千株)  
 (頭取)西脇三郎(専務)井口謙三郎、西脇謙太郎(取締役)高橋友二郎、田村三右衛門、田中市兵衛(監査)山本卯兵衛、西脇大助、佐藤常司

**株式 村上銀行** (岩手郡村上町)  
 設立 明治十一年十一月  
 合併 大正十二年十一月  
 資本金 八十二萬五千圓  
 總株數 三萬株(舊一萬二千株)  
 (頭取)廣川長八(取締役)源川萬吉、廣川貞吉、鈴木七實(同支配)天橋敬作(監査)岩崎又造、大久保喜藏、金子其六

株式 村上銀行  
 設立 明治十一年十一月  
 合併 大正十二年十一月

岩船銀行(三十萬圓)を合併す  
**資本金** 百三十萬圓  
**拂込額** 八十二萬五千圓  
**總株數** 二萬六千株(舊一萬株)  
 (專務)中山省藏(取締)重藤龍雄、坂垣友次郎、松阪平松、吉田吉右衛門(監査)石田與平治、渡邊三左衛門、鈴木太郎左衛門、岡井元三郎(支配)前田仁太郎

長岡商業銀行 (長岡市美一町)  
**設立** 大正七年三月  
**合併** 大正十一年十一月  
 長岡信託合資會社を合併す  
**資本金** 百二十萬圓  
**拂込額** 八十二萬五千圓  
**總株數** 二萬四千株(舊一萬四千株)  
 (頭取)永川清之輔(常務)川上佐次郎(取締)山口健造、櫻田半四郎、小阪傳之助、池田忠藏、松本喜之七(監査)鷲尾徳之助、田村教太郎、遠藤清平(支配)富永金三郎

梶尾銀行 (吉野郡梶尾町)  
**設立** 明治十六年二月  
**資本金** 百萬圓  
**拂込額** 八十七萬五千圓  
**總株數** 二萬株(新舊等分)  
 (頭取)今成宗七郎(取締)出村清次郎、那須山佐、酒井又兵衛、川上淳一郎、佐藤竹治郎(監査)小林早太郎、那須貞兵衛(支配)稲田源太

加茂銀行 (南河原郡加茂町)  
**設立** 明治三十年十月  
**資本金** 百萬圓  
**拂込額** 七十五萬圓  
**總株數** 二萬株(新舊等分)  
 (頭取)市川辰雄(專務)淺見龍吉(取締)廣末郎、皆川忠藏(監査)渡邊貞五郎、石川文吉

今町銀行 (南河原郡今町)  
**設立** 明治二十九年六月  
**資本金** 百萬圓  
**拂込額** 五十七萬五千圓  
**總株數** 二萬株(舊六千株)  
 (頭取)新田定五郎(專務)藤田十次郎(取締)川文吉

長岡貯蓄銀行 (長岡市美五町四四四)  
**設立** 大正十年十月  
**資本金** 百萬圓  
**拂込額** 二十五萬圓  
**總株數** 一萬株  
 (頭取)山口誠太郎(常務)川上佐次郎、櫻田半四郎(取締)長部松三郎、渡谷善作、小川清之輔、小野龜太郎、近藤助次郎、廣井一(監査)遠藤六太郎、鷲尾徳之助、山田藤吉郎

23、富山縣ノ部  
 十二銀行 (本店富山市役町)  
**資本金** 一千萬圓  
**拂込資本** 八百七十五萬圓  
**諸積立金** 二百四十一萬圓  
**諸預り金** 三千六百萬圓

沿革及資本異動 本縣に於ける銀行数は甚だ多く、總數四十一行、此の拂込資本金四百五十萬圓に達し、一行平均百萬圓の拂込資本に相當するから、其の内容は如何れも比較的充實したものが多し。此中に在りて特然獨立し預金三千萬圓以上を有する全國主要銀行の一つに伍して、業隆隆々たるものあるは實に資本金一千萬圓の十二銀行である。同種は明治十一年八月富山第一十三國立銀行として創立し、其後金澤第十二國立銀行(明治十年七月設立)を合併して其の名稱を彌用したのであるが、同三十年七月に至り獨立營業滿期となつたので株式會社十二銀行と改稱し、其の業務一切を繼承し、今日に及んだのである。此間時流の推移に順應して、屢次資本の増加を行ひ、明治二十一年頃五十萬圓に過ぎなかつたものが、戦前の大正二年には三百萬圓となり、戦時好況期たる同八年には五百萬圓、次いで十年一千万圓となり、此間に北陸商業銀行を合併する等其の資本力は頗る強大なものとなるに至つた。現今八百七十五萬圓の拂込で三千六百餘萬圓の預金を有し、名實共に北陸地方の代表的銀行たるに恥ぢない實質を有してゐる。

戦前戦後の業績 今同行發展の速度を知る爲めに戦前前及び好況期以降最近に至る間の營業成績を比較して見るに次の如く表示し得る。(單位千圓)  
 資本 拂込 積立 預り 貸出 純益  
 一二年下 3,000 10,000 10,000 10,000 10,000 1,000  
 八九年下 3,000 10,000 10,000 10,000 10,000 1,000  
 十三年下 10,000 30,000 30,000 30,000 30,000 3,000  
 十四年上 10,000 30,000 30,000 30,000 30,000 3,000

右表に於て其の進歩を知り得る如く、各項目共に著しき増進を示し、純益金の如きも前期純益を凌駕して常に數十萬圓を算し、各期を通じて一年一別の株主配當を行ひ得た業績は眞に優良である云はばはばなぬ。  
 現任役員 叙上の如く今と同職を代表する銀行にしてのみでなく、其の實質に於て本邦主要銀行に比して激進進歩を見せたる信用力と確乎不拔の業績と、而して激進たる經營的施設とは共に相俟つて其の前途を更に幸福ならしむべきを疑はないのであるが、同行今日の大を致せる所以のものは、元より多年培養し來つた穩健著實なる經營方針に依る。

十二銀行營業成績累年比較表

項目	第五十期 大正十一年 六月末	第五十一期 大正十二年 六月末	第五十二期 大正十三年 六月末	第五十三期 大正十四年 六月末	第五十四期 大正十五年 六月末	第五十五期 大正十六年 六月末
資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
積立	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
預り	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
貸出	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
純益	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

項目	第五十期 大正十一年 六月末	第五十一期 大正十二年 六月末	第五十二期 大正十三年 六月末	第五十三期 大正十四年 六月末	第五十四期 大正十五年 六月末	第五十五期 大正十六年 六月末
未償資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
未償債	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
未償利息	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
未償其他	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
未償總計	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000

前当期損益金	三、六六六、七〇〇	三、六六六、七〇〇	三、六六六、七〇〇
前期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
当期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
当期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
当期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
当期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
当期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
当期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
当期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
当期繰越金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

**株式 高岡銀行** (高岡市守山町)  
**資本金** 七百四十二萬五千圓  
**拂込額** 七百七十五萬圓  
**諸積立金** 百七十五萬圓  
**諸預り金** 一千五百九十萬圓

當行は大正九年四月を以て高岡銀行、高岡共立銀行及び共進銀行の三行合同して資本金七百四十二萬五千圓の新銀行を設立されたものであり、恰かも歐戰好況期の最高潮に達した時代なりしを以て業績著しく、預金の如きも夙に一千

萬圓を突破し、現今一千六百萬圓に達する盛況に在り、貸出亦二千餘萬圓を算し、業績頗る良好にして富山市に本據を有する十二銀行に次ぐ縣下第二位の有力銀行たり、一般の信頼甚だ厚く、前途多々の望を賜せられてゐる。現任重役は左の諸氏である。

株式 高岡銀行 營業成績比較表

負債ノ部	下十二年		下十三年	
	前期	後期	前期	後期
資本金	7,425,000	7,425,000	7,425,000	7,425,000
諸積立金	1,750,000	1,750,000	1,750,000	1,750,000
諸預り金	15,900,000	15,900,000	15,900,000	15,900,000
未拂込資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未払利息	100,000	100,000	100,000	100,000
未払手数料	50,000	50,000	50,000	50,000
未払引当金	200,000	200,000	200,000	200,000
未払税金	100,000	100,000	100,000	100,000
未払雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
未払その他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他共合計	1,550,000	1,550,000	1,550,000	1,550,000
負債ノ部合計	27,675,000	27,675,000	27,675,000	27,675,000
資産ノ部	下十二年		下十三年	
	前期	後期	前期	後期
未払資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未払利息	100,000	100,000	100,000	100,000
未払手数料	50,000	50,000	50,000	50,000
未払引当金	200,000	200,000	200,000	200,000
未払税金	100,000	100,000	100,000	100,000
未払雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
未払その他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他共合計	1,550,000	1,550,000	1,550,000	1,550,000
資産ノ部合計	27,675,000	27,675,000	27,675,000	27,675,000

**株式 中越銀行** (東越前郡出羽町)  
**資本金** 五百萬圓  
**拂込額** 三百五十萬圓  
**諸積立金** 百五十萬圓  
**諸預り金** 七百五十萬圓

當行は明治二十七年十二月を以て創立され、爾來漸次内容を擴大し、歐戰前二百萬圓なりし資本金を現況期に入ると共に一躍五百萬圓に増加し、地方産業界に資金の供給に任じ其の發達を助長し大いに寄與する處があつた。現今五百萬圓、九百八十餘萬圓の貸出を行ひ、一年一割の株主配當を維持する

株式 中越銀行 營業成績比較表

負債ノ部	下十二年		下十三年	
	前期	後期	前期	後期
資本金	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
諸積立金	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
諸預り金	7,500,000	7,500,000	7,500,000	7,500,000
未払資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未払利息	100,000	100,000	100,000	100,000
未払手数料	50,000	50,000	50,000	50,000
未払引当金	200,000	200,000	200,000	200,000
未払税金	100,000	100,000	100,000	100,000
未払雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
未払その他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他共合計	3,400,000	3,400,000	3,400,000	3,400,000
負債ノ部合計	17,400,000	17,400,000	17,400,000	17,400,000
資産ノ部	下十二年		下十三年	
	前期	後期	前期	後期
未払資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未払利息	100,000	100,000	100,000	100,000
未払手数料	50,000	50,000	50,000	50,000
未払引当金	200,000	200,000	200,000	200,000
未払税金	100,000	100,000	100,000	100,000
未払雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
未払その他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他共合計	3,400,000	3,400,000	3,400,000	3,400,000
資産ノ部合計	17,400,000	17,400,000	17,400,000	17,400,000

**株式 第四十七銀行** (富山市中町)  
**資本金** 三百萬圓  
**拂込額** 二百五十五萬圓  
**諸積立金** 五十萬圓  
**諸預り金** 四百七十萬圓

當行は明治十一年十月を以て創立第四十七銀行として創業され、後營業漸次同時に株式組織に變更し、業務一切を繼承し、時に應じ機に臨みて漸次内容を擴大し戦前百一十萬圓の資本金を歐戰好況期に際し三百萬圓に増資して今日に及ん

株式 第四十七銀行 營業成績比較表

負債ノ部	下十二年		下十三年	
	前期	後期	前期	後期
資本金	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
諸積立金	500,000	500,000	500,000	500,000
諸預り金	4,700,000	4,700,000	4,700,000	4,700,000
未払資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未払利息	100,000	100,000	100,000	100,000
未払手数料	50,000	50,000	50,000	50,000
未払引当金	200,000	200,000	200,000	200,000
未払税金	100,000	100,000	100,000	100,000
未払雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
未払その他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他共合計	3,400,000	3,400,000	3,400,000	3,400,000
負債ノ部合計	11,400,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000
資産ノ部	下十二年		下十三年	
	前期	後期	前期	後期
未払資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未払利息	100,000	100,000	100,000	100,000
未払手数料	50,000	50,000	50,000	50,000
未払引当金	200,000	200,000	200,000	200,000
未払税金	100,000	100,000	100,000	100,000
未払雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
未払その他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他共合計	3,400,000	3,400,000	3,400,000	3,400,000
資産ノ部合計	11,400,000	11,400,000	11,400,000	11,400,000

だのである。近時預金四百七十餘萬圓、諸貸出六百二十餘萬圓を算し、毎期年九分の配當を行ひ業績頗る見るべきものがある。現重役は左の諸氏で何れも有数の實業家であり、就中古川頭取、金井取締役等は縣下代表的の名士であり、出水常務は多年支配人として同行今日の隆昌を致さしめた経営の手腕家である。

頭取 古川小三郎 取締役 金井久兵衛  
 取締役 澤田金太郎 同 井上清孝  
 同 森庄太郎 常務取締役 出水寛藏  
 同 内野信一 監査役 金田又左衛門  
 監査役 三浦彌三郎

所有動産	100,000	100,000
現金	100,000	100,000
預金	100,000	100,000
其他	100,000	100,000
合計	400,000	400,000

株式会社 富山商業銀行 (富山市支店)

資本金 百 萬 圓  
 拂込額 四十七萬五千圓  
 諸積立金 二十八萬五千圓  
 諸預り金 二百八十三萬圓

當行は明治二十六年一月の創業にして小口商業金融機關たるの任務を帯び、堅實主義を唯一の信條として經營され來つた爲め内容漸次堅實の度を加へ、歐戰好況期に際會するも同

株式会社 富山商業銀行 營業成績比較表

項目	下十二期年	下十三期年
資本金	1,000,000	1,000,000
拂込額	475,000	475,000
諸積立金	285,000	285,000
諸預り金	2,830,000	2,830,000
負債ノ部	3,600,000	3,600,000
未拂込資本	1,000,000	1,000,000
諸積立金	285,000	285,000
諸預り金	2,315,000	2,315,000
其他	0	0
合計	3,600,000	3,600,000

株式会社 岩瀬銀行 (新川郡岩瀬町)

資本金 二百 萬 圓  
 拂込額 百二十五萬圓  
 諸積立金 二十五萬圓  
 諸預り金 二百七十萬圓

當行は明治三十三年三月の創業にして歐戰前まで五十萬圓の資本をもち、漸次好況に入るに伴ひ百萬圓をなし、更に

株式会社 岩瀬銀行 營業成績比較表

項目	下十二期年	下十三期年
資本金	2,000,000	2,000,000
拂込額	2,500,000	2,500,000
諸積立金	2,500,000	2,500,000
諸預り金	2,700,000	2,700,000
負債ノ部	7,700,000	7,700,000
未拂込資本	2,000,000	2,000,000
諸積立金	2,500,000	2,500,000
諸預り金	3,200,000	3,200,000
其他	0	0
合計	7,700,000	7,700,000

株式会社 越中銀行 (富山市越前町)

資本金 三百 萬 圓  
 拂込額 二百萬圓  
 諸積立金 十八萬圓  
 諸預り金 二百五萬圓

當行は大正二年五月の創立にして幾干もなく歐戰好況期に際會し、財界の膨脹に伴ひ百萬圓の資本金を更に三百萬圓をなし以て現今に及んだのであるが、富山市中には同格の本店銀行數行あり自然營業上の競争著しく、多大の判裁を受け向

株式会社 越中銀行 營業成績比較表

項目	下十二期年	下十三期年
資本金	3,000,000	3,000,000
拂込額	2,000,000	2,000,000
諸積立金	1,800,000	1,800,000
諸預り金	2,500,000	2,500,000
負債ノ部	9,300,000	9,300,000
未拂込資本	3,000,000	3,000,000
諸積立金	1,800,000	1,800,000
諸預り金	4,500,000	4,500,000
其他	0	0
合計	9,300,000	9,300,000

上し易き反面に經營上の苦心を存する譯にて預金吸收に就ても勢ひ争奪戦を免る能はず、他府縣に比し一行平均吸收額の低下するは巴むなき現象であらうが、同行の如きは比較的幸運なるにも拘らず相當良好の業績を挙げ毎期年九割の配當を持續して居る點は重役諸氏の勞を多きとすべきであらう。重役左の如し。

- 頭取 内野信一
- 取締役 浅野長保
- 取締役 川除甚吉
- 同 長谷川平七
- 同 監査役 米澤與三郎
- 同 監査役 高山小兵衛
- 同 監査役 仲田正近

未経過引料 一六〇〇  
前期繰越金 一三六六  
其他共計 一五〇〇  
其他共計 一五〇〇

株式 永守銀行 (總行東京四町四番地)  
設立 明治三十八年十月  
資本金 百 萬 圓  
拂込額 九 十 萬 圓

總株數 二萬株(新舊等分)  
重役 (頭取)永守兵太郎(取替)奥野義典・平井嘉之・永守安太郎・花伯庄貞(監査)赤組安牛松・青木善六

株式永守銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十二年	下十三年	下十三年	下十三年
資本	100,000	100,000	100,000	100,000
公積金	100,000	100,000	100,000	100,000
特別積立	100,000	100,000	100,000	100,000
定期預金	100,000	100,000	100,000	100,000
通知預金	100,000	100,000	100,000	100,000
其他預金	100,000	100,000	100,000	100,000
借入金	100,000	100,000	100,000	100,000
引当金	100,000	100,000	100,000	100,000
其他	100,000	100,000	100,000	100,000
其他共計	100,000	100,000	100,000	100,000

株式 神澤銀行 (重慶通商銀行)  
資本金 百五十萬圓  
拂込額 八十二萬五千圓  
積立金 二十六萬圓  
預り金 百四十五萬圓

同縣下の有力者神澤家の事業、初め合名社なりしを大正七年六月株式會社に組織變更し百五十萬圓の資本をなして現今

株式神澤銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十三年	下十四年	下十三年	下十四年
資本	150,000	150,000	150,000	150,000
公積金	150,000	150,000	150,000	150,000
特別積立	150,000	150,000	150,000	150,000
定期預金	150,000	150,000	150,000	150,000
通知預金	150,000	150,000	150,000	150,000
其他預金	150,000	150,000	150,000	150,000
借入金	150,000	150,000	150,000	150,000
引当金	150,000	150,000	150,000	150,000
其他	150,000	150,000	150,000	150,000
其他共計	150,000	150,000	150,000	150,000

株式 伏木銀行 (對本都伏木町可)  
資本金 百五十萬圓  
拂込額 百五萬圓  
積立金 十五萬八千圓  
預り金 百六十七萬七千圓

當行は明治二十九年九月の創業にして伏木津唯一の金融機關たり、多年の穩健實業なる經營策功して信用頗る博く一

株式伏木銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十三年	下十四年	下十三年	下十四年
資本	150,000	150,000	150,000	150,000
公積金	150,000	150,000	150,000	150,000
特別積立	150,000	150,000	150,000	150,000
定期預金	150,000	150,000	150,000	150,000
通知預金	150,000	150,000	150,000	150,000
其他預金	150,000	150,000	150,000	150,000
借入金	150,000	150,000	150,000	150,000
引当金	150,000	150,000	150,000	150,000
其他	150,000	150,000	150,000	150,000
其他共計	150,000	150,000	150,000	150,000

株式 富山銀行 (富山市一町)  
資本金 百九十三萬七千五百圓  
拂込額 八萬株(舊二萬五千株)

(取替)荒木文平、久保理平、森田茂兵衛、八十島庄司、小野田八三郎、野村辰太(監査)藤井多喜雄、松田長一郎、西田厚良、松田愛蔵(支配)岩崎昭二

株式富山銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十三年	下十四年	下十三年	下十四年
資本	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
公積金	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
特別積立	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
定期預金	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
通知預金	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
其他預金	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
借入金	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
引当金	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
其他	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500
其他共計	1,937,500	1,937,500	1,937,500	1,937,500







良川銀行營業成績

Table showing financial performance of Ryo-ken Bank for the 14th year (1924). Includes assets, liabilities, and profit/loss details.

小松銀行

Table showing financial performance of Komatsu Bank for the 10th year (1924). Includes assets, liabilities, and profit/loss details.

田鶴濱銀行

Table showing financial performance of Tanakawabe Bank for the 15th year (1924). Includes assets, liabilities, and profit/loss details.

鳳至銀行

Table showing financial performance of Ho-ji Bank for the 31st year (1924). Includes assets, liabilities, and profit/loss details.

25、福井銀行

Table showing financial performance of Fukui Bank for the 25th year (1924). Includes assets, liabilities, and profit/loss details.

沿率及資本の移動 福井銀行は云々...

能登産業銀行 (能登郡七尾町一本杉町)
設立 大正十年十月
資本金 二百萬圓
拂込額 五十萬圓

歐戰前後の業績 叙上の如く長足の發展を遂げ來つた
同行が如何なる進歩を以て今日に達したかを一目瞭然たらし
むべく、歐戰前後より反動期以降に於ける業績を表示すれば
次の如き數字を示し得る(單位千圓)

Table showing assets and liabilities for various banks, including Fukui Bank and others.

福井銀行營業成績累年比較表

Table comparing the financial performance of Fukui Bank over several years (1918-1924).

**株式 大和田銀行** 表 貸借対照表

諸積立金	1,000,000	1,110,000	1,190,000
公積金	1,110,000	1,110,000	1,110,000
特別積立金	7,110,000	7,110,000	7,110,000
定期積立金	7,110,000	7,110,000	7,110,000
通知積立金	7,110,000	7,110,000	7,110,000
其他積立金	7,110,000	7,110,000	7,110,000
借入金	100,000	100,000	100,000
再割引手形	100,000	100,000	100,000
他店引当	100,000	100,000	100,000
仕掛金	100,000	100,000	100,000
未経過引当	100,000	100,000	100,000
前期繰越金	100,000	100,000	100,000
当期繰越金	100,000	100,000	100,000
其他共合計	3,366,666	3,366,666	3,366,666

貸出金  
 諸積立金 1,000,000  
 公積金 1,110,000  
 特別積立金 7,110,000  
 定期積立金 7,110,000  
 通知積立金 7,110,000  
 其他積立金 7,110,000  
 借入金 100,000  
 再割引手形 100,000  
 他店引当 100,000  
 仕掛金 100,000  
 未経過引当 100,000  
 前期繰越金 100,000  
 当期繰越金 100,000  
 其他共合計 3,366,666

北陸唯一の要港敦賀に本據を有し、速く大阪に其羽翼を伸張し、よく一千三百六十餘萬圓の預金を有し、下第二位の有力銀行として知られた大和田銀行は、福井縣に於ける有力の素封家たる大和田一家一門の經營に依り、明治十二年十月を以て創業せられた古き歴史を有してゐる。爾來年々共に隆盛に赴き、歐戰好況期に入るや、額に面目を一刷新し、此處に合名會社の舊殼を脱して、大正七年六月資本金三百萬圓の株式會社に組織を變更し、時流に適合する施設を而して、堅實なる營業方針を相俟つて、業況益々盛衰を加へ、同十二年五百萬圓に増資して今日に及んだもので、現今二百萬圓の増資高を以て、一千三百六十萬圓の預金を有し、八百六十餘萬圓を貸出し、五百九十餘萬圓の有價證券を有し、一萬餘圓の預金及現金を有し、更に九十餘萬圓の諸準備積立金を有する内容極めて堅實なる銀行である。現任重役は左の諸氏で、多くは大和田一家一門を以て満たされてゐる。

取締役社長 大和田正吉  
 取締役 大和田久兵衛  
 取締役 土谷慶治郎  
 監査役 大和田金之助

**株式 大和田銀行營業成績比較表**

資本金	200,000	200,000	200,000
準備金	875,000	875,000	875,000
預立金	175,000	175,000	175,000
預り金	268,000	268,000	268,000
其他共合計	1,518,000	1,518,000	1,518,000

**株式 第九十一銀行** (福井縣福井市)

當行は明治九年十一月銀行として、明治十一年十月を以て創立せられた、福井縣最古の銀行である。最も堅實主義を以て、始終

し、預金其他の業務に於ては、常に先見の明を以て、内容を相俟し、充實してゐる。現任重役は左の諸氏である。

取締役社長 池田七郎兵衛  
 取締役 池田仁太郎  
 取締役 高武右衛門  
 取締役 松田兵左衛門  
 取締役 宮川治太郎  
 取締役 藤本幸三郎  
 監査役 北川小右衛門

**株式 第九十一銀行營業成績比較表**

資本金	200,000	200,000	200,000
準備金	875,000	875,000	875,000
預立金	175,000	175,000	175,000
預り金	268,000	268,000	268,000
其他共合計	1,518,000	1,518,000	1,518,000

**株式 二十五銀行** (福井縣小浜町)

當行は明治三十一年の創業で、行齡二十八を越した古參銀行である。若州小浜港に於ける唯一の金融機關として信用を得

し、僻地のに在る銀行としては、業績良好の方である。現今六十二萬五千圓の準備金に對し、二百五十萬圓の預金を有し、年九分の株主配當を維持してゐる堅實なる内容を有してゐる。現任重役は左の諸氏である。

取締役社長 村松 鶴  
 取締役 原田太郎  
 取締役 和田 見雄  
 取締役 中崎源治郎  
 監査役 金若林次郎

**株式 二十五銀行營業成績比較表**

資本金	100,000	100,000	100,000
準備金	625,000	625,000	625,000
預立金	250,000	250,000	250,000
預り金	250,000	250,000	250,000
其他共合計	1,225,000	1,225,000	1,225,000

株式 敦賀銀行 (敦賀郡敦賀町)

設立 明治二十七年四月
資本金 二百萬圓
拂込額 八十七萬五千圓
總株數 四萬株(舊一萬株)

株式 第五十七銀行 (南條郡武生町)

設立 明治三十年七月
資本金 百五十萬圓
拂込額 六十五萬圓
總株數 二萬株(舊六千株)

株式 三方銀行 (三方郡八村三六)

設立 明治三十一年一月
資本金 百五十萬圓
拂込額 四十七萬五千圓
總株數 二萬株(舊六千株)

株式 嶺南銀行 (三方郡南四村)

設立 明治二十五年六月
資本金 百五十萬圓
拂込額 二十六萬八千七百五十圓
總株數 二萬株(舊五百株)

株式 濃飛農工銀行 (岐阜市神田町二丁目)

資本金 五百萬圓
取締役 桑原善吉 常務取締役 大野英治
取締役 上松泰造 取締役 矢野嘉右衛門

株式 十六銀行 (岐阜市中竹屋町)
資本金 三百五十萬圓(拂込済)
諸積立金 百四十九萬圓
諸預り金 二千三百三十五萬圓

當行は明治三十一年の創立で初め百萬圓の資本に過ぎなかつたが、漸次増大され現今五百萬圓の大資本となり、殆んど大部分の拂込を終り更に六百四十萬圓の農工債券を發行し地方産業界の爲めに貢獻すること頗る多かつた、常に堅實主義を信ぜし殊に矢張り取締り開始の戸取締り以下の各重役何れも縣下有数の實業家であり兩々相俟つて業績の隆興と信用の博大多きを以て知られてゐる。現重役左の如し。

取締役 矢野 亮吉 取締役 戸田 健之助
取締役 野呂 誠三 取締役 松原 芳太郎
取締役 上松 泰造 取締役 武藤 互三
取締役 長尾 元太郎 取締役 藤田 權治郎
取締役 渡邊 榮吉 取締役 青木 知四郎
取締役 土川 宗左衛門 取締役 橋本 恭治

である事に依つて見るも同様の前途は尙ほ豫言の活動振りを示すが豫言し難き底の春秋に當るものである。現任重役は左の諸氏である。

株式 十六銀行 營業成績比較表

Table with columns for '負債ノ部' (Liabilities) and '資産ノ部' (Assets) for the years 1913 and 1914. Rows include items like '資本金' (Capital), '諸積立金' (Reserves), '未償還債' (Outstanding debt), etc.

株式 大垣共立銀行 (本店大垣市市町)

資本金 三百萬圓
拂込資本 二百十萬圓
諸積立金 九十八萬八千圓
諸預り金 一千六百九十萬圓

當行は明治二十九年三月を以て設立されたる國立第百二十九銀行の營業を繼承したもので爾來最も堅實なる營業方針を以て終始した結果、一般の信用大いに加はり殊に晩年に至つて本邦銀行王の稱ある安田家の手中に歸してからは其の膨大な資本的背景を有するに至つたので業況頗る加へ、歐戰好況時の活躍に相俟つて業績隆々たるものあり、今や三百五十萬圓の資本を以て一千七百萬圓に近き預金を抱擁し岐阜市の十六銀行と共に縣下大銀行として社會の信頼頗る厚く十三年四月中旬新築竣工せる堂々たる建物と共に中部日本有数の地位を占むるに至つたのである。試みに十四年上半期の業績に就て見るに千六百九十萬圓の預金に對し千五百九十萬圓を貸出し、三百餘萬圓の有價證券三百三十萬圓の預金現金三十九萬餘圓の諸積立金を有し其の資産充足は極めて充實したものである。これを知らず、此くして毎期の收支計算に於て三十萬圓近き純利益を挙げ、十萬餘圓の前期繰越を

別とする)よく年一割以上の配當を持續してゐる、尤も其の収益率からすれば一割五分の配當は後に可能性十分なのであるが、諸準備及繰越等に多額を振當て、内容の充實を本位とされてゐる爲め年一割に制限されたのである、此の如く其の背後に安田家の巨富を有し、而も業績以上の如く良好なる其の前途は誠に多量多幸の極みである云はねばならぬ、殊に其の重役諸氏の本邦財界に輝々の名ある名士のみなる點に思ひ至らば、同様の内容に言及するの要なきを感ずるであらう、即ち現頭取安田善兵衛氏は安田王國の一門であり其の資本を代表するの士である云々云々まもなく、副頭取として事實上の經營首班に列する戸田健之助氏は縣下屈指の實業家であり大垣商會頭其他銀行會社の重役として財界の長老である、砂澤善勝、土屋支配人は何れも實務精通家として經營上の才腕に秀で兩氏共に新進の重役として其の前途を多大の矚目せらるゝ手腕家であるから同様の活躍は更に對該の光榮を發揮するであらうことを疑はぬのである。現任重役は左の諸氏である。

株式大垣共立銀行營業成績比較表

Table showing financial performance comparison for Daiwa Kyokai Bank (大垣共立銀行) for fiscal years 1913 and 1914. It includes columns for assets (資本金, 準備金, etc.) and liabilities (負債), with sub-totals for 1913 and 1914.

株式美濃銀行 (武儀郡美濃町)

資本金 百五十萬圓
拂込資本 八十二萬五千圓
諸積立金 二十七萬五千圓
諸預り金 二百五十萬圓

世に所謂美濃紙の産地として岐阜縣美濃町地方は古來有名な製紙工業の旺盛な土地である。元來美濃町に稱するは元上有知所稱したのであるが物産たる製紙の名稱を轉用して明治四十四年三月以來美濃町と改稱したのである。同行亦地方唯一の金融機關として明治十九年六月資本金五萬圓を

株式美濃銀行營業成績比較表

Table showing financial performance comparison for Minami Bank (美濃銀行) for fiscal years 1913 and 1914. It includes columns for assets (資本金, 準備金, etc.) and liabilities (負債), with sub-totals for 1913 and 1914.

株式飛騨銀行 (大野郡高山町)

資本金 二百五十萬圓
拂込資本 百一十三萬三千圓
諸積立金 七十三萬圓
諸預り金 五百二十二萬圓

常行は明治二十一年十月の創業にして、行給三十餘年を経過せる古き歴史ある銀行で、爾來漸進的に内容を充實し時流に應じて適宜増資を行ひ歐戰前七十五萬圓の資本なりしが今日二百五十萬圓に増加され諸預り金五百二十餘萬圓を算し地方銀行としては堂々たる業績振りを示してゐる。殊に内容の堅實なること驚くばかりで、此の預金に對する貸出は一千三百餘萬圓に止められ而も八十餘萬圓の有價證券三十七餘萬圓の諸積立金を有する事實は十分にこれを立證し得るであらう。此くして毎期十餘萬圓の純益を計上し一年一割二分の配當を保持しつゝある事も亦其の實業を物語るものであり、國民の信用頗る厚いのも理由なきではない。現今重役は左の諸氏であるが、何れも地方に於ける有力なる資産家揃ひである。

株式飛騨産業銀行 (大野郡高山町)

資本金 二百五十萬圓
拂込資本 百一十三萬圓
諸積立金 七十三萬圓
諸預り金 二百二十萬圓

常行は大正二年五月資本金七十萬圓を以て創立され、間もなく歐戰好況期に際會した爲め是の發展を遂げ、戦後二百五十萬圓に増資し以て今日に及んだのである。百一十五萬圓の拂込金を以て二百二十萬圓の預金を有し、これを運用するに二百八十五萬圓の貸出と四十餘萬圓の有價證券とに充てられ七年七割の配當を行つてゐる。現重役左の如し

株式中津川銀行 (重信郡津川町中津川)

設立 明治三十一年四月
資本金 百 萬圓
拂込資本 濟 込 濟
總株數 二萬株(新舊等分)

重役 (取締)市川元治郎、間嶋助、古谷六兵衛、上田政一、機村國三郎、依馬源七郎、間兵次郎、辻村浩三(監査)宮下虎三、阿部銀之助、藤野博三

株式吉田倉庫銀行 (武儀郡關町)

設立 明治三十三年三月
資本金 百 萬圓
拂込額 七十九萬圓
總株數 二萬株(舊六千株)

重役 (頭取)吉田常三郎(常務)尾崎幸次(取締)

株式蘇原銀行 (岐阜市神田町三丁目)

資本金 二百 萬圓
拂込資本 八十七萬五千圓
總株數 四萬株(舊一萬株)

常行は明治三十四年三月資本金五十萬圓を以て創立せられ爾來財界の推移に伴ひ漸次増大されて現今二百萬圓に達し毎期十萬圓に近き純益を計上するの感況に在る。而して利益配當を行はず之れを増資準備資金として積立てるなき内容の堅實振りを示してゐる。隨つて縣下に於ても信用頗る高い銀行である。現任重役左の如し

取締 伊東仙十郎、山下佐助、中川雄三郎、森彦兵衛、平瀬市兵衛
取締 土川宗左衛門、取締 小森文助、取締 平田政十郎、取締 日下部九兵衛、取締 布勢又藏、大坪宗一郎、監査 平田篤松

株式七十六銀行 (岐阜縣高須町)

常行は明治十一年十一月資本金七萬圓を以て創立第七十六銀行として創立され、三十年十一月營業満期と同時に私立銀行に變更して業務を繼承し、以て今日に至れる古き歴史ある銀行である。此間穩健着實なる營業方針を以て地方農村の振興に資する處極めて多く、一面業績の隆昌と共に其の内容の



定期預金	三六、六〇〇	活期預金	二、八〇〇
通帳預金	六、〇〇〇	仕入掛金	一〇、〇〇〇
定期金	一〇、〇〇〇	他種金	一〇、〇〇〇
未経過利息	一〇、〇〇〇	借入金	一〇、〇〇〇
未経過引当	一〇、〇〇〇	引当金	一〇、〇〇〇
未経過手形	一〇、〇〇〇	手形	一〇、〇〇〇
未経過債権	一〇、〇〇〇	債権	一〇、〇〇〇
未経過債務	一〇、〇〇〇	債務	一〇、〇〇〇
未経過其他	一〇、〇〇〇	其他	一〇、〇〇〇
其他	一〇、〇〇〇	其他	一〇、〇〇〇
合計	七、六六三	合計	七、六六三

**株式 滋賀縣農工銀行** (本店津市本町)

設立 明治三十一年三月  
 資本金 二百萬圓  
 拂込額 百五十萬圓  
 總株數 十萬株(新舊等分)

**株式 栗太銀行** (栗太郡津町)

設立 明治三十年八月  
 資本金 百三十萬圓  
 拂込額 百十萬圓  
 總株數 二萬六千株(舊一萬六千株)

**株式 淡海銀行** (伊賀郡下田村)

設立 明治三十二年二月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 七十五萬圓  
 總株數 二萬株(新舊等分)

**株式 蒲生銀行** (蒲生郡金田村)

設立 明治三十二年四月  
 資本金 百五十萬圓

株式 甲賀銀行 (甲賀郡水口町水口)  
 設立 明治三十年十二月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 五十一萬二千五百圓  
 總株數 二萬株(舊七千株)

株式 滋賀合同貯蓄銀行 (津市市本町)  
 設立 大正十年十二月  
 資本金 二百萬圓  
 拂込額 五十萬圓  
 總株數 四萬株

株式 三重縣農工銀行 (本店津市大字高町)  
 資本金 七百五十萬圓(拂込済)  
 諸積立金 三百五十九萬圓  
 諸預り金 一千三百九十萬圓  
 諸貸付金 三千四百九十萬圓

28、三重縣ノ部  
 短期貸付 三九、五五一  
 長期貸付 一三、〇〇〇  
 コーポレーション 六、一六一、二二三  
 當座預金貸越 一七、三〇、〇〇〇  
 有價証券 二、九一四、八九一  
 營業用地所建物 三六五、〇〇〇  
 營業用具 五五、〇〇一  
 金銀有高 四一八、五三三  
 其他共合計 五〇、〇四八、四九三

地方農工銀行中特に著しき發展を遂げ、業績の隆々たるものあるはこれを三重縣農工に求めねばならぬ。東京、大阪其他の大都市に在る農工銀行に比して、寧ろ上位に在るか否かあらしむるは、抑も如何なる理由の存するが故であらうか、其間業より種々の原因あるに相違なからんが故である、要するに他大都市の所謂商業銀行は極めて發達し、其の金融網殆んど至らざるなき迄に普遍的であるが故に、あらゆる産業界之を利用するに便して、特に農工銀行のみに倚賴するの要なきに反し、三重縣の如く山海沃野何れもして天惠の地利を有せざるなく、産業の起るべき地位に在るに拘らず金融機關の見るべき比較的少數なる結果として、普通の商業銀行よりも寧ろ各種組合、諸團體等地方産業動長機關として長期貸付を行ひ得る便宜ある農工銀行に依歸する傾向を顯致された結果ではあるまいか。何れにせよ同様の發展は争ひ難き事實である。即ちこれを立証すべく十四年上期末に於ける業績を見るに、七百餘圓全額拂込済の資本金を以て一千四百萬圓の預金を保有し、前後六十四回に發行したる農工債券三千六十八萬餘圓の中八百三十餘萬圓の償還高を差引き二百三十餘萬圓を現存し、此の資本力を以て三千四百餘萬圓の貸付に運用され、六百餘萬圓のコーポレーション及當座貸越、三百萬圓の有價証券、而して六百五十餘萬圓の預金現金を所有してゐる點定であるから、概算しただけでも其の資産状態の良好事は判然する。隨つて此損益計算に就て見ても、収入、利息、割引料等二百五十餘萬圓に達し、有價証券利息配當及諸手数料等を加算すれば收益後二百七十餘萬圓を計し得る。而して支拂利息、營業費其他の支出勘定二百十餘萬圓を差引結局六十餘萬圓の純利益を挙げ得たのであるから、其の業績は空々たる一流銀行の譽を擧げるの良好さであることばねばならぬ。此くして二十一年餘圓の諸準備積立を控除し、十五萬餘圓を後期へ繰越し尙且一年一割の株主配當を保持し得るのだから、其の内容の充實せること如何に基礎の鞏固であるかは既に贅言の要ないであらう。明治三十二年創業されて以來此處に二十八年、其の本質に鑑み與へられたる職能を基調として地方産業界の發達に資する處が多し、其の經濟的貢獻は極めて莫大なるものであつた事を知らねばならぬ。現任重役は左の諸氏で、何れも地方有数の實業家たりし者なれば、この功績である。

株式 三重縣農工銀行 (十四年上期末)

年賦貸付	一五、〇〇三、三三三
定期貸付	六三、七二、一九四
代理貸付	一、〇九七、〇三八
割引手形	一、六五五、四四八

資産ノ部

取捨取預	小林嘉平治	取締役	川喜田久太夫
同	橋本幸太郎	同	速水健治郎
同	松本恒之助	同	藤澤一衛
同	奥井周太郎	同	筒井喜一郎
同	安保昭三	同	眞弓吉雄
同	森本丑太郎	同	

株式 百五銀行 (本店津市丸ノ内)

資本金	一千萬圓
拂込額	六百八十八萬七千圓
諸積立金	三百二十三萬二千圓
諸預り金	三千七百七十萬圓

三重縣に於ける最大銀行として古き歴史と堅實なる内容を有し、全國銀行中の主要地位を占むる株式會社百五銀行は創立百五銀行として明治十一年三月創業せられ、爾來業績大いに振ひ内容亦頗る充實するに至つたが、同二十九年創立滿期と共に其業務一切を繼承し、名稱を踏襲して株式會社百五銀行と稱し、よく時流に適應するの體裁を悉らす。漸次資本力を増大して今日の一千萬圓云ふ巨資を有するに至つたのである。此間他銀行の合同に就ても意を用ひ、或は八十三銀行を合併し、或は吉田銀行を買収するなき、常に資本集中策を講じて金融機關の充實せんことを努力し來つたのである。而して歐戰好況期に際しては自覺しき活躍振りを示し、戰後財界の反動期に際するも何等痛痒を感する處なき鞏固なる地盤を築き上げ、今六百八十八萬七千五百圓の拂込資本に對して三千七百七十萬圓の預金を擁し、三百二十餘萬圓の諸準備積立金を有する堂々たる銀行として一般より最も厚き信用を拂はれ、縣市金庫たる外特種銀行代理事務を委託せられ、會で宮内省支金庫出納事務を託せられた事あるなき縣下に於て名實共に代表的銀行としての實實を完全具備してゐる。試みに同行歐戰前後以來、反動期後に至る間の業績が如何なる進歩を以て今日に至つたかを表示して見る。





會社 四日市銀行營業成績比較表

Table showing financial performance for Yokkaichi Bank, comparing 1922 and 1923 across various asset and liability categories.

宇治山田市本店を有する唯一の堅實なる銀行にして、世人より多大の信用を博しつゝある當行は大正六年八月、歐戰好況期の最高潮に達せる時代に於て創業されたものである。

以上の如く其の大部分を積立金及繰越金として社内保留額に引當てるるは、財界の現狀に鑑み大いに適當に當するものであり、此くして同行の基礎は愈々鞏固になり行くことは同時に、其の將來の飛躍期を待つべきものあることを疑はないのである。

會社 勢南銀行 (宇治山田市八日市場町)

Table showing financial performance for Seinan Bank, comparing 1922 and 1923.

Table showing financial performance for Seinan Bank, comparing 1922 and 1923.

會社 松坂銀行 (前南郡松坂町)

Table showing financial performance for Matsuzaka Bank, comparing 1922 and 1923.

會社 津農商銀行營業成績比較表

Table showing financial performance for Tsunonokumura Bank, comparing 1922 and 1923.

會社 紀南銀行 (前南郡本木町)

會社 紀南銀行 (前南郡本木町)

29. 奈良縣ノ部

株式 六十八銀行 (奈良市)
資本金 六百 萬圓
拂込額 四百五十 萬圓
諸積立金 二百三十三 萬圓
諸預り金 二千二百八十六 萬圓

當行は明治三十年十二月を以て創立され、創業方針を以て、而もよく時流に適應するの施設を怠らず、漸次地歩を固め、やがて六百萬圓の大資本を擁し、一千二百八十萬圓の預金を有する第一の銀行たるを以て、一般の信用頗る厚いものがある。戦前五十萬圓の資本金に過ぎなかつたが、戦時好況期に入るに共に急激なる發展を遂げ、資本金も一躍三百萬圓に増加され、更に六百萬圓の倍額増資を行ひて戦後の膨脹せる財界に應じ、大いに内容の充實を策したものである。預金の趨勢を見るも戦前二百八十餘萬圓なり

株式 六十八銀行 營業成績比較表

Table with columns for assets (資本金, 諸積立金, 諸預り金) and liabilities (負債ノ部) for the 68th Bank, comparing 1911 and 1914 data.

ものが戦時中には一千三百餘萬圓に増昂し、更に二千萬圓となり十四上期には二千二百八十餘萬圓の巨額に達し、地方銀行殊に大阪に接近せる奈良市に在る銀行としては、素晴らしい進展振りを稱すべきである。而して貸出方面に於ても之れも略ぼ軌を一にして居るが預金に對し常に内輪に運用され堅實なる營業政策に終始して居るのであるが、而も毎期純利益五十餘萬圓を計上し、年一割一分の配當を維持して居るのみならず、諸準備積立金亦二百三十餘萬圓に達するを有し、内容極めて充實して居る事を推察し得る。現重役は左の諸氏で、何れも縣下有数の代表的人物揃ひである點に一層の強味を感ずる。尙同行は最近市内三徑通の一角に堂々たる新店舗建築中であつたが、既に竣工したので前述の活躍一段と目覺しきものあるを疑はないのである。

株式 六十八銀行 營業成績比較表

Table with columns for assets (資本金, 諸積立金, 諸預り金) and liabilities (負債ノ部) for the 68th Bank, comparing 1911 and 1914 data.

株式 吉野銀行 (吉野郡下市町)
資本金 五百萬圓(拂込済)
諸積立金 百八十一 萬圓
諸預り金 一千五百五十 萬圓

當行は明治二十八年七月の創業で、縣下最古銀行であると同時に其の内容亦堅實なるものあり、吉野材木銀行を合併して以來預金額に於て縣下第二位に處する堂々たる銀行となつたのである。由來林業最も盛んな同縣に於て吉野山中より伐採される野木材木は、其の大部分が下市町を中心とする富豪連中の所有であり、隨つて富力の程度に於ても奈良縣下を代表する資産家として夙に知られて居るものが多いのである。これらの材木富限が集合して組織された銀行だけに、其の基礎は確實であり業況亦著しく發展して、山中の一小邑に過ぎない地方銀行としては異數の業績振りを示して居る。

株式 吉野銀行 營業成績比較表

Table with columns for assets (資本金, 諸積立金, 諸預り金) and liabilities (負債ノ部) for the Yoshino Bank, comparing 1911 and 1914 data.

戦後の反動期には財界周囲の狀勢から幾分不活潑を免れなかつたが、關東震災以後更に一段の活況を呈し、毎期三十餘萬圓の純利益を舉げ純利益を合算すれば五十餘萬圓の多きに達し、此の處分に就ても社内保留金を多くして内容の充實を固め且つ年一割強の株主配當を續けて居る感振りを示して居る。現重役は左の諸氏で何れも地方有数の資産家であるが、就中阪本頭取、北村取締役などは縣下多額納税者として知られ奈良縣の富力を左右し得るものと稱せられて居る。

株式 吉野銀行 營業成績比較表

Table with columns for assets (資本金, 諸積立金, 諸預り金) and liabilities (負債ノ部) for the Yoshino Bank, comparing 1911 and 1914 data.

株式 産業銀行 (奈良市東寺林町)
資本金 三百五十 萬圓
拂込額 二百四十五 萬圓
諸積立金 六十 萬圓
諸預り金 一千五百 萬圓

奈良市中二大銀行の一として、常に強敵六八銀行の牙城を強襲し、彼をして脅威を感ぜしむるものは實に産業銀行である。由來奈良縣に於ける財閥系統の分野は、多く之等二大銀行を中心として行はれて居るもの、如く、其處には論ずべく多くの記録あれど、本篇には其の餘裕を有しないから省略するが、市の長老として多額納税者中の唯一人たる木本源吉氏を中心に、同行に立て籠る重役諸氏に一段の興味ある事

株式 産業銀行 營業成績比較表

Table with columns for assets (資本金, 諸積立金, 諸預り金) and liabilities (負債ノ部) for the Industrial Bank, comparing 1911 and 1914 data.

株式 八木銀行 (高市郡八木町)
資本金 二百 萬圓
拂込額 百五十 萬圓
諸積立金 七十四 萬圓
諸預り金 七百五十 萬圓

(頭取)新川忠一(常務)河合庄九郎(取締)河合源七郎、安田多助、松村善兵衛、木原吉太郎、梅崎直愛、藤原松太郎、島崎源之助、平井太郎

株式 八木銀行 營業成績比較表

Table with columns for assets (資本金, 諸積立金, 諸預り金) and liabilities (負債ノ部) for the Yamaki Bank, comparing 1911 and 1914 data.

株式 奈良縣農工銀行 (奈良市中院町一〇)
設立 明治三十一年一月
資本金 百 萬圓
拂込額 七十五 萬圓
諸積立金 五萬株(新舊等分)

(頭取)木本源吉(取締)木村勤三、吉川善平、大森吉兵衛、山本七九郎(監査)好川忠一、松尾四郎(支配)武内正夫

株式 奈良縣農工銀行 營業成績比較表

Table with columns for assets (資本金, 諸積立金, 諸預り金) and liabilities (負債ノ部) for the Nara Prefecture Agricultural and Industrial Bank, comparing 1911 and 1914 data.

株式 御所銀行 (南宮郡御所町)
設立 明治三十年三月

資本金 百 萬 圓  
 拂込額 七十五 萬 圓  
 總株數 二萬株(新舊等分)  
 重役  
 (頭取)西尾小五郎(取締役)西尾信治郎、末吉水治、米田徳七郎、紙谷重良、吉川眞四郎(監査)辻本正兵衛、藤井治平、松村嘉平治(支配)弓場常次

### 30、和歌山縣總論

銀行、同業の喧嘩せられて以来、鋭意これに實現に努め其の成績最も著しきものは茨城に次いで和歌山を推せばならぬ。大正十二年十二月末現在の和歌山本店銀行は總額三千行此拂込資本一千五百萬圓であつたが、圓來著々として合併實現され、縣下を三天地方別に區分し可なり大規模なる合同が行はれてゐる。即ち東部に於ては新宮銀行を中心とする新宮合同及び和歌山、奈良、三重、縣下合同の大同銀行、新設等に著しく、西部に於ては伊都銀行、那賀銀行を中心とする伊都合同等何れも從來相當の業績を挙げつた銀行が資本を中集する意味から大同したのであるから、銀行業の健全なる發達を期する上に於て大いに推賞すべき現象である。十二年當時資本百萬圓以上のもの九行を算したが現在に於ては一行を減じて八行となり、百萬圓以下のものありては嚴然と發立する四十三銀行を中心として縣下三地方に各代表的有力銀行を存し以て金融の潤滑を図るに同業相互間の連絡流通に便あらしめ、以て我縣經濟の進歩を助長する金融機關たるの責に任じつゝある事は是に處すべきである。

#### 株式 四十三銀行 (和歌山市十一番町)

資本金 一千 萬 圓  
 拂込資本 七百六十 萬 圓  
 諸積立金 四百八十二 萬 六千 圓  
 諸預り金 四千九百 四十 萬 圓

棉糸の産地として、將又海産物の旺盛地として和歌山縣が我縣經濟に重要な地位を占むる事は贅言の要ない。而して之等の産業界に最も多大の貢獻を致し其の發達を助長せらるるは云ふまでもなく金融機關の完備して其の事を挙げねばならぬ。就中縣下金融界の覇權を把握して新然と頭角を抜き著しき活躍を試みつゝあるものは株式會社四十三銀行である。當行は創立第四十三銀行にして明治十一年十月資本金三十萬圓を以て創立せられた古き歴史を有し、同三十年三月同立滿期と共に組織を變更し私立銀行として一切の營業を繼承し同三十三年紀州銀行を合併して資本金百五十萬圓となし、業況

#### 株式 四十三銀行營業成績累年比較表

負債ノ部	第八十八期	第八十九期	第九十期	第九十一期	第九十二期	第九十三期	第九十四期
資本	大正十一年末	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	大正十六年	大正十七年末
資本金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
拂込資本	7,600,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000
諸積立金	4,820,000	4,820,000	4,820,000	4,820,000	4,820,000	4,820,000	4,820,000
諸預り金	49,940,000	49,940,000	49,940,000	49,940,000	49,940,000	49,940,000	49,940,000

資産ノ部	第八十八期	第八十九期	第九十期	第九十一期	第九十二期	第九十三期	第九十四期
資本	大正十一年末	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	大正十六年	大正十七年末
諸積立金	4,820,000	4,820,000	4,820,000	4,820,000	4,820,000	4,820,000	4,820,000
諸預り金	49,940,000	49,940,000	49,940,000	49,940,000	49,940,000	49,940,000	49,940,000
特別當座預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
定期預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未拂利息及未経過引料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
当期純益金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
内前期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
新株式引受申込諸積金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
繰込未済資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
諸積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
手形	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
當座預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
割引手形	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
荷付爲替手形	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
他店預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
所有有價証券	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
諸公債及外國債券	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
株券	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
營業用土地建物什器	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
所有不動産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
現金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
支店新築費假拂	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
利益金勘定	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
当期純益金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
当期純損金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前期繰越損金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
此配當計算	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
法定準備金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
特別積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
株主配當金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
役員賞與及交際費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
後期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
配當平均準備金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

漸次を加へて歐戰好況期を迎へたのである。當時の我財界が著しき發展を遂げた事は云ふまでもないが此の當然の反映として綿糸機械業界の活況は殊に著しく、隨つて和歌山縣下に於ける主要物産たる棉糸業界も亦忙殺するの活況を呈し金融の繁栄を告げ、其の機軸銀行の觀ありし四十三銀行の業況は頗る盛況を加へ所謂旭日昇天の概を以て業務は擴大され業務亦極めて良好となり、遂に一躍百萬圓の資本となし次いで四百萬圓を加へて總資本一千萬圓となして今日に至つたのである。試みに同行歐戰前後以降の内容振興の度合を知るべく表示すれば次の如くである。(單位千圓)

資本金	諸積立金	諸預り金	貸出金	純益金
二 年 下 一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
八 年 下 六、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
十 一 年 下 一〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
十 三 年 下 一五、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇
十 四 年 上 二〇、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇

即ち資本力に於て著しき膨脹を示すと同時に預金貸出の數字が頗る増進率高きを知る事が出来る。而も預金に對する運用は常に内輪に行はれながら貸出の良好なる結果として収入利息及割引料等に於て極めて増收を見、毎期八十萬圓前後の純利益を計上しこれに前期繰越を加ふれば實に百三十萬圓の利益高きなるのである。以て如何に業況の活発なりしかを知り得べく、更に利益高きに就て見るも毎期二十萬圓以上の積立を控除し年一割三分の株主配當を持續して尚且つ五六十萬圓程度の繰越を行つてゐるのだから、社内保留の著しく兩々共に潤ひ來つた業績は誠に素晴らしいものであり、斯くの如きは多く他に比喩を求め得られない處であらう。同行の業績大要以上の如し。これを以て見れば其の内容が如何に充實し其の基礎が如何に確乎不拔の堅固さを有してゐるかは多くを語るの必要ないであらう。此の如きは實に金融事業界の異數とすべく、其の信用の絶大なるものあるは蓋し當然過ぎる程にも當然の結果と稱すべきである。今や縣下唯一の大銀行としてのみならず、名實共に備はれる一流の大銀行として内外に聲望頗る高く、更に前途發展の活躍を期待されてゐる同行現任重役は左の諸氏で何れも縣下の重要な地位に處する代表的名士であるが、就中宮本重取は明治二十年以來經營首腦者として一意専念行運降昌を策し、よく今日の大成を致さしたる唯一の功勞者であり、北代常務も多年總支配人として宮本氏を援け後ら常務として經營の首班に列し、政策意りなかつた機運の土で、夙に慶應義塾を卒業し日本銀行に實務を修めた精進家、宮本重取と共に重大なる功勞者である。

取締役頭取 宮本重取  
 取締役 大江兼太郎  
 取締役 島村安太郎  
 取締役 岡本庄太郎  
 取締役 北代達枝  
 取締役 石橋八九郎  
 取締役 加藤 果  
 監査役 北島七兵衛  
 同 橋本太次兵衛

**株式 紀陽銀行** (和歌山市本町二丁目)

資本金 百萬元(拂込済)  
 諸積立金 八十五萬圓  
 諸預り金 一千三十五萬圓

同行は地方有力者の賛成に依つて勸業貯蓄奨励の趣旨に基き、明治二十八年五月資本五萬圓の株式紀陽貯蓄銀行として市内米屋町に開業した。最初の貯蓄銀行である。爾來堅實なる營業方針を以て終始一貫し、漸次業務の發展に伴ひ明治三十五年五月普通銀行業務を開始するやうになり、同四十五年七月本店新築を現在の本町一丁目に移轉し大正八年宏壯なる現營業所を新築するに至つた。此の間果敢増資を行ひ資本金一百万圓に増加し、大正十一年一月貯蓄銀行法の制定に伴つて著しく發展させる普通銀行業務を專營するに同時、商號を株式紀陽銀行と改稱したのである。今同行

株式紀陽銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十三期年		下十四期年	
	期年	期年	期年	期年
資本金	100,000	100,000	100,000	100,000
諸積立金	850,000	850,000	850,000	850,000
諸預り金	1,350,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000
其他	...	...	...	...
合計	3,200,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000
資産ノ部	下十三期年		下十四期年	
未拂込資本金	...	...	...	...
諸積立金	...	...	...	...
諸預り金	...	...	...	...
其他	...	...	...	...
合計	3,200,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000

**株式 大同銀行** (東京墨田区新富町)

資本金 三百萬圓  
 設立 大正十四年四月

三縣合同と云ふ銀行合併中最もスケールの大きな合併を實現したのは當行である。即ち和歌山縣の那智銀行(資本金百二十萬圓)奈良縣の山口銀行(百二十萬圓)三重縣の北山銀行(六十萬圓)の三行が合同して新設し、大同銀行と稱するに至つたのである。現在資本金は三百萬圓で、頭取は浦木清十郎氏である。

**株式 新宮合同銀行** (東京墨田区新宮町)

資本金 三百萬圓

三縣合同と云ふ銀行合併中最もスケールの大きな合併を實現したのは當行である。即ち和歌山縣の那智銀行(資本金百二十萬圓)奈良縣の山口銀行(百二十萬圓)三重縣の北山銀行(六十萬圓)の三行が合同して新設し、大同銀行と稱するに至つたのである。現在資本金は三百萬圓で、頭取は浦木清十郎氏である。

**設立 大正十三年**

之れ亦合同の稍大規模に實現したもの、一つで、即ち大正十三年中新宮銀行(一、五〇〇萬圓)中谷銀行(一、〇〇〇萬圓)銀行を合併し、更に十四年六月に至り資本金一千万圓の古座銀行を合併し、總資本金三千万圓となつたもので、代表的重役は松江武夫郎氏、中谷利一郎氏等である。

**株式 和歌山銀行** (和歌山市野町)

資本金 百萬元  
 拂込額 六十二萬五千圓

下町寺町の伊都銀行と野町町の那智銀行が合併して新設せるもの當行である。合併前の資本は何れも百萬元、七十五萬圓の拂込額なりしを其後合同して現今に至つたもの、岡村宗助氏一派の財界名士が重役として信用厚く相當の成績を挙げている。十四年上期には十四萬餘圓の純益を挙げ一割一の株主配當を行つたのである。

**株式 高芝銀行** (東京墨田区下里町)

設立 明治三十三年三月  
 資本金 百七十萬圓  
 拂込額 六十五萬七千圓  
 諸積立金 十七萬七千圓  
 諸預り金 二百六十萬圓  
 合併 大正十四年四月

色川銀行ヲ合併資本金一千万圓増加ス  
 (頭取)玉置伊兵衛(取締役)西與三兵衛、久保種松、正樂井虎三郎、佐藤敏平、庄司楠五郎、佐藤瑞兵衛、藤田松一(同支配人)久司百松(監査)大前才藏、木本熊市、清水政市、山本平左衛門

株式高芝銀行營業成績比較表

負債ノ部	下十三期年		下十四期年	
	期年	期年	期年	期年
資本金	700,000	700,000	700,000	700,000
諸積立金	170,000	170,000	170,000	170,000
諸預り金	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000
其他	...	...	...	...
合計	3,540,000	3,540,000	3,540,000	3,540,000
資産ノ部	下十三期年		下十四期年	
未拂込資本金	...	...	...	...
諸積立金	...	...	...	...
諸預り金	...	...	...	...
其他	...	...	...	...
合計	3,540,000	3,540,000	3,540,000	3,540,000

**株式 日高銀行** (日高郡御坊町御坊)

設立 明治三十三年四月  
 合併 大正十二年十一月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 八十五萬五千圓

日高銀行は地方有力者の賛成に依つて勸業貯蓄奨励の趣旨に基き、明治二十八年五月資本五萬圓の株式紀陽貯蓄銀行として市内米屋町に開業した。最初の貯蓄銀行である。爾來堅實なる營業方針を以て終始一貫し、漸次業務の發展に伴ひ明治三十五年五月普通銀行業務を開始するやうになり、同四十五年七月本店新築を現在の本町一丁目に移轉し大正八年宏壯なる現營業所を新築するに至つた。此の間果敢増資を行ひ資本金一百万圓に増加し、大正十一年一月貯蓄銀行法の制定に伴つて著しく發展させる普通銀行業務を專營するに同時、商號を株式紀陽銀行と改稱したのである。今同行

**株式 高芝銀行** (東京墨田区下里町)

設立 明治三十三年三月  
 資本金 百七十萬圓  
 拂込額 六十五萬七千圓  
 諸積立金 十七萬七千圓  
 諸預り金 二百六十萬圓  
 合併 大正十四年四月

色川銀行ヲ合併資本金一千万圓増加ス  
 (頭取)玉置伊兵衛(取締役)西與三兵衛、久保種松、正樂井虎三郎、佐藤敏平、庄司楠五郎、佐藤瑞兵衛、藤田松一(同支配人)久司百松(監査)大前才藏、木本熊市、清水政市、山本平左衛門



る營業方針を以て終始し、一般の信用絶大なものあり。今や五百餘萬圓の預金を有し、二十七萬餘圓の積立金を有する基礎固なる銀行にして地方産業界の隆興に資する處甚だ多く最も堅實なる銀行にして多大の望みを馳せられてゐる。其の重役は創業沿革が既に公共團體公益の爲に設けられたる關係から、何れも其の役員關係を以て誦たされ地方に於ける關係者徳望隆の名望のみを認めてゐるから、信用は益々々々上し業礎堅實に其將來の活躍更に數段の光彩を放つべきを疑

株式 山陰銀行 (四角郡米子町)

Table with financial data for 山陰銀行. Columns include 資本金 (750,000), 拂込額 (875,000), 諸積立金 (44,000), 諸預り金 (48,000). Rows for 負債ノ部 and 資産ノ部.

はないのである。現重役諸氏は左の通りである。取締役頭取 瀧島長右衛門 取締役 尾崎 同 市橋昌晴 同 瀧島利兵衛 同 西尾善孝 同 井上 峯 同 瀧島幾造 同 監査役 小川貞一 同 瀧井久右衛門 同 木下六藏 同 小田政美 同 支配人 瀧井朝久

株式 協立銀行 (鳥取市片原町)

Table with financial data for 協立銀行. Columns include 資本金 (200,000), 拂込額 (875,000), 諸積立金 (44,000), 諸預り金 (48,000). Rows for 負債ノ部 and 資産ノ部.

株式 山陰銀行 (四角郡米子町)

當行は大正十一年九月を以て創立され、歐戰後の地方産業界の爲めに資する處あらん事を期したるのであるが、時恰かも反動の不起期に入つた事業界萎縮して振はず、何等新規企業が目論まるものなき状態に陥り、一般財界の不況の反映として其の業況亦甚だ不振は、大資本を擁しながらも預金、貸出共に未だ以て多し云ひ能はぬ現狀であるが、其の陣容よりして一週最盛恢復の機には確かに見られるべき活躍を試むべく期待されてゐる。要するに現今に在りては暫く潜伏時代に處せるものと觀察するを妥當とするであらう。現任重役並に十四年上半期業績を記すれば左の如し。

株式 山陰實業銀行 (四角郡米子町)

資本金 五百萬圓 拂込額 二百九十五萬圓 諸積立金 九十四萬五千圓 諸預り金 一千五百八十萬圓

32、島根縣ノ部

株式 松江銀行 (松江市白濱町)

當行は明治二十二年八月の創立で、行始實に三十七年を閱し同地方最古銀行たる歴史を有してゐる。當初資本金僅かに十萬圓に過ぎなかつたが、爾來業務の發展し時勢の要求に順應して増資を行ふこと數次、風に松江倉庫株式會社を買収して倉庫業を兼營し、歐戰好況期に入るに及び況況順に股額を合併して資本を増加し更に九年増資を行ひ總資本額五百萬圓となして今日に及んだのである。此間業より財界の起伏に伴つて、時に業績の盛衰あるを免れざりしは雖も而も常に堅實主義を以て終始し且つ隨機の措置宜しかりし爲め一切の難局を巧みに回避して業績の堅牢を圖り、内容の充實を策したる結果として信用大いに加はり、預金の増加著しく貸出亦頗る順調に行はれ、今や一千六百萬圓近き預金を領し山陰道地方屈指の大銀行たる實質を有するに至つたのである。試みに戦前、即ち大正二年頃の營業内容を今日の業績を比較して見る時、如何に急速なる伸張振りを辿つて来たかを知

株式 松江銀行營業成績比較表

Large table comparing the performance of 松江銀行 from 1912 to 1914. Columns include 十二期, 十三期, 十四期. Rows include 負債ノ部 (Capital, Reserves, etc.) and 資産ノ部 (Assets, Loans, etc.).



仕入		借入金		未拂入金		未経過利息		当期純利益		前期繰越金		内前期繰越金		其他共計		資産ノ部	
仕入	1,000,000	借入金	1,000,000	未拂入金	1,000,000	未経過利息	1,000,000	当期純利益	1,000,000	前期繰越金	1,000,000	内前期繰越金	1,000,000	其他共計	1,000,000	資産ノ部	1,000,000
未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000
未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000	未経過利息	1,000,000

**山陽銀行** (資本金 一千二百萬圓)  
 諸積立金 二百五十萬圓  
 諸預り金 一千七百萬圓

當行亦積極的の合同に依つて新設されたる銀行の一として中國金融界に重きを爲せる大銀行である。由來岡山縣の産業界は岡山を中心とする中央部と笠岡町一帯の一部と、而して津山町を中心とする東部の二區域に分立せられ、隨つて金融界の消長も亦これと軌を一にしてゐる。就中津山町に於ける金融機關の發達は著しいものあつたが近時合同の高唱せらるゝに際し、多數群立の弊あるに鑑み大正十三年中理想的の大合同實現するに至つたのである。即ち四十有餘年の歴史ある津山銀行(資本金一、五〇〇萬圓)と新進ながら五百五十萬圓の資本を有する作樂銀行の合併せるもので(後更に二十萬圓の資本銀行を合併した)兩者共に多大の信用を博した有力銀行であつた關係上、合同成立後の營業成績は頗る良好で、十三年下半期に於ては一千七百餘萬圓の預金を有し一千四百餘萬圓の貸出を行ひ、十八萬餘圓の純益を計上して年九分の株主配當を行つたのである。而も今尙は財界の悲境期であり、合併後の大活躍を試むる機會を窺はざる爲め其の眞價を發揮するを得ないが、一朝好況に轉換するの日に來れば、尨大な資本力を擁して必ずや見るべき大飛躍を演ずるに至るべきは疑ふの餘地ないのである。尙ほ新任重役としては頭取土居通博氏を始め常務高井信一郎、副常務高橋以下高田、土居、武藤、石井、藤本、小川、安原、西江、渡川、三村の諸重役何れも舊下代表的人材を擁護されてゐる。同行營業成績中主要項目を掲記すれば左の如し。

未拂込資本		未経過利息		未経過利息		未経過利息		未経過利息		未経過利息		未経過利息		未経過利息		未経過利息	
未拂込資本	1,200,000	未経過利息	250,000	未経過利息	1,700,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000
未経過利息	1,200,000	未経過利息	250,000	未経過利息	1,700,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000
未経過利息	1,200,000	未経過利息	250,000	未経過利息	1,700,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000	未経過利息	1,200,000

**山陽商業銀行** (資本金 百萬元)  
 諸積立金 百萬元

**中備銀行** (資本金 百萬元)  
 諸積立金 百萬元

**西江原銀行** (資本金 百萬元)  
 諸積立金 百萬元

**白生銀行** (資本金 百萬元)  
 諸積立金 百萬元

**合同貯蓄銀行** (資本金 百萬元)  
 諸積立金 百萬元

**藝備銀行** (資本金 百萬元)  
 諸積立金 百萬元

**廣島縣總論**  
 本縣は古來銀行の目録に於て、其の甚だ旺盛であつて、大正元年頃には六十餘行の多きを算したのであるが、其後合同論の高唱せらるゝに伴ひ、漸次合併合せられたるは云へ大正十一年末現在に於て農工銀行を除くれば莫大な數に達してゐる。而して其の資本力如何を見るに三十四行の資本一、千、四、百、七、十、萬圓にして、一、行、平均、三、十、萬圓に過ぎないから、其の資本力は甚だ貧弱なるを云はざるを得ない。試みに之を全國の一縣平均行數及資本比較表示して見ると

本縣は古來銀行の目録に於て、其の甚だ旺盛であつて、大正元年頃には六十餘行の多きを算したのであるが、其後合同論の高唱せらるゝに伴ひ、漸次合併合せられたるは云へ大正十一年末現在に於て農工銀行を除くれば莫大な數に達してゐる。而して其の資本力如何を見るに三十四行の資本一、千、四、百、七、十、萬圓にして、一、行、平均、三、十、萬圓に過ぎないから、其の資本力は甚だ貧弱なるを云はざるを得ない。試みに之を全國の一縣平均行數及資本比較表示して見ると

項目	本縣	全國平均
行數	34	29
資本	1,470,000	900,000
平均	43,235	31,034

即ち行數に於て五行を超過し、拂込額に於て約三分の一しか相當しないのである。而も藝備銀行の如き一行にして一千餘萬圓の資本金に對し四百萬圓の拂込額を有してゐる大銀行をも含まれてゐるのであるから、如何に群少銀行の多きかを推知し得る譯だが、以上の中資本百圓以上を有するもの僅かに九行を算するのみで他は何れもそれ以下である。云々現狀であるから、本縣も亦合同實施の餘地十分にあるものと觀察される。併し本縣に於ける中心銀行は、何云つても藝備一行であるから主として同行を中心として行はれるの他あるまいが、十四年上期に於て實現した同行三中國商業の合併の如く、廣島市内に散在する銀行を一丸とし、福山、吳及其他三有力銀行所在地に於て各合同を策するの方法に依れば所謂資本集中主義に依る内容の堅實なる有力銀行を出現せしむること必ずしも不可能ではあるまいと察せられる。切に當事者の考慮を希望せざるを得ないのである。



廣島市の諸銀行を合同し、大正九年一月資本金一千五百萬圓を以て創設されたものであつて、最も大規模な且つ理想的銀行合同の範を示した意義ある歴史を有してゐるのである。當時は幣制改革の途程にあり、我々銀行界は好況の極點に達してゐた折柄であり、且つ合併銀行の何れもが相當古き歴史を有し、堅固な信用を有した内容充實な銀行のみであつた關係から、それらの顧客一切を一堂に會した結果として、業績に隆昌を來し、預金は急激なる増加率を以て増品の一途を辿り、大正十一年には既に四百八十八萬圓の巨額を算するに至つたのである。爾來財界は漸く戦後の反動的な色彩濃厚となり、加ふるに十二年下期の關東大震災等あり、爲に四圍の情勢概ね悲觀材料のみを以て滿され、萎縮沈滞して何等活況の見ゆるべきもの無かつたのであるが、而も同行経営常事の周到なる経営策と多年培養される信用力の結果に依り預金貸出共に増加の趨勢を呈せず、逐年拡大の度を加へて今や五十萬餘圓を算するに至り、業況益々盛況を加へつゝある現狀である。而して其の理想とする銀行合同の實現を遂ぐべく十四年上期中に於て資本金百萬圓(二十五萬圓拂込)の中國商業銀行を合併して總資本金一千六百萬圓となし、拂込高四百萬圓、諸準備積立金百五十餘萬の多額を有し、更に確實なる

株式 藝備銀行營業成績比較表

負債ノ部	第五期 第九期 第十期			
	大正十一年十二月末	大正十三年十二月末	大正十四年六月末	大正十四年十二月末
資本金	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
準備積立金	100,000	100,000	100,000	100,000
法定準備金	100,000	100,000	100,000	100,000
別段積立金	100,000	100,000	100,000	100,000
建業準備積立金	100,000	100,000	100,000	100,000
諸準備積立金	100,000	100,000	100,000	100,000
退還給與準備金	100,000	100,000	100,000	100,000
公債預金	100,000	100,000	100,000	100,000
日本銀行預金	100,000	100,000	100,000	100,000
常備預金	100,000	100,000	100,000	100,000
特別當座預金	100,000	100,000	100,000	100,000
通知預金	100,000	100,000	100,000	100,000
定期預金	100,000	100,000	100,000	100,000
別段預金	100,000	100,000	100,000	100,000
諸債預金	100,000	100,000	100,000	100,000
他店及代理店勘定	100,000	100,000	100,000	100,000
仕掛金	100,000	100,000	100,000	100,000
借入金	100,000	100,000	100,000	100,000
未拂配當金	100,000	100,000	100,000	100,000
未拂利息	100,000	100,000	100,000	100,000
未経過割引料	100,000	100,000	100,000	100,000
公債支拂受託基金	100,000	100,000	100,000	100,000
行員身元保證金	100,000	100,000	100,000	100,000
前期純益金	100,000	100,000	100,000	100,000
内前期繰越金	100,000	100,000	100,000	100,000
合計	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000

有價証券一千九百餘萬圓に預け金及現金に於て三百七十餘萬圓、合計二千五百餘萬圓の準備力を有し、毎期七十餘萬の純利益を計上して多額の社内留保を行ひたる上尙且つ一年一割の株主配當を持續してゐるから、其の業績の良好なる其の内容の堅實無比なる事は、これ以上叙述するの必要あるまいと思ふ。現に縣下概要地に五十餘ヶ所の支店、六十餘ヶ所の派出所代理店を設置し、完全なる金融網を敷設して名實共に縣下唯一の代表的銀行たる實績を有し、地方金融界の潤滑なる運行を策するに共に産業振興の上にも多大の貢献を致しつゝある。同行現業は左の諸氏で何れも地方代表的の聲望家である。又以て信用の増大する所以を爲すに足るであらう。

取締役	松本清助	常務取締役	有村彦九郎
取締役	谷口節	取締役	伊藤新八
同	井藤茂兵衛	同	福永鉄之助
同	古川久吉	同	橋本三郎
同	光保三吉	同	倉田幾藏
同	久保田常次郎	同	石田九郎二
同	秋山九郎	同	山田

廣島縣農工銀行 (廣島市大手町)  
 資本金 二百萬圓(拂込済)  
 諸積立金 百三十五萬圓  
 諸預り金 四百萬圓  
 債券發行高 一千八十五萬圓  
 諸貸出高 一千八百二十萬圓

廣島縣農工銀行營業成績比較表  
 廣島縣農工銀行は明治三十一年六月の設立にして、地方農工銀行中有力なる銀行である。創業以來前後四十回に發行せる農工債券總額一千八百八十餘萬圓に達し、二百餘萬圓を償還して現在

負債ノ部	第十三年 第十四年			
	第十三年	第十四年	第十三年	第十四年
資本金	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
準備積立金	1,350,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000
諸預り金	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000
債券發行高	1,850,000	1,850,000	1,850,000	1,850,000
諸貸出高	1,820,000	1,820,000	1,820,000	1,820,000
日本銀行預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
代理店預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
常備預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
特別當座預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
通知預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
定期預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
別段預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
諸債預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
他店及代理店勘定	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
仕掛金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未拂配當金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未拂利息	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未経過割引料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
公債支拂受託基金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
行員身元保證金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
前期純益金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
内前期繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
合計	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000

廣島縣農工銀行營業成績比較表  
 第十三年 第十四年  
 現預金 1,000,000  
 営業用土地建物什器 1,000,000  
 代用土地建物什器 1,000,000  
 郵便預金 1,000,000  
 通知預金 1,000,000  
 常備預金 1,000,000  
 特別當座預金 1,000,000  
 通知預金 1,000,000  
 定期預金 1,000,000  
 別段預金 1,000,000  
 諸債預金 1,000,000  
 他店及代理店勘定 1,000,000  
 仕掛金 1,000,000  
 借入金 1,000,000  
 未拂配當金 1,000,000  
 未拂利息 1,000,000  
 未経過割引料 1,000,000  
 公債支拂受託基金 1,000,000  
 行員身元保證金 1,000,000  
 前期純益金 1,000,000  
 内前期繰越金 1,000,000  
 合計 1,000,000

株式 廣島産業銀行 (廣島市中島町)  
 資本金 百 萬 圓  
 拂込額 三十四萬圓  
 諸積立金 五十八萬圓  
 諸預り金 五百九十萬圓

廣島産業銀行は明治二十八年一月の創業に係り、地方産業の振興を助長する上に其の功績多く年々共に業況隆昌を告げ信用亦頗る厚く、今や六百萬圓に近き預金高を有する既下有数の銀行たるに至つた。歐戰好況期以後十二年頃までは預金七百數十萬圓を算したが、反動期後の財界不況深刻なるに伴ひ幾分づつ漸減歩調を辿るの已むなきに至つたが、これは財界の推移を反映する一般の現象であつて、必ずしも内容如何に關因するもの爲すべきでない。隨つて毎期世萬圓近き純益を計上し一年一割の配當を持續し得る所以であり、所有有價証券、預

金及現金等二百八十餘萬圓を有し、諸準備積立金亦六十萬圓を擁してゐる堅實なる内容であるから、財界の景氣好調に轉換する際は、蓋し目撃しき活潑振りを實現すべきものと觀察される。現業は左の諸氏で何れも縣下知名の實業家に屬する代表的人物、經營者、應援者と共に實績を著せしめるの才氣の卓越せる眞に好個の經營者であるから、海峽頭取を補佐して業績を更に良好ならしむるに疑ふ餘地ないものである。

取締役	海峽新八	常務取締役	煙谷孝吉
取締役	久保田次郎	取締役	古川久吉
同	谷口節	同	山科忠作
同	小川栗作	同	支配人 藤義文吉

株式廣島産業銀行營業成績比較表

Table showing financial performance of Rikkyo Industrial Bank for 1922 and 1923. Columns include assets, liabilities, and various income/expense items.

株式吳銀行 (吳市本通六丁目)

資本金 百 萬 圓
拂込額 三十二萬五千圓
諸積立金 二十 萬 圓
諸預り金 四百 萬 圓

株式備後銀行 (廣島縣府中町)

設立 明治三十三年十二月
資本金 百 萬 圓
拂込額 五十二 萬 圓
諸積立金 二萬株(舊四千株)

株式可部銀行 (安佐郡可部町)

設立 明治二十九年六月
資本金 百 萬 圓
拂込額 二十九萬五千圓
積立金 六萬九千圓
預り金 百六十三萬八千圓

株式三次實業銀行 (廣島縣三町十日市)

設立 大正三年九月
資本金 百 萬 圓
拂込額 七十二萬五千圓
總株數 二萬八千株(舊一萬株)

株式福山銀行 (福山市橋町)

設立 明治二十九年四月
資本金 百 萬 圓
拂込額 七十五萬二千圓

株式三共銀行 (廣島縣三町十日市)

設立 大正十年十二月
資本金 百 萬 圓
拂込額 二十五萬圓

株式廣島合同貯蓄銀行 (廣島市銀山町一三)

設立 大正十年十一月
資本金 百 萬 圓
拂込額 二十五萬圓
總株數 二 萬 株

35、山口縣ノ部

株式百十銀行 (下関市西南町)

資本金 七 百 萬 圓
拂込資本 三百三十八萬圓
諸積立金 二百四十四萬圓
諸預り金 三千二百八十萬圓

本土地産の要地に位置し、主要貿易港として常に船舶貨客の輻輳する下関市に本據を有し、縣下代表銀行たるのみならず、全國主要銀行の一として信用内容に最も充實せる百十銀行は、實に其の創業の歴史に於て、夙も前途を幸福ならしむべく運命づけられてきたのである。

株式百十銀行營業成績比較表

Table showing financial performance of Hyakujū Bank for 1922 and 1923. Columns include assets, liabilities, and various income/expense items.

更なる同行の最も強味とする處は、財界代表的の重役諸氏を有する點である。資本關係による三菱系、山口系の代表者は自ら別箇の問題として、曾ては大坂市長たり財界方面の重役として知られた頭取植村俊平氏は、多年經營の首班に列して、大いに努力したのであるが、近時健康衰へざるの故を以て、十四年春頭取の任を辭し、後任して多年常務の任に在つた齋藤謙氏の就任を見たのである。



**株式 二木銀行** (徳島市西横町通邊)  
**設立** 大正九年五月  
**資本金** 百五十萬圓  
**拂込額** 二十五萬圓  
**總株數** 二萬株  
**重役** 一木直次郎(取締役)橋野文三郎、賀川英太郎、二木竹太郎(監査)森吉兵次郎、増田爲三郎

**株式 高松百十四銀行** (高松市)  
**資本金** 一千二百六十二萬圓  
**拂込資本** 三百五十五萬圓  
**諸積立金** 二百萬圓  
**諸預り金** 三千二十萬圓

當行は銀行合同論の喧傳せらるるに應み、資本集中主義に立脚せる理想的な大合同を實施して大正十三年三月新銀行を設立されたものであつて、其の集合銀行は先づ明治十一年創業の古き歴史ある百十四銀行を始めし字多津、高松商業、高松、東讃等其主なるものであるが、何れも相當の歴史と地盤を有して隆々たる業績を有した有力なる代表的銀行の合同であるから、合同以後の業績の目覚ましいものありし事は云ふ迄もなく、總資本額一千二百六十二萬圓の巨額に達し、三百五十五萬圓の拂込資本を以て千餘萬圓の預金を有する四國四縣を通じて屈指の堂々たる一流銀行として、一般の信用を得る事頗る著大なるものである。而して貸出運用方面に於て千二百餘萬圓の諸貸出及コールローンを有し其収入利息乃至引等額を算し、更に九百餘萬圓の諸積立金と有價證券と六百餘萬圓の預金及現金と、二百餘萬圓の諸積立金と合計一千七百餘萬圓の準備力を知るに至らば、其の内容の充實程度と預金に対する支拂準備の如何に周到であるかを窺知するに十分なるのみならず、其の責任觀念の強固なるを推察し得て經營當事者の人格をも窺ひ知られるのである。此の如き美談の窺はれる結果として毎期三十餘萬圓の純利益を計上し、年一割二分の株主配當を維持し名實共に縣下の代表的一流銀行たる實質を示してゐるのである。現重役は左の諸氏で多くは合併前の各銀行代表重役として何れも財界知名の士揃ひである。

**取締役** 中村新太郎 常務取締役 宮武恒造  
**取締役** 堀田伊三郎 取締役 品地 隆  
**同** 近藤 太郎 同 三好常三郎  
**同** 今井 傳太 同 下津 操一  
**同** 大西虎之助 同 練田勝太郎  
**監査役** 北村 菊吉 監査役 田中 定吉  
**同** 小田 榮次 同 成瀬 正恭

**當期純益金** 三五、五五〇  
**其他共合計** 五、〇五二、三七〇  
**資産ノ部**  
 拂込未済資本金 七五〇、〇〇〇  
 諸貸出金 三、七六五、三三七  
 他店へ貸付金 三、八七五、九一〇  
 預金 一、一五〇、六三三  
 所有有價證券 一、六五七、七三三  
 營業用土地建物什器 一〇八、〇五七  
 所有不動産 二七、三〇四  
 現金 有 八、二二三  
 其他共合計 五、〇五二、三七〇

**株式 琴平銀行** (多度郡琴平町)  
**設立** 明治二十年六月  
**資本金** 百五十萬圓  
**拂込額** 六十五萬圓  
**總株數** 二萬株(新舊等分)  
**重役** (事務)石田真吉(取締役)藤岡長良、石井虎太郎、山下伊平、大西愛三郎、三木清一郎、松田清、加藤和美(監査)石井勝太、草壁賢策、近藤 靖

**株式 讃岐貯蓄銀行** (高松市南新町)  
**設立** 大正十年十一月  
**資本金** 百五十萬圓  
**拂込額** 二十五萬圓  
**總株數** 二萬株  
**重役** (代取締役)藤田勝太郎、堀田伊三郎、井上耕作(取締役)石田真吉、景山甚右衛門、細淡宗次郎、中村新太郎、近藤太郎、潮尾

**株式 四國銀行** (高松市)  
**資本金** 一千八十萬圓  
**拂込資本** 六百十五萬圓  
**諸積立金** 六十萬圓  
**諸預り金** 二千三百八十萬圓

資産ノ部	十二期	十三期
未拂込資本金	750,000	750,000
諸貸出金	3,765,337	3,875,910
他店へ貸付金	3,875,910	1,150,633
預金	1,150,633	1,657,733
所有有價證券	1,657,733	108,057
營業用土地建物什器	108,057	27,304
所有不動産	27,304	8,223
現金 有	8,223	5,052,370
其他共合計	5,052,370	5,052,370

**株式 四國銀行 營業成績比較表**

項目	十二期	十三期
前當期純益金	35,550	5,052,370
其他共合計	5,052,370	5,052,370

**株式 綾歌銀行** (綾歌郡坂出町)  
**資本金** 百五十萬圓  
**拂込額** 七十五萬圓  
**諸積立金** 六萬二千圓  
**諸預り金** 三百三十五萬圓

當行は大正四年六月資本金五十萬圓を以て設立され、爾來歐戰好況期に際會して著しく業務發展を遂げ更に百餘萬圓を増資し總額百五十萬圓半額拂込を以て今日に至つたのである。此間財界不況期に際しても常に堅實なる營業方針を以て終始した結果、業績頗る良好で現今三百三十餘萬圓の預金を有し二百七十餘萬圓の貸出を行ひ、年八厘の株主配當を維持してゐる。現任重役は左の諸氏である。

**取締役** 木村 榮吉 専務取締役 大石 昌一  
**常務取締役** 安達 賢 取締役 山田利平太  
**取締役** 土岐 安平 同 綾 喜七  
**同** 桑島 傳 監査役 藤田 晃  
**監査役** 中西孫太郎 同 谷 政太郎

**當期純益金** 一、五〇〇、〇〇〇  
**其他共合計** 一、五〇〇、〇〇〇  
**資産ノ部**  
 未拂込資本金 9,465,000  
 諸貸出金 2,655,597  
 コールローン 1,000,000  
 他店へ貸付金 1,084,416  
 所有有價證券 8,663,104  
 營業用土地建物什器 1,334,499  
 所有不動産 453,713  
 現金 有 4,731,764  
 其他共合計 50,781,267

**株式 高知縣ノ部**  
**株式 四國銀行** (高知市浦戸町)  
**資本金** 一千八十萬圓  
**拂込資本** 六百十五萬圓  
**諸積立金** 六十萬圓  
**諸預り金** 二千三百八十萬圓

當行は徳島縣の關ノ銀行と共に銀行王國安田系の一に屬するもので、其の創業は明治三十年三月に在り古き歴史も充實せる内容も而して尨大なる資本的背景を有する事に依つて、縣下唯一の代表銀行として一般の信用頗る絶大なるものがある時勢の進展に伴ひ財界の起伏に順應して漸次内容施設の改善を行ひ、或は合併或は増資を行ふこと數次、就中土佐銀行の如き有力銀行を合併したる結果、現今一千八十萬圓(内六百十五萬圓の拂込)の巨大な資本を有し二千三百七十餘萬圓の預金と二千三百八十餘萬圓の貸出高を有する堂々たる大銀行たるに至つたのである。而して毎期三十餘萬圓の純利益を挙げこれに繰越金を合すれば四十萬圓近く其中多額の社内留保を控除して準備力の充實に當ては且年一割の株主配當を維持してゐるのであるから同様の内容は何れも點より見るも極めて堅實なる銀行として信頼するに足るは勿論である。現重役は左の諸氏で安田家の當主及其の一門の輝々たるを有し他は何れも縣下屈指の聲望家を網羅してゐる。

**取締役** 安田 善衛 取締役 伊澤 竹衛  
**取締役** 古井 山之 同 池 忠彦  
**同** 吉本 菊馬 同 大脇 順路  
**同** 小野 十三郎 監査役 金原 品  
**監査役** 井上 作次郎 同 岡村 秀盛  
**同** 安田 善次郎 同 宇田 友四郎  
**同** 山本 忠秀

負債ノ部	十二期	十三期
前當期純益金	35,550	5,052,370
其他共合計	5,052,370	5,052,370

高知商業銀行

設立 大正六年二月
資本金 四百萬圓
總額 二百五十萬圓
總株數 八萬株(新舊等分)

高陽銀行

設立 明治三十年五月
資本金 百萬圓
拂込額 二十九萬五千圓
總株數 二萬株(舊一千二百株)

愛媛縣總論

瀬戸内海に面せる細長き伊豫國は、或は海濱に或は山岳に
或は沃野に或は山地を占め、随つて其の製産の經濟價值は
中國、四國を通じて恐らく第一等の地位を占むるであらう。

五十二銀行營業成績比較表

Table with multiple columns showing financial data for various banks across different periods (e.g., 第五十二期, 第五十五期, 第五十六期).

愛媛銀行

資本金 五百萬圓
拂込資本 三百六十萬圓
諸積立金 六十五萬圓
諸預り金 一千二百二十萬圓

當行は松山市に於ける古き歴史に堅固なる地盤を、而して
絶大な信用を有し業績の隆々たるものあつた松山商業銀行

るに共に之れが實現の可能性は十分に認められるのである。
勿論何れも相當の歴史と基礎とを有する銀行たるに争ひはな
いのであるが、所謂小異を捨て、大同に即き國家經濟機關

五十二銀行

資本金 七百十二萬五千圓
拂込資本 五百四十五萬八千圓
諸積立金 二百二十二萬四千圓
諸預り金 二千三百八十八萬圓

其の内容の充實せる事と營業の穩健實質にして、信用の博
大なる事とに於ては松山市に本店を有する五十二銀行である

右表の明示せる如く戰前、即ち大正一二年當時に戰前好況期
たる八年を比較する時、資本力に於ても預金貸出に於ても

愛媛銀行營業成績比較表

Table showing financial data for Awa Bank (愛媛銀行) for the 12th and 13th periods. Columns include assets (資本金, 準備金, etc.) and liabilities (負債). Values are listed in Japanese Yen.

今治商業銀行 (今治市早野町) 營業成績比較表

Table showing financial data for Imari Commercial Bank (今治商業銀行) for the 12th and 13th periods. Includes asset and liability sections with detailed sub-categories.

今治商業銀行營業成績比較表

Textual analysis of the Imari Commercial Bank's performance, discussing capital growth, asset management, and operational challenges.

Table showing financial data for Daiichu Bank (大洲銀行) for the 12th and 13th periods. Includes asset and liability sections with detailed sub-categories.

大洲銀行 (喜多郡大洲町) 營業成績比較表

Table showing financial data for Daiichu Bank (大洲銀行) for the 12th and 13th periods. Includes asset and liability sections with detailed sub-categories.

大洲銀行營業成績比較表

Table showing financial data for Daiichu Bank (大洲銀行) for the 12th and 13th periods. Includes asset and liability sections with detailed sub-categories.

西條銀行 (新居郡河津町)

諸債出金	六三六、三三三	六三六、三三三	六三六、三三三
手形貸付	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
當座預金貸越	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇
割引手形	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
荷付爲替手形	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
他店へ貸	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
支拂承諾見返	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
預有價証券	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
公債証券	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
社債及地方債	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
株債	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
農業用土地建物什器	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
所有不動産	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
其他共計	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
現金	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
其他共計	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三

西條銀行 西條銀行營業成績比較表

當行は明治十二年七月の創業で、縣下最古の銀行である。随つて多年培養し來つた信用力は其の堅實なる營業方針と相俟つて業績の良好を招き、歐戰以來頗る活況を呈し、地方産業界の爲に奮起する處甚だ多かつたのである。此間時流に順

應して漸次資本を増加し好況期には二百二十萬圓に達し、更に二百五十萬圓に増加して現今に及んだのであるが、而して十二年下期末には四百五十萬圓の預金を吸収し、二百九十餘萬圓の貸出を行ひ、餘りも手堅き方針に終始し多大の信用を得てゐる。現置は左の諸氏である。

頭取 岡本榮吉 常務取締役 伊田經太郎  
 取締役 伊田經太郎 取締役 森田泰平  
 同 伊田經太郎 同 平井定次郎  
 監査 藤田俊三 監査 久米榮太郎  
 同 藤田俊三 同 堀出昇  
 支配人 石川彦平

内子銀行 (喜多郡内子町)

諸債出金	六三六、三三三	六三六、三三三	六三六、三三三
手形貸付	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
當座預金貸越	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇
割引手形	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
荷付爲替手形	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
他店へ貸	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
支拂承諾見返	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
預有價証券	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
公債証券	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
社債及地方債	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
株債	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
農業用土地建物什器	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
所有不動産	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
其他共計	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
現金	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
其他共計	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三

今出銀行 (喜多郡今出町)

當行は明治十二年七月の創業で、縣下最古の銀行である。随つて多年培養し來つた信用力は其の堅實なる營業方針と相俟つて業績の良好を招き、歐戰以來頗る活況を呈し、地方産業界の爲に奮起する處甚だ多かつたのである。此間時流に順

應して漸次資本を増加し好況期には二百二十萬圓に達し、更に二百五十萬圓に増加して現今に及んだのであるが、而して十二年下期末には四百五十萬圓の預金を吸収し、二百九十餘萬圓の貸出を行ひ、餘りも手堅き方針に終始し多大の信用を得てゐる。現置は左の諸氏である。

頭取 岡本榮吉 常務取締役 伊田經太郎  
 取締役 伊田經太郎 取締役 森田泰平  
 同 伊田經太郎 同 平井定次郎  
 監査 藤田俊三 監査 久米榮太郎  
 同 藤田俊三 同 堀出昇  
 支配人 石川彦平

愛媛縣農工銀行 (松山郡三番町)

諸債出金	六三六、三三三	六三六、三三三	六三六、三三三
手形貸付	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
當座預金貸越	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇
割引手形	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
荷付爲替手形	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
他店へ貸	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
支拂承諾見返	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
預有價証券	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
公債証券	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
社債及地方債	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
株債	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
農業用土地建物什器	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
所有不動産	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
其他共計	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
現金	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三
其他共計	三三三、三三三	三三三、三三三	三三三、三三三

宇和島銀行 (宇和島市)

當行は明治十二年七月の創業で、縣下最古の銀行である。随つて多年培養し來つた信用力は其の堅實なる營業方針と相俟つて業績の良好を招き、歐戰以來頗る活況を呈し、地方産業界の爲に奮起する處甚だ多かつたのである。此間時流に順

應して漸次資本を増加し好況期には二百二十萬圓に達し、更に二百五十萬圓に増加して現今に及んだのであるが、而して十二年下期末には四百五十萬圓の預金を吸収し、二百九十餘萬圓の貸出を行ひ、餘りも手堅き方針に終始し多大の信用を得てゐる。現置は左の諸氏である。

頭取 岡本榮吉 常務取締役 伊田經太郎  
 取締役 伊田經太郎 取締役 森田泰平  
 同 伊田經太郎 同 平井定次郎  
 監査 藤田俊三 監査 久米榮太郎  
 同 藤田俊三 同 堀出昇  
 支配人 石川彦平

**株式 卯之町銀行** (東京市和歌山町卯之町)  
**設立** 明治十五年一月  
**資本金** 百 萬 圓  
**拂込額** 八十六萬二千五百圓  
**重 株 數** 二萬株(舊九千株)  
 (頭取)堀部彦次郎(取締役)岩城泰助、濱江高信、原村繁治郎、中川鹿太郎(監査)今西林三郎、河野藤吉

**株式 三津濱銀行** (福島郡三津濱)  
**設立** 明治二十九年十二月  
**資本金** 百 萬 圓  
**拂込額** 七十五萬圓  
**重 株 數** 二萬株(舊一萬二千株)  
 (頭取)本多真喜雄(取締役)古谷長治郎、白江孝成、末光辰五郎、末光千代太郎(監査)別宮良、川原貞一、土屋登治郎

**株式 伊豫三島銀行** (宇摩郡三島町)  
**設立** 明治三十五年七月  
**資本金** 百 萬 圓  
**拂込額** 六十二萬五千圓  
**重 株 數** 二萬株  
 (頭取)藤永保定、山中振三郎、前谷武一、井川儀三郎、藤永長太郎、山中義貞(監査)仁野藤造、前谷善藏、石田春次(支配)加地竹郎

**株式 實業銀行** (四ノ宮郡四ノ宮町)  
**設立** 明治三十三年十月  
**資本金** 百 萬 圓  
**拂込額** 三十二萬五千圓  
**重 株 數** 二萬株(舊二千株)  
 (頭取)宇部宮貞一(取締役)矢野小十郎、宇部宮壯十郎、二宮精四郎、辻浩藏、得能精藏(監査)佐々木太夫、菊地武雄、橋本彌五郎(支配)河部定一

**大分縣ノ部**  
**株式 一二三銀行** (大分市大字大分)  
**資本金** 一 千 萬 圓  
**拂込額** 六百二十五萬圓  
**諸積立金** 百五十萬圓  
**諸預り金** 一千七百六十萬圓

常行は明治十年十一月創立第二十三銀行として創立され、同三十年營業満期と共に業務一切を繼承して株式會社二三銀行に改稱し、漸次資本を増大して歐戰前二百四十萬圓となり、戰時好況期には五百萬圓に達し更に増資を行ひ一千萬圓の大資本となつて今日に及んだものである。此間財界の起伏に伴ひ時に消長があつた事勿論であるが、而も多年の培養に成る業は更に動する事なく、業況益々隆盛を極め内容の充實、信用の加重而して業績良好と云ふ結果を招きしや一千七百六十萬圓の預金を抱擁し懸下唯一の金融機關として活躍しつつある。殊に歐戰後財界の著しき恐慌に加へ企業盛

**株式 三津濱銀行營業成績比較表**

資 産 ノ 部	下十二年		下十三年	
	金額	前年比	金額	前年比
未拂込資本金	3,280,000	100%	3,280,000	100%
諸積立金	1,312,000	100%	1,312,000	100%
手形貸付	3,266,000	100%	3,266,000	100%
常座貸付	3,336,000	100%	3,336,000	100%
荷付爲替手形	6,670,000	100%	6,670,000	100%
仕拂承諾見返	8,672,000	100%	8,672,000	100%
所有有價証券	3,807,000	100%	3,807,000	100%
營業用土地建物什器	8,220,000	100%	8,220,000	100%
所有不動産	3,870,000	100%	3,870,000	100%
現金	1,861,000	100%	1,861,000	100%
預金	1,861,000	100%	1,861,000	100%
其他	3,870,000	100%	3,870,000	100%
其他共合計	44,667,000		44,667,000	

**株式 伊豫貯蓄銀行** (松山市横町)  
**設立** 大正十年十二月  
**資本金** 百 萬 圓  
**拂込額** 二十五萬圓  
**重 株 數** 二 萬 株  
 (頭取)中田傳之松(常務)大野健(取締役)八木春樹、村上幸太郎、村瀬正敏、須田實三郎(監査)芳我吉右衛門、林真佐治、黒田廣治、宮崎儀貞、佐々木長治、村上丈夫

**40、九州總論**

九州一帯に於ける經濟的價値は敢て之を論じやうとするものではないが、或は鐵山に或は電氣事業に或は農林、海産に其他あらゆる産業の旺盛なるに於て、優越な地位を占むる事實は之を否定し得られないのである。隨つて金融機關の發達せる事も亦著しきものあり、大正十二年末現在の調査に據れば九州七縣に本店を有するもの二百四十一行の多きに達し、此の拂込資本八千萬圓を算する。即ち全國總行數の一割三分強に相當し、拂込資本に於て〇・八割弱に相當するのである而して之を縣別に見ると次の如く現はれてゐる。

行 數	普通貯蓄計	普通貯蓄計
福岡	1,000,000	1,000,000
大分	500,000	500,000
佐賀	300,000	300,000
長崎	200,000	200,000
熊本	100,000	100,000
宮崎	100,000	100,000
鹿兒島	100,000	100,000
合 計	2,300,000	2,300,000

**株式 大分銀行** (大分市竹町通二丁目)  
**資本金** 六百五十萬圓

**株式 伊豫貯蓄銀行** (松山市横町)  
**諸積立金** 七百二十五萬圓  
**諸預り金** 七百二十萬圓







**鹿島銀行** (總行 鹿島) 明治二十八年十二月  
 資本 百 萬 圓  
 總行 鹿島  
 支店 鹿島、川崎、川口、浦和、大宮、宇都宮、東京、横浜、名古屋、大阪、京都、神戸、福岡、北九州、仙台、盛岡、青森、秋田、岩手、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、徳島、香川、岡山、広島、山口、徳島、香川、岡山、広島、山口、徳島、香川、岡山、広島、山口

**相互銀行** (東京) 明治三十年十二月  
 資本 百 萬 圓  
 總行 東京  
 支店 東京、横浜、名古屋、大阪、京都、神戸、福岡、北九州、仙台、盛岡、青森、秋田、岩手、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、徳島、香川、岡山、広島、山口、徳島、香川、岡山、広島、山口

**43、長崎縣ノ部**  
**十八銀行** (本店長崎) 明治三十年十二月  
 資本 百 萬 圓  
 總行 長崎  
 支店 長崎、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島、鹿兒島、那覇、東京、横浜、名古屋、大阪、京都、神戸、福岡、北九州、仙台、盛岡、青森、秋田、岩手、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、徳島、香川、岡山、広島、山口、徳島、香川、岡山、広島、山口

沿革 九州七縣を通じて銀行数甚だ多し、其の創業歴史に於て、其の内容の充實完備せる點に於て、基礎の牢固不拔なる點に於て、而して又業況の際々たる點に於て恐らく他の諸銀行に劣らざるものあるは之れを株式會社十八銀行に求めねばならぬ。由來長崎の地が本邦最初の開港場であり、泰西文物の粹を仰ぐも初めて我國土に移さしめたるものも即ち長崎港であるに於て、経済的に先驅者たる地位に處したる此地に、金融機關の發達顯著なるものあつた事も亦甚だ當然でなければならぬ。維新開港時代の金融機關は皆く個別の問題として銀行條例に基く組織の機關は、明治十年頃早くも國立銀行の名に依つて創設せられてゐたのである。所謂西郷戰爭末期の物情騒然たる明治十年十一月、第十八國立銀行として創立せられたるもの、即ち當行の前身であつて明治三十年の營業滿期と共に組織を變更し業務の一切を繼承して株式會社十八銀行と改稱し、爾來世界の形勢に順應してよく機宜の措置を講じ、高度の發展を遂げ、資本の増加、

内容の充實を策し若くして歩武を向め創業以來此處に四十年、今や一千五百萬圓の巨大なる資本を有する堂々たる一流銀行として絶大の信譽を博し、業況日に隆昌を加ふるに至つたのである。  
 戦前戦後の業績 創業以來年々開するに四十年有八年決算期を重ぬる九十有七回、正に五十年の記念を迎へんとする光輝ある業史は、又實に奮闘の活歴史であつたことを忘れてはならぬ。事物盛衰あるは即ち自然の道理、財界亦常に起伏あるが經濟の定則、業況時に消長を免れざりしと雖も、而も歴代の経営者よく時流の趨勢を遠視して諸般の施設宜しきを得た結果、巧みに財界の波瀾を乗り切つて今日の業績ありしめたるのであるが此間特に著しき發展を遂げたのは云ふ迄もなく戦前好況期であつて、當時實に劃期的の躍進を示した事に疑ひはないのである。然らば如何なる速度を以て内容の大きを加へたか、即ち同行内容の進歩を知るべく戦前戦後の業績を比較對照して見るに次の如く表示し得るのである。  
 (單位千圓)  
 資本金 明治三十年十二月 八〇、〇〇〇、〇〇〇  
 八年下 六〇、〇〇〇、〇〇〇  
 十一年下 八〇、〇〇〇、〇〇〇  
 十二年下 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇  
 十三年下 一三〇、〇〇〇、〇〇〇  
 十四年上 一六〇、〇〇〇、〇〇〇

以上数字が最も明白に説明してゐる如く、各科目共に著しく増加しつゝ、尙且つ財界の事情と相併行し來つた事を物語つてゐる。即ち戦前の資本に比し戦時好況期並に反動期に於ける資本力は二倍強に増大し、預金は何れも三倍強に増加してゐる事を知り得る。而して貸出に於て幾分預金額を超過する傾向に在るが、これ同行が特に産業資金供給に努力し來つた所以であり、就中朝鮮に於ける産業開發に致せる功績は頗る莫大なるものである。此の貸出高の多額なる事を以て故なる貸出率と觀察する者ならば誤解の表しもの云はねばならぬ。吾人は之れを以て寧ろ同行の業務發展の歴史をなし、且つ朝鮮開拓の功勞者として推賞したいのである。試みに同行支店所在地を知るに至らば朝鮮に於ける各主要都市殆んど及ばざるなきまでに金融網の敷かれてゐる事を知り得る。これ同行が第一銀行と共に證據であると同時に、其の功勞は永久に没せざるものでなくてはならぬ。此の如く確實なる貸出の多きに依つて當然生ずる収入利息割引料の増加となり、業績の上にも重大な影響を齎す譯で、毎期五十數萬圓の純利益を計し上り得る唯一の財産なのである。斯くして年一割の株主配當を維持しつゝ、ある業績は誠に良好なると思ふ。若し夫れ同行の内容充實振りを説明する事實を擧げて詳述するならば如何に堅實性に富んでゐるかを直ちに瞭解し得るのであるが、叙上記述し來つた所に依つて既に之れを盡し得たりと信するが故に此處に其類を重ねる事を避け、現任経営者諸氏に就て一言を費して置きたい。  
 現任経営者 凡そ事業の何たるを問はば其の大政

もこれが運用の妙を得るに非ざれば初期の目的は達し得ない。此意味に於て吾等は資本よりも寧ろ經營の術に當る一人の重要な事なる事を得るものである。人は得易くして而も得難し其の得難きを人を得る事によつてのみ事の大成を期し得られるのである。勿論過去を善處し來つた歴代重役の力は之れを凌却する能はないが、而も歐戰以來の經營の衝に當れる現重役諸氏の功績亦頗る多大なりとせねばならぬ。就中松田重役の如きは縣下屈指の實業家であり多年銀行經營者として實務に精通し其の學識手腕共に卓越せる名頭取の定評あり、取捨後松田二三氏は其の關係にあり、共に縣下名家として知られたる家柄、是立業務亦多年同行重役として永く京城探題たり實務に精通し經營の才氣を蒙るる逸材、松田重役は縣下財界の長老として又曾て同行副頭取の重任に在り今日の基礎を固めたる功勞者松田英三氏の嗣子、現頭取の甥で新進の壯年實業家として前途を囑望されてゐる。永見重役は永見前頭取の一門、松田重役亦縣下有数の實業家たり高商出身の新進として知られ、田澤重役も縣下有数の實業

株式十八銀行營業成績累年比較表

負債ノ部	第九十期			第九十一期			第九十五期		
	上期	本期	増減	上期	本期	増減	上期	本期	増減
資本	100,000,000	100,000,000	0	100,000,000	100,000,000	0	100,000,000	100,000,000	0
積立金	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0
公積金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
特別當座預金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
定期預金	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0
仕入掛	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
他店借入金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
借入金	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0
未拂利息未経過引料	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
前期繰越利益金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
当期繰越利益金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
其他共計	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
資産ノ部	100,000,000	100,000,000	0	100,000,000	100,000,000	0	100,000,000	100,000,000	0
未償資本	100,000,000	100,000,000	0	100,000,000	100,000,000	0	100,000,000	100,000,000	0
貸出金	50,000,000	50,000,000	0	50,000,000	50,000,000	0	50,000,000	50,000,000	0
手形貸付	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0
當座預金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
定期預金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
引当金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
他店借入金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
仕入掛	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
他店借入金	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
所有負債	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0
諸公債	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0

株債	七三三
貸付有價証券	三三三
營業用土地建物什器	七三三
所有不動産	三三三
現金	三三三
其他	三三三
合計	三三三

公債	六三六
株債	三三三
貸付有價証券	三三三
營業用土地建物什器	三三三
所有不動産	三三三
現金	三三三
其他	三三三
合計	三三三

**株式 佐世保商業銀行** (佐世保市橋町)  
 資本金 二百萬圓  
 拂込額 二百二十四萬圓  
 諸積立金 十五萬圓  
 諸預り金 百六十五萬圓

當行は明治三十三年七月の創業に係り大正七年三月資本金二百萬圓の株式會社に組織を變更して、業務の刷新を期し經營

株式 佐世保商業銀行營業成績比較表

資産ノ部		負債ノ部	
未拂込資本	200,000	諸積立	150,000
諸積立	150,000	諸預り金	165,000
手形	100,000	貸付	100,000
他	100,000	其他	100,000
合計	550,000	合計	550,000

**株式 長崎銀行** (長崎市江町三ノ一〇)  
 資本金 五百萬圓  
 拂込額 百七十五萬圓  
 諸積立金 十萬圓  
 諸預り金 百十萬圓

當行は大正八年十二月を以て創立され、九年一月營業開始せる新進銀行である。資本金の大なるに拘らず創業日尙淺き

株式 長崎銀行營業成績比較表

資産ノ部		負債ノ部	
未拂込資本	500,000	諸積立	100,000
諸積立	100,000	諸預り金	100,000
手形	100,000	貸付	100,000
他	100,000	其他	100,000
合計	800,000	合計	800,000

**株式 長崎縣農工銀行** (長崎市大町一八)  
 資本金 二百萬圓  
 拂込額 百四十萬圓  
 總株數 十萬株(舊四萬株)

(取組代表)島津長知(取組)立石弘良、野田三郎、從憲定、植木元太郎、田崎周三郎、長見徳太郎(監査)田中茂一、澤本徳太郎、山崎康造

**株式 佐世保銀行** (佐世保市酒田町)  
 資本金 二百萬圓  
 拂込額 百二十五萬圓  
 總株數 四萬株(新舊等分)

(頭取)須藤直方(取組)富田等平、濱崎博二郎、一之瀬静夫、村山市太郎、豊村八太郎(監査)富村權平、郡三郎、木崎芳平(支配)佐原一郎

**株式 諫早銀行** (北高來郡諫早町)  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 七十五萬圓  
 總株數 三萬株(舊一萬株)

(取組)野田三郎、田崎松一郎、大尾寅九郎、土橋謙平、山口經夫(監査)田中平治、瀧頭彌八、木田規矩雄、山口力勝

**株式 長崎貯蓄銀行** (長崎市榮町一〇七)  
 設立 明治二十六年一月

**株式 殖産銀行** (東彼杵郡彼杵村)  
 資本金 百萬圓  
 拂込額 二萬株(舊六千株)

(取組)松田精一、松田一三、足立三郎(監査)若杉米太郎、松田順次、永見徳太郎(支配)中尾徳郎

**株式 西州銀行** (東彼杵郡彼杵村)  
 資本金 百萬圓  
 拂込額 七十萬圓  
 總株數 二萬株(新舊等分)

(頭取)古川三郎(取組)前川覺太郎、森田政太郎、豊村八太郎、羽田義八、田崎重郎(監査)金氏嘉吉、岩崎助太郎、中村彌七郎(支配)深江賢、中村義保(監査)田中儀一、今里友次郎、尾崎隆三

**株式 波佐見銀行** (東彼杵郡波佐見村)  
 資本金 百萬圓  
 拂込額 六十二萬五千圓  
 總株數 二萬株(新舊等分)

(頭取)今里友次郎(取組)一瀬勝治、小島居逸民、流川正雄、久保田榮蔵(監査)深山千太郎、浦野寅太郎、中尾彌三郎

**株式 長崎高木銀行** (長崎市東濱町九五)  
 設立 大正元年十一月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 二十五萬圓  
 總株數 二萬株  
 重役 (頭取)高木與作(取締)高木友房、高木義貴、高木虎雄(監査)高木勘四郎、西國多吉

**44、熊本縣ノ部**  
**株式 肥後農工銀行** (熊本市唐屋町)  
 設立 明治三十一年三月  
 資本金 三百萬圓  
 拂込額 二百五十九萬五千七百六十圓  
 總株數 十五萬株  
 重役 (取締)津熊太郎、豊藤章、高木第四郎、内藤輝俊(同支店)林千八、杉原惟敬(監査)原田十郎、平山岩彦、高森新、安田善道(支店)中津熊太郎

**株式 天草銀行** (天草郡本渡町八四七)  
 設立 明治二十五年二月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 八十五萬圓  
 總株數 三萬株(舊一萬株)  
 重役 (取締)森万太郎、松本久太郎、中村利藤太(同支店)横山幸三郎、原田常造(監査)金澤久四郎、有馬百三、井藤平四郎

**株式 芥州銀行** (天草郡本渡町四八九)  
 設立 大正十一年三月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 三十七萬五千圓  
 總株數 三萬株  
 重役 (代取締)宮崎鐵造(取締)山崎須七、池田泰親、小見山七十五郎、立田其作、金澤保市、有馬三三、小野高策(監査)島田文作、中村清彦、脇山真一(支店)長島勇代

**株式 九州銀行** (熊本市西唐人町三三)  
 設立 明治三十二年十一月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 五十二萬圓  
 總株數 二萬株(舊四千株)  
 重役 (取締)中井和八、常川長三(取締)相田

享(監査)高崎新造、久保田良重、江藤重能、西本平藏

**45、宮崎縣ノ部**  
**株式 宮崎銀行** (宮崎市上西町)  
 設立 大正九年十二月  
 資本金 三百萬圓  
 拂込額 七十五萬圓  
 總株數 六萬株

當行は歐戰末期の對界好況の極に達せる大正九年十二月を以て創立され、獨來堅實なる營業方針を相俟つて業績大いに舉がり前途多岐の望みを賜せられたが時恰かも反動期に入り四圍の情勢日に否なるものあり、隨つて全國銀行界にも大影響を及ぼしたのであるが同様の如きは開業日尚ほ淺かりし爲めに特計すべき影響を蒙らず、只だ預金吸收の上には幾分の反動を示せるに過ぎなかつたのである。何れにせよ對界の起伏に伴ひ其の消長を定むべき金融事業界なるを以て今尚ほ潜伏時代を脱せられぬが其の資本力乃至經營者等の陣容より見て前途必ずや一大活躍を圖すべきを疑はないのである。現任重役は左の諸氏である。

**株式 延岡銀行** (宮崎縣延岡町南町)  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 六十二萬五千圓  
 諸積立金 二十六萬八千圓  
 諸預り金 二百二十萬圓

當行は明治十二年九月の創立で、行齡四十六年を経過した。雖下唯一の古き歴史を有する銀行である。隨つて基礎の鞏固なことを、内容の充實してあること、而して信用の絶大であること等に於て多く其比を見ない堅實振りを以て地方産業界の爲めに貢献する處頗る大であつた。歐戰好況期には相當の業績を挙げ更に内容を充實し來つたが、反動期以來一般の現象として漸く潜伏期に入り何等目新しき活況を示さず、併し多年培養し來つた根柢は到底他の新進銀行と同一視すべきでなく對界立直りの機到らば再び往時の活況に復するこゝ期して待つべく、前途頗る有望なるを疑はぬ。現任重役は左の諸氏である。

株式 延岡銀行 營業成績比較表

負債ノ部	上十三年			上十三年			上十四年		
	期	期	期	期	期	期	期	期	
資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
諸積立金	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	
公積金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
特別當座預金	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
定期預金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
通知預金	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
其他預金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
借入金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
再割引手形	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
仕入手形	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
仕入引当金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
未経過利息	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
未経過割引	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
前期繰越金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
前期繰越金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
其他共合計	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	

  

資産ノ部	上十三年			上十三年			上十四年		
	期	期	期	期	期	期	期	期	
拂込未済資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
諸積立金	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	
公積金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
特別當座預金	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
定期預金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
通知預金	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
其他預金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
借入金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
再割引手形	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
仕入手形	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
仕入引当金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
未経過利息	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
未経過割引	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
前期繰越金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
前期繰越金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
其他共合計	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	

**株式 宮崎農工銀行** (宮崎市宮崎)  
 設立 明治三十年十二月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 五十五萬圓  
 總株數 五萬株  
 重役 (頭取)大崎敬方(取締)高橋源次郎、後藤嘉太郎、住江誠房、福島潤(監査)山本彌左衛門、持永善市、戸島源藏(支店)大内定也

**株式 日州銀行** (宮崎市上西町)  
 設立 明治四十年八月  
 資本金 百五十萬圓(拂込済)  
 諸積立金 八十五萬圓  
 諸預り金 一千萬圓  
 總株數 三萬株  
 重役 (頭取)伊東謙千代(取締)大崎敬方、高橋源次郎、黒岩常平、長峰伊作、福島潤、日高三郎(監査)菅波謙治、杉田英逸、後藤嘉太郎

**株式 都城銀行** (都城町)  
 設立 大正八年八月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 六十萬圓  
 總株數 二萬株  
 重役 (代取締)西河治平、兒玉謙之助(取締)石原嘉太郎、江夏岩吉、藤崎計佐太郎、森

**株式 佐土原銀行** (宮崎縣佐土原町)  
 設立 明治三十二年十二月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 六十七萬五千圓  
 總株數 二萬株(舊七千株)  
 重役 (事務)日高慶(取締)日高徳太郎、松田利助、渡邊國太郎、高橋辰吉(監査)兒玉安太郎、泰備助

**株式 日向銀行** (宮崎縣高崎町高崎)  
 設立 明治三十年八月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込額 五十八萬圓  
 總株數 二萬株(舊六千株)  
 重役 (事務)西田文次郎(取締)黒木清五郎、村山捨次郎、岩村重五郎、大山久次郎、安藤文七、兒玉仁藏(監査)山崎平一、齋藤千代次郎、武土喜久次

**46、鹿兒島縣ノ部**  
**株式 第四百七十七銀行** (鹿兒島市金生町)  
 資本金 一千五百萬圓









株式会社 北海道銀行 營業成績比較表

項目	下十二年		下十三年	
	金額	比率	金額	比率
資産ノ部	33,333,333	100.0%	33,333,333	100.0%
未償還資本	10,000,000	30.0%	10,000,000	30.0%
諸積立金	23,333,333	70.0%	23,333,333	70.0%
預金	10,000,000	30.0%	10,000,000	30.0%
貸付	10,000,000	30.0%	10,000,000	30.0%
他	13,333,333	40.0%	13,333,333	40.0%
負債ノ部	33,333,333	100.0%	33,333,333	100.0%
資本	10,000,000	30.0%	10,000,000	30.0%
預金	23,333,333	70.0%	23,333,333	70.0%

株式会社 泰北銀行 (小樽市色内町)

資本金	百五十萬圓
諸積立金	二十五萬圓
諸預り金	百十萬圓

株式会社 泰北銀行 營業成績比較表

項目	下十二年		下十三年	
	金額	比率	金額	比率
資産ノ部	1,000,000	100.0%	1,000,000	100.0%
未償還資本	500,000	50.0%	500,000	50.0%
諸積立金	500,000	50.0%	500,000	50.0%
預金	500,000	50.0%	500,000	50.0%
貸付	500,000	50.0%	500,000	50.0%
他	500,000	50.0%	500,000	50.0%
負債ノ部	1,000,000	100.0%	1,000,000	100.0%
資本	500,000	50.0%	500,000	50.0%
預金	500,000	50.0%	500,000	50.0%

當行は明治三十三年四月の設立で相當古き歴史を有する手堅き銀行であるが、近年反動的な不況期に際し幾分業況不振の感あり、現今預金額百五十萬圓、貸付百餘萬圓を有し積立金二十餘萬圓に達してゐる。北海道に於ける勢力家藤山聖吉氏一派の事業である。隨つて重役は其の一門で藤山聖吉、古谷太市、藤山健次、藤山孫左衛門の諸氏である。

株式会社 北門銀行 (札幌市大森町四丁目)

資本金	五十萬圓
諸積立金	三十八萬二千圓
諸預り金	一千四百萬圓

當行は資本金五十萬圓であるが、本書採録標準以下の銀行であるが其の資本金に對する預金額頗る多額を算し内容亦極めて良好にして其に相當の銀行たる點に留意を要し特にこれ

地味地味の體質に依り貸付される關係上頗る有利なる運用が行はれたので利潤の積みも毎期數萬圓を擧げられたのである。財界景氣復活と共に更に借金の活躍を試むべきべき疑はないのである。現重役左の如し

株式会社 北門銀行 營業成績比較表

項目	下十二年		下十三年	
	金額	比率	金額	比率
資産ノ部	1,000,000	100.0%	1,000,000	100.0%
未償還資本	500,000	50.0%	500,000	50.0%
諸積立金	500,000	50.0%	500,000	50.0%
預金	500,000	50.0%	500,000	50.0%
貸付	500,000	50.0%	500,000	50.0%
他	500,000	50.0%	500,000	50.0%
負債ノ部	1,000,000	100.0%	1,000,000	100.0%
資本	500,000	50.0%	500,000	50.0%
預金	500,000	50.0%	500,000	50.0%

取締役 長 及比佐吉 取締役 井上外雄  
取締役 正富 取締役 同 監査役 鷺見 邦司  
同 石原 三郎 同 監査役 杉崎 静夫

株式会社 絲屋銀行 (旭川町)

資本金	百萬圓
諸積立金	二百萬圓
諸預り金	四百萬圓

兵庫縣の富家であつて絲屋銀行を經營してゐた山本新助氏は往年北海道金融機關の不備を補つた上拓殖事業の進歩を助けやうとの志を抱き明治三十四年九月、時の北海道拓殖銀行頭取會根靜夫氏に計り、その熱心な賛成を得て旭川に絲屋銀行支店を設けた。これが抑も旭川に銀行創設の嚆矢とする處で盛んに朝野の歡迎を受けて次第に業務の發展を見るに至つたのである。新助氏の物故するや息孫藤氏そのの衝に當つたが時勢の進歩に伴つて業務は益々繁榮し、拓殖銀行後援の下に地方金融の便を圖つて其の基礎漸次鞏固なるにつれて近地盤を形成し同地方の同業者中幹線角を現すに至つたので大正八年一月遂に組織を變更して株式會社絲屋銀行とし、尙ほ増資の上本店を旭川に移し更に歳月の経るに共に事業の擴張を企圖した結果、業況益々隆昌を極むるに至つた。重役は頭取山本藤藏、事務取締役山本正紀、取締役石原三郎、同繁澤四郎の諸氏である。

株式会社 樺太銀行 (樺太大森町幸色町)

資本金	二百萬圓
諸積立金	八十七萬五千圓

48、臺灣ノ部

株式会社 臺灣銀行 (本店台北市)

資本金	六千萬圓(實收額の現在に因る)
諸積立金	五千二百五十萬圓
諸預り金	一千四百四十八萬圓
銀行券發行高	二億二千三百萬圓
銀行券發行高	四千六百四十萬圓
諸貸出高	四億八千九百萬圓

臺灣領有後數年にして尙ほ島内の經濟甚だ幼稚の境を脱する能はず、一個の銀行すら無き程であつた。我政府當路者並に財界有力者に於ては特に此點に鑑むる處あり、明治三十一年六月資本金五百萬圓を以て發券銀行たる特殊任務を帯ぶる

當行は大正五年資本金五千萬圓を以て設立され爾來業況大いに發展し資本の増額を必要とするに至り同八年四月遂に二億圓に増資し今日に至つたもので、樺太に於ける唯一の金融機關として産業發展の上に寄與する處頗る多い。重役は左の諸氏である。

取締役頭取 板谷 吉吉 取締役 板谷 眞吉  
取締役 板谷 順助 同 大野 順末  
監査役 板谷 專太郎 監査役 猪俣 安造

臺灣銀行を創立し、先づ島内の幣制を整理せしむるに共に  
業資金を供給し、南支南洋に對する金融機關として海外貿  
易を助成し内外爲替を調停するの任に當らしめたのである。  
爾來島内の産業漸く其緒に就き、一面政府の諸施設が進歩  
したるに相俟つて官民共に資金の需要頻繁となつたので、四  
十三年六月資本金を一千萬圓に増加し、歐戰好況期に入る  
及び幣制の急激なる活躍に相俟つて島内の經濟界は頗る大影  
響を蒙り、資金の需要相續くに至つたので再び増資の必要に  
迫られ、大正四年八月借入の二千萬圓を以て、次いで七  
年四月に至り政府は臺灣法を改正して保證書の限度を三  
萬圓としたので同法は更に三萬圓に増加し、戦後景氣の出  
現と共に益々活躍せる對して資する爲め八年九月更に借入増  
資を決定して總資本六千萬圓を以て今日に至つたので  
ある。

以上の如く歐戰以來著しき發展を遂げ、其の内容は逐年冠  
大の度を加ふる一途にして戦後好況期たる大正十年下半年  
の如きは、銀行券發行高四千萬圓以上を以て預金一億六千餘  
萬圓に達し、貸出亦三億二千餘萬圓の多きを算し其業況の目  
撃し事特殊銀行中の尤たるものであり、半期間の純益實に  
三百餘萬圓の多きに及び降々たる業績を誇り來つたのである  
然るに其後對界に一大バニツク襲來するや同行亦其の餘波を  
蒙り業況の不振に次いで貸出の回收不能に陥るもの續出し、  
大正十一年下期に於ける貸出五億二千餘萬圓、十三年末四  
億九千餘萬圓、十四年上期末四億八千餘萬圓の殘高を計するに  
至り其間殆んど回收の途なき不良債權亦甚だしく、遂に一大

株式臺灣銀行營業成績比較表

負債ノ部	第四十七期				第五十一期				第五十二期			
	十一	十二	十三	十四	十一	十二	十三	十四	十一	十二	十三	十四
資本金	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000
準備金	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
銀行券發行高	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
支拂手形	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
借入金	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
代理貸付保證	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
支拂承諾	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
他店有價證券	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
有價證券見返	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
未拂配當金	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
未拂配當金	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
合計	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000

株式臺灣商工銀行 (本店台北市大和町四ノ一)  
 資本金 一千六百萬圓  
 拂込資本 八百二十八萬八千圓  
 準備立金 二十五萬七千圓

株式臺灣商工銀行營業成績比較表  
 準備立金 二千五百六十萬圓

發行の及ぼざるを以て金融の調停、産業の發展を策し  
功績の著しきもの臺灣銀行に指を屈せねばならぬ。同行  
は明治四十三年五月資本金百萬圓を以て創立され、大正元年  
七月臺灣貯蓄銀行を合併して資本金五百萬圓を増加し、爾來大  
いに躍進の歩を急ならしめつ、あつたが、就中歐戰好況期に  
際會するや主要産業たる糖業、林業等の活況著しく隨つて金  
融の繁忙を來し業況目覺しき活況を示し、一面資金の補充を  
必要とし大正八年五月更に三百八十五萬圓を加へて五百萬圓  
となし、同十一年に至つて四大銀行の一として有力なる業績  
を有した新高銀行と合併成立し、同時に總資本金一千六百萬  
圓となし臺灣唯一の大銀行たるに至つたのである。最近まで  
八百二十八萬餘圓の拂込資本を以て、千六百萬圓の預金を有  
し、貸出亦千八百餘萬圓を算し毎期三十餘萬圓の純益を  
舉げ一年一割の株主配當を維持し來つたが、財界不況の餘波を

株式臺灣商工銀行營業成績比較表

資産ノ部	十二年				十三年			
	上	下	上	下	上	下	上	下
未拂込資本	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000	80,000,000
諸準備金	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
手形貸付	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
借入金	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
代理貸付保證	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
支拂承諾	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
他店有價證券	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
有價證券見返	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
未拂配當金	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
未拂配當金	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000	11,100,000
合計	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000	177,700,000

株式彰化銀行 (本店台中市)  
 資本金 六百萬圓  
 拂込資本 三百五十五萬圓  
 準備立金 百七十五萬圓  
 準備預り金 一千四百萬圓

彰化銀行營業成績比較表

戦後財界不況期に際し幣制を以て一切の事業界を萎縮して  
振はず、隨つて金融界亦此の影響を受けて業況概ね不良を告  
げ多額の損失を計上するの餘儀なき現狀に在る臺灣金融界に  
於て、獨り泰然自若として臨み不撓の業態の上に尙ほ降々た  
る業績を挙げ相當の配當を行ひ然らざる餘裕を示しつつある  
ものは實に當行一あるのみである。抑も當行は往年臺灣總督  
府が土地制度を整理する爲め、從來の大規模を廢し其の補償  
として交付した事業公債利用の方策として公債額面二十七萬  
五千圓、換算時價二十二萬圓を資本金として明治三十七年に

整理を斷行するの已むなきに至つたのである。勿論此間政府  
當局より多大の便宜を與へられ大藏省預金部より五千萬圓以  
上の整理資金を融通せられたりとは云ふもの、容易に其の實  
績を擧ぐる能はず、十四年上期末決算に於て斷乎たる整理案  
を作成し叙上貸出中回收不能三目すべきもの約一千六百萬圓  
を借入金として處分すべく之を欠損金に計上し、これを補  
填するに一千四百餘萬圓の準備金を未拂込資本金七百五十  
萬圓を以てするに同時に、資本金四千萬圓を半額減資する  
の案を立て、政府筋並に株主の諒解を求め之を通過せしめ同  
年下期に於て資本金三千萬圓(拂込資本)を以て發給内容の刷新  
を圖る事に議決したのである。此の如く六千餘萬圓の資本は  
半減され、諸準備金亦其全額を支出し盡したのであるが之れ  
を以て同行の内容は此處に全く確實なる正味資産七億餘萬圓  
を完全に保有する事となつたのであるから、同行前途の爲に  
大いに慶すべき處斷云ふべく、此くして我經濟界の二大暗  
礁となつた譯である。此の如き大英斷をよく敢行し得た所  
以のものは一は政府筋の同情ある諒解に起因する、勿論で  
あるが、又他面、多數株主諸氏が大局の上に處してよく私利  
の觀念を忘却し多大の犠牲を拂ひ得た事、更に銀行理事者  
諸氏の勇猛果敢の職責に忠なりしに職出するもたる事を忘  
れてはならぬ。今や更始一新の實を擧げ取以下の各重役更  
迭して新陣容に成る同行が我經濟界を多事多端ならんとする今  
後に活躍すべきは一點の疑を執り餘地あるまいと信ずる。

彰化銀行營業成績比較表

彰化銀行營業成績比較表. Table with columns for assets (資産) and liabilities (負債) for 1922 and 1923. Assets include cash, deposits, and loans. Liabilities include capital, deposits, and loans.

華南銀行 (臺北市表町)

資本金 一千萬圓
拂込資本 七百五十萬圓
諸預り金 六百五十萬圓

當行は大正八年二月資本金一千萬圓を以て設立された有力なる大銀行である。設立當初の目的とするは南洋方面に對する經濟的發展を促進せしむる一方策として支那南洋方面に據拠して彼我共存共榮の具體策を講ずるに在りてあり。

華南銀行營業成績比較表

華南銀行營業成績比較表. Table with columns for assets (資産) and liabilities (負債) for 1922 and 1923. Assets include cash, deposits, and loans. Liabilities include capital, deposits, and loans.

朝鮮の金融機關

銀行事業發達略史 朝鮮に於ける銀行業務は明治十一年第一銀行が釜山に支店を開設したるを以て濫觴とし、その沿革に於て内地と幾何の差もなきに拘らず今尚ほ充分に發達するに至らざるに在り。...

朝鮮銀行 (京城府南大門邊)

資本金 八千萬圓(實收資本現在二四〇〇)
拂込資本 五千萬圓
諸預り金 一億五千八百萬圓
銀行券發行高 九千四百五十萬圓

以上の如く何れも著しき増加を示してゐるが、就中貸出金の如きは四十二年當時に於ては預金の二倍強に達し、隨つて銀行業者殊に比較的小資本の手許甚だ貧弱にして經營の苦心を感ずるに少くなくかつた爲め親銀行たる朝鮮銀行に資金の供給を仰ぐ状態であつた。...



株式漢城銀行營業成績比較表

Table showing financial performance of Hancheng Bank for 1922 and 1923. Columns include assets (資産), liabilities (負債), and other items (其他). Rows list various asset and liability categories with their respective values in Japanese Yen.

株式朝鮮商業銀行營業成績比較表

朝鮮商業銀行 (京師南大馬路二丁目)
資本金 七百二十五萬圓
拂込資本 三百八十七萬五千圓
諸積立金 八十五萬圓
諸預り金 一千五百二十萬圓

株式朝鮮商業銀行營業成績比較表

Table showing financial performance of Chosun Commercial Bank for 1922 and 1923. Columns include assets (資産), liabilities (負債), and other items (其他). Rows list various asset and liability categories with their respective values in Japanese Yen.

株式大同銀行 (本店平壤大和町)

資本金 二百萬圓
預金高 二百五十萬圓

Table showing financial performance of Daito Bank for 1922 and 1923. Columns include assets (資産), liabilities (負債), and other items (其他). Rows list various asset and liability categories with their respective values in Japanese Yen.

心として各特殊職能に準じて何れも活躍の歩を進めつゝある一方邦人經營並に日支合體に依る地方的民間銀行は各主要地に設立せられ其數二十一、拂込資本額三千二百八十餘萬圓の多きに達してゐる。就中大連市の發達は近時著しきものあり其の金融界の繁栄を極むること業暗しく隨つて銀行業の發展も特に見るべきもの多し、殊に正隆銀行、滿洲銀行、大連商業等は内地主要銀行に比するも敢て遜色なき内容と業績とを有し、特殊銀行に相稱して其の及ばざるを補ひ各特殊の天地を領有して活躍を續けつゝある。

株式正隆銀行 (大連市大山路)

資本金 二千萬圓
拂込資本 九百五十萬圓
諸積立金 二百四十七萬圓
諸預り金 三千二百八十五萬圓

同行は平壤の發展を固むが爲めに設立されたもので、當初は平壤銀行三稱へて資本金百七十萬圓、内拂込高四十二萬五千圓で正隆九月一日開業したものであるが、開業後日ならずして彼の經濟界の大波瀾に遭遇したので經營上静なからぬ苦心を嘗めたが、頭取横山氏以下行員一同は必死となつて非凡なる技術と努力を費して營業の歩を進めた爲めに僅か三期にして年八分の配當を爲すの好成績を収めたのである。而して大正十年十月一日から滿洲三和銀行を合併し資本金二百萬圓、内拂込金五十萬圓に増加して大同銀行に改稱する事となつた。平壤大和町の本店の外に平壤市街雜里に出張所を、瀋陽市に支店を置いて預金二百五十餘萬圓、貸出三百二十餘萬圓に達してゐる。同行は開業當初から十分地方銀行の使命を發揮すべく計畫されたもので、殊に不動產擔保の貸出しは特別の便宜を與へてゐる上に近年平壤が漸次商工業地として開發されてゆくに於て、同行が更に絶大なる努力を注がれる事は地方開發の刺激劑とも云ふべく、而して同行頭取横山氏は多年銀行界に經驗あるの士で、殊に朝鮮銀行庶務部長の要職にあつて了解あり、同行の開設と共に聘せられて就任を見た譯で、その朝鮮銀行の後援と相俟つて將來の發展は大いに囑目する處である。

50、關東州總論

南滿洲一帯に於ける金融機關は從來殆んど横濱正金銀行の獨占場であり、同行本来の機能たる爲替業務を専らとする傍ら銀行券を發行して同地方に於ける金融の圓滑を圖る一方諸種の企業發達を助成し、更に同庫事務をも取扱ひ來つたのであるが、其後政府は其の事務を朝鮮銀行に移譲せしむるに至つたので鮮銀これに任じ、政府の特別貸付業務は東洋拓殖會社に之れを移し正金銀行は主として爲替業務を専念する事としたので、滿洲に於ける金融機關の主体は以上三者を中

株式正隆銀行營業成績比較表

Table showing financial performance of Seiryu Bank for 1922 and 1923. Columns include assets (資産), liabilities (負債), and other items (其他). Rows list various asset and liability categories with their respective values in Japanese Yen.

資本金		準備金		負債	
資本	公積	積立	引当	負債	負債
三、千、萬、圓	八、百、七、十、二、萬、圓	三、十、五、萬、圓	一、千、二、百、六、十、萬、圓	三、千、萬、圓	三、千、萬、圓
八、百、七、十、二、萬、圓	三、十、五、萬、圓	一、千、二、百、六、十、萬、圓		三、千、萬、圓	三、千、萬、圓
三、十、五、萬、圓	一、千、二、百、六、十、萬、圓			三、千、萬、圓	三、千、萬、圓
一、千、二、百、六、十、萬、圓				三、千、萬、圓	三、千、萬、圓

株式 滿洲銀行 (大連市伊勢町)

資本金 三、千、萬、圓  
 準備金 八、百、七、十、二、萬、圓  
 負債 三、十、五、萬、圓  
 負債 一、千、二、百、六、十、萬、圓

當行は大正十二年七月を以て設立された新銀行であるが、其の實は大連、奉天、鐵嶺等に於て多年相當の地盤を信用し

株式 滿洲銀行 營業成績比較表

資本金		準備金		負債	
資本	公積	積立	引当	負債	負債
三、千、萬、圓	八、百、七、十、二、萬、圓	三、十、五、萬、圓	一、千、二、百、六、十、萬、圓	三、千、萬、圓	三、千、萬、圓
八、百、七、十、二、萬、圓	三、十、五、萬、圓	一、千、二、百、六、十、萬、圓		三、千、萬、圓	三、千、萬、圓
三、十、五、萬、圓	一、千、二、百、六、十、萬、圓			三、千、萬、圓	三、千、萬、圓
一、千、二、百、六、十、萬、圓				三、千、萬、圓	三、千、萬、圓

株式 大連商業銀行 (大連市西道九)

資本金 二、百、萬、圓  
 準備金 二、十、萬、圓  
 負債 九、十、五、萬、圓

當行は大正七年十二月の創立で恰かも歐戰好況期に際した爲め業務著しく果がり開業年々々々にして預金百數十萬圓の多きに達したが、爾來財界反動期に入ると共に滿洲地方の經濟界亦甚だ萎縮化し業務は亦、預金貸出共に漸く減少傾向

株式 大連商業銀行 營業成績比較表

資本金		準備金		負債	
資本	公積	積立	引当	負債	負債
二、百、萬、圓	二、十、萬、圓	九、十、五、萬、圓		九、十、五、萬、圓	九、十、五、萬、圓
二、十、萬、圓	九、十、五、萬、圓			九、十、五、萬、圓	九、十、五、萬、圓
九、十、五、萬、圓				九、十、五、萬、圓	九、十、五、萬、圓
				九、十、五、萬、圓	九、十、五、萬、圓

ミニなり現時百萬圓を制するの已むなきに至つたが、而も尙ほ相當の利益を擧げ年八分の配當を續け得る實力を有し、相當の信用を拂はれてゐる。現重役は左の諸氏である。  
 專務取締役 今津 十郎 取締役 中村 慎次郎  
 取締役 廣 竹松 同 取締役 五泉 賢三  
 監査役 寛 文造 監査役 太田 伊之助  
 同 鳥羽 實



**青、計算、調査、支店審査第一、同第二、同第三の各課を置く**  
 人事異動 各課長支配人級の異動左の如し  
 臺北頭取支店課長秘書役審査課長 有田三郎▲検査課長 松井賢▲計算課長 兼検査役 荒井賢次郎▲發行課長 兼調査課長 竹本節藏▲支店課長 山瀬▲代理店課長 江上恒之  
 東京頭取支店課長秘書役 柳俊耳▲検査課長 兼検査役 玉置仁知▲計算課長 宮地良精▲支店課長 高木復亨▲調査課長 中村忠彰▲審査第一課長 小笠原三九郎▲審査第二課長 山本善治▲同第三課長 工藤敏平▲香港支店支配人 高木敏二▲横濱支店支配人 市川宗助▲シラパ支店支配人 濱野善太郎▲東京支店副支配人 成田文雄▲東京支店支配人 代理 大槻嘉藏▲アモイ支店支配人 與田四郎▲臺灣支店支配人 長谷川貞成

**朝鮮銀行職制變更**

朝鮮銀行にても十五年三月職制を改正し京城總裁府に秘書支店、庶務、國庫、調査の五課を置き東京總裁府に秘書支店、庶務、調査、外國為替、計算、整理の八課を置き、支店、支店、大連兩店整理部、大連業務部、京城大連検査役は何れも廢止した。職制改正と同時に主要行員の異動左の如く行はれた。  
 京城總裁府調査課長心得兼秘書課長心得 杉浦徳治郎▲同支店課長 淺見與四郎▲同國庫課長 井上重禮▲同庶務課長 池川信俊  
 東京總裁府庶務課長 藤卷太一▲同支店課長 向井忠▲外國為替課長 讚井源輔▲同計算課長 山田茂二▲同調査課長 渡谷禮治▲同庶務課長 伊藤信一▲同整理課長 岸藏▲同検査役 山下秀隆▲同検査役 倉富剛▲同検査役 丸山正雄▲京城本店支配人 武安福夫▲大連支店支配人 松原純一▲平壤支店支配人 尾右衛門▲兼南出張所同 赤田清▲瀋陽支店同 安達秋久▲大連支店同 池田五郎▲哈爾濱支店同 箱崎文彌▲大野支店同 阪井園▲神戸支店同 大塚源次郎▲浦城支店同 遠藤始郎▲奉天支店 大申彦多

**三菱銀行要部異動**

大正十五年二月重役會に於て同行要部の更迭を行ひ左の通り新任命あり。尙ほ歐米視察員として業務部長田原良知氏を四氏を派遣された。  
 董事 田村秀賢▲董事 門田敏止▲同 山崎良助▲神戸支店長 高木健吉▲中之島支店長 二川末吉▲本店營業部長 眞藤和▲大阪支店副長 大西榮三郎▲上海支店長 鈴木金三▲瀋川支店長 生島利三▲丸ノ内第二支店長 三村彌平▲紀伊支店長 高橋謙

**藤本BB銀行異動**

藤本BB銀行専務取締役横田義夫氏が東京支店監督として赴任した結果主要行員に異動あり十五年二月一日付を以て左の如く實行された。

**信託事業篇**

**第一章 總論**

金融事業中銀行業に相並んで重要な地位を占むるに至つたものは信託事業である。由來信託業務は可なり古くから營まれてつたが、其の多くは信託云々美名に纏へられた一種の高利貸に類した營業であり社會より却つて之れを排斥せられつゝある状態であつたが、信託なるもの、本質より見て之れが改善利用の方策を講ずるの必要ありし、政府に於て信託法並に信託業法を制定し完全なる信託制度の確立せらるゝに及んで此處に全く滿感を更新し、大規模な組織的信託會社の設立を見るに至つて大いに面目を改め、斯業の發達は眞に著しきものありや銀行業務を脅威するまでに長足の進歩を來したのである。

抑も信託とは如何なる行爲であり信託會社は如何なる業務を營むものであるかに就ては、既に廣く社會に知られてゐる處であるから特に詳述するの要なく、又其餘裕を有しないから之れを省略し、單に其の本質を約言すれば信託とは或る財産を一定の期間、自己の信賴する他の者に委託して一切の運用を自由ならしめ、受託者は委託者の希望或は指定に基づき、或は自己の任意に之れを運用し而も誠意を以て其の保護利殖に任ぜねばならぬ、云々相互關係を云ふのであつて信託會社は即ち信託の引受を主たる業務とする受託機關なのである。勿論此の信託行爲は會社のみでなく専ら個人の間にも多し多し契約され來つたのであるが、貴重にして而も多額なる財産を委託する上に於て、會社は個人よりも遙かに確實且つ安全である云々云々もなく、隨つて大規模な信託會社の漸次必要せらるゝ所以なのである。此の信託會社の内容を知らるる前に於て今少し信託制度が如何にして確立せられ、如何なる發達の徑路を辿り來つたかを知つて置かねばならぬ。

**信託の起源** 一體信託なる字義は其の解釋の方によつていろいろに譯せらるゝのであるが要するに信託又は信賴を意味するものであつて信託の基礎は全く信賴其ものである云ひ得る。隨つて信託若くは信賴の反面には必ず誠實、又は信託の伴ふこと勿論であつて此の兩者の關係が圓滿である處に信託業務の達成は期せられるのである。信託行爲は初めローマに於て行はれ、後英國に渡つて主として個人間に發達したのであるが、更に社會組織の進化するに伴ひ該制度の實施される事頗る頻繁となり組織的大會社の事業となり、次いで米國に輸入され、に及んで全く大規模なる會社組織の下に應々其の發達を見るに至つたのである。現に英國に在りては國家的事業として國家が受託者として委託財産の管理保護利殖の途を講ずる云々云々まで進歩し、米國に於ては最も著しき發達を示して會社數二千五百六十二社、資本金九億七千四百餘萬ドル、信託預金百三十二億八千九百餘ドルの多きを算してゐる。

任本店支配人 取締門司支店支配人 樋口松太郎▲任神戸支店支配人 京都支店支配人 増田嘉吉▲任本店銀行支配人 神戸支店支配人 八十川政樹▲任京都支店支配人 本店銀行部支配人代 田中孝三▲任門司支店支配人 本店證券部支配人代 丹羽賢▲補本店證券部支配人代 本店調査部長代理 伊庭謙造▲補本店銀行部支配人代 本店銀行部勤務 吉野高三▲補金澤支店支配人代 東京支店 三好榮一

**日銀新大阪支店長** 瀧岡日銀大阪支店長が理事に榮進して本店に歸り其後任して久しく兼行代理店監督として海外金融の精進家星華氏が赴任した。(十五年三月)

**正金重役増員** 横濱正金銀行は從來十二名の取締役であつたが本年より更に二名を増員して十四名とし本店支配人大久保利賢、大阪支店長水津彌吉の兩氏を選任し何れも現職のまま、就任した。(十五年二月)

**第一銀行副頭取新任** 大正十五年二月株主總會に於て取締役二名増員、副頭取一名選任の件を可決し大澤佳郎、明石照男兩氏取締役に新任、常務取締役石井健吾氏副頭取に選任さる。

**日本信託常務更迭** 日本信託銀行常務河合松之助氏は多病にして行務放棄に堪へずして新たに門脇正氏選任さる(大正十五年二月)

**住友男逝去** 住友銀行社長住友左衛門男は久しく静養中の處大正十五年三月二日兵庫縣武庫郡住吉の本邸にて逝去された。男の財界に寄與せられし功績の數々は殆んど教學に還らぬ程で今更特記するの要を認めぬが那家多事の秋に際し此計に接する定に痛惜に堪へぬ程で哀悼の意を表するであらう。

**住友家の職制變更** 住友王國の關係諸事業は總て社長專制政治であつて家長たる住友男が一切の事業に君臨してゐたのであるが男の逝去に伴ふ當然の結果として監督者失つた譯で之れが補充の策を講ぜらるゝこと勿論であることは云へ男の後繼者即ち住友家より迎へらるゝには不可能な事情にあり已むなく從來の君主制度を改革して合議制度に變更すべく即ち社長制を總て會長制に改めらるゝ事に決定し五月四日の住友銀行、住友信託會社等の臨時株主總會に定款變更を附議する筈であるが多分總本家總理事たる湯川寛吉氏が住友男の代役となつて一切の關係事業に會長として首班に列する事になるであらう。

**村井銀行頭取** 村井銀行頭取村井吉兵衛氏は大正十五年一月二日東京本店に於て突然逝去された。従つて頭取を始める多數關係事業の代表者變更の已むなきに至り女婿村井貞之助氏が繼任する事に決定した。

**森村銀行支配人** 同行取締役支配人村見儀助氏は久しく病氣中であつたが大正十五年四月十四日死去した後任は尙未定である。



第二章 本邦信託事業の實狀

歐米先進國に於ては前述の如く其起源極めて古く隨つて又廣く一般に普及し、世人亦新業に對する十分な諒解あれども我國に於ては組織的の業務を営まれた歴史甚だ新しく、且つ從來類似業務の現出するものありし多くは高利貸若くは債權取立等を主要業務とするが如き觀あり、寧ろ世人に對し惡印象を残したる事實多く、信託業務の眞意は到底これを理解せられなかつた實狀に在つたのである。而して眞の信託事業として完全なる組織的の業務を行はれたのは、日露戰役後即ち明治三十九年に設立せられたる東京信託を以て恐らく其の嚆矢とすべく、次いで四十年神戸信託、四十五年關西信託等の設立せらるゝに及び漸く眞劍味を加ふるに至つたのであるが、歐戰に依る財界好況時に際するに至り此處に急激の發達を遂げ大正九年以降著しき増加を來したことは争ひ難き事實である。勿論此間尙ほ舊來の如何はしき内容を有する團體組織が信託會社と稱する美名に隠れて不正行爲を敢てする事實は可なり多かつた爲めに、確實なる事業會社までが玉石混淆の憂目を見る例決して少ならず、隨つて一般世人に於ても容易に之れが判別を爲し能はなかつた處から種々の損害を蒙る事例亦少くなかつたのである。此處に於て政府當局に於ても信託業務の本質上其の健全なる發達を助成せしむるの必要を痛感する一面、これが不法手段を弄する不正業者を掃蕩するの要ありし、此處に信託法及信託業法を制定して玉石を甄別して不正業者の淘汰に努力する處あつた結果、遂に堅實なるもののみ残存し内容の充實、基礎の鞏固を圖るに至り斯業漸く大成の緒に就くを得たのである。

制度の確立 即ち大正十一年四月政府は信託法及信託業法を制定し、翌十二年一月一日より之れを實施すべき旨公布したのであつて、從來營業し來つた幾多の信託會社は一様に此の法條に準據せねばならぬ事となつた。これに依れば斯業を營まんとする者は先づ第一に大藏大臣の營業免許を受けねばならぬ、而して免許を受けるには幾多の條件が必要とされる、これ該信託の解易する第一階級であり淘汰の第一階級である。試みに信託業法第七條を見れば、信託會社は受託者に對する損害の擔保として資本金の十分の一以上の國債を政府に供託するを要す。而して同法施行細則第十五條には、信託會社は信託業法第七條の規定に依る信託金が資本金の十分の一(千圓以上)の資本にありては千圓以上に達する迄毎年年度末日より二十日以内に資本金の二百分の一以上千圓以上の資本に在りては五圓以上の金額に相當する供託を爲すべし、信託財産の價格が資本金の額に達した時は該事業年度末日より二十日以内に前項の規定に拘らず資本金の十分の一以上千圓以上に在りては百圓以上の金額に相當する供託を爲すを要す。此嚴重なる規定を設けられてゐるから信託財産に對する保證は完全に準備されてゐる。而して此の供託金に對しては受託者は他の債權者に優先して權利を受ける權利を有する(三三)勿論である。更に同法第八條には、信託會社は資本の總額に達する迄毎年年度末利益金の十分の一を下らざる積立金を爲すを要す。此あるから普通商會社に比し總額四倍に相當する法定積立金を爲すことを命ぜられてゐるのである。更に第十一條には、會社別有用金運用方法に付き嚴重なる制限を加へ、如何に有るもので今日の經濟事情よりすれば其の資本力乃至組織の上

に到底償還を免れ難きものあり、政府當局に於ては或は増資を懇請し或は合同を勧告する等あらゆる方法に於て内容の充實を期せん(三三)に努めつゝある現狀であるが近時銀行事業の合同するもの頻々たるに鑑み信託業界に在りても漸く合同的色彩の濃度を加へ來らんとする傾向にあるは争ひ難き事實である。即ち大阪府の如き大正信託並に萬成信託の兩社が近く合併を實現すべく、兵庫縣に於ても神戸信託を中心にして數社の大合同計畫あり其他東京方面に在りても三三合同の進められつゝある等、内々これが準備を急ぎつゝある實情にあれば遠からず具體化するであらうが、斯くして堅實なる内容を整へ新時代に於ける金融機關としての實質を完備せん(三三)に努力しつゝあるは喜ぶべき傾向である。

金錢信託期間延長問題 大正十三年十二月二十四日政府は大藏省令第三十三號を以て信託業法施行細則第九條の改正を發表した。即ち施行細則第九條、信託會社は信託期間一年を下る金錢信託の引受を爲すを得ず、但し運用方法の特定せらるるものに付ては此限にあらず。ある「一年」の期間を「二年」に改正したのである。此の問題は當時銀行業者對信託業者間の重大なる問題として可成り激烈なる論議を續けられたものであつた。即ち銀行側よりすれば信託會社の勃興するに伴ひ銀行側の唯一の資源とする定期預金を信託會社に侵食され従つて預金協定の破綻を來し恐いては一般銀行業務に多大の脅威を齎すものであるとして預金擁護の上より金錢信託期間の延長を政府に迫り、信託會社は新時代必須金融機關たる信託事業、而も新生後幾多の時日を經過せぬ斯業に對し其の發達を阻害するが如きは、極忍苛辣の巨刃を兼帯に加へ形體未だ成らざるに先んじて根幹を枯死せしめんとするものであるとして猛烈なる反對運動を試み、此處に兩者間の抗争日に激烈を加へたのであるが、結局銀行側の勝利に歸し其の主張を容れられて一ヶ年を二ヶ年へ延長されたものである。兩者各立脚地を異にするだけ利害も亦異なるに非ざらず、此の延長が果して安當であるか否かは之れを局外者の官斷すべき限りでないが、此く決定するまでには政府も相當の苦心を重ねた事に相違は無い。即ち當時田大藏次官の名を以て聲明した理由書は次の如きもので、言中少なからぬ難局に處した實情を窺ふに難くないのである。

田次官の聲明 信託法に依つて營業を免許せられた信託會社の開業後其の業務の主要部分を占むる金錢信託は其の利益が高率の爲め急激に増加する傾向を示し、一般銀行の定期預金に脅威を與へんとするから、此も放任せば遂には經濟上に急激な變化を招來する情があるに認められる。并に本邦に於ける一般銀行の營業資金の甲大部分を占むる定期預金であり、略ぼ金總額の過半に相當し一般銀行の資金構成上根幹を爲すものと云ひ得る。我銀行が定期預金を營業資金の根幹として營業しつゝある事は學理上から批評して香蒸を醸出するが如く、而も經濟界の既定事實なり我財界の經營は此の事實を基礎として成立つてゐるが故に我財界の秩序維持の爲には之れを相當尊重し急激に之れを破壊して財界に變調を來さしめざるに注意せねばならぬ。萬一金錢信託の急激なる増加傾向を放任し其結果として我經濟界に打撃を及ぼす如き事あれば、大正九年財界暴動に十二號災の打撃を受けし例に倣ひ至らず安定を必要とする我財界に及ぼす影響は甚だしくあり、之を調停は容易でないと思ふ。尙ほ此定期預金に對する脅威の實例を具體的に述べると銀行間の預金利率協定の維持を困難とす

利なる運用方法ありき雖も業法規定の範圍を超過するを許されぬ。而して債務の保證に就ても同法施行細則に左の如く制限されてゐる。第十條 其の保證の責任を任ずべき限度の確定せざる債務の保證を爲すことを得ず。第十一條 保證する債務の總額は其の資本金及準備金の總額を超過することを不得。一人の債務者の爲に保證する債務の總額は資本金及準備金の十分の一を超ゆる事を得ず。第十二條 主たる債務者が會社たる時は信託會社が其の會社の爲に保證する債務の總額は該會社の資本又は財産を目的とする出資の拂込金及準備金の二分の一を超ゆる事を得ず。第十三條 主たる債務者が會社に非ざる時は信託會社は物と擔保を兼ねるに非ざれば債務の保證を爲すことを不得、但し公共團體組織業組合する時は此限にあらず。以上の外に或は營業報告書の作製、或は營業内容の檢閲等あらゆる方面に關して嚴重の制限を附せられてゐるのであるから其の營業の上には精細なる留意を要する(三三)同時に委託者に取りては何等の懸念を要せず最も安心して財産を託せしむるに至つたのであるから、此點は國民經濟の發達を促進せしむる上に甚だ喜ぶべき現象であると共に一面銀行事業に對する職能分業に基く金融機關の安全充實を策する意味に於ても亦甚だ慶すべき傾向である云々はばらばらぬ。それらに關する幾多の實例乃至理由等は此處に記述してゐるの餘裕を有しないから省するが、要するに信託制度の確立に依つて斯業が銀行事業と相並びて金融機關たる重要任務を帯びべきは争ひ難き事實であり、一は動的短期資金を、一は靜的長期資金を取扱ふに至り此處に天然たる分野を劃するの時代を現出すべき事も敢て遠からぬであらうと思はれる。

現存信託會社數 以上の如く法令を以て自然淘汰を行はれたつた信託事業界は、爾來著しき内容を刷新し面目大いに改まつたのであつて、一部類似業務を營む如何はしきものに絶無さは稀きも、并に何れの事業界にも免れ難き現象であり概して健全なる發達を來しつゝある事は疑ふ餘地ない而して業法制定以來同法に準據し其の制限の下に營業を繼續し、或は新設されたもの全國を合して三十三社の多きに達してゐる、今これを府縣別に導示すれば次の如くである。(按察内資本單位千圓)

- ▲東京府 國際(五、〇〇〇) 天日本五、〇〇〇 東京(五、〇〇〇) 三井(三、〇〇〇) 鐵田(三、〇〇〇) 日(一、〇〇〇) 日本勸業(一、〇〇〇) 第一(一、〇〇〇) 大信託(一、〇〇〇) ▲大阪府 關西(一、〇〇〇) 住友(一、〇〇〇) 共濟(三、〇〇〇) 虎屋(一、〇〇〇) 北嶺(一、〇〇〇) ▲正(三、〇〇〇) 廣生(一、〇〇〇) 萬成(五、〇〇〇) ▲兵庫縣 神戸(三、〇〇〇) 清生(一、〇〇〇) 日加合同(一、〇〇〇) ▲動業(一、〇〇〇) 天和(一、〇〇〇) 萬野(三、〇〇〇) ▲愛知縣 名古屋(一、五〇〇) ▲岐阜縣 日下部(一、〇〇〇) ▲石川縣 第三(一、〇〇〇) ▲富山縣 北陸(一、〇〇〇) ▲富山縣 第一(一、〇〇〇) ▲青森縣 仙臺(一、〇〇〇) ▲岩手縣 盛岡(一、〇〇〇) ▲青森縣 青森(一、〇〇〇) ▲和歌山縣 南海信託土地(一、〇〇〇) ▲長崎縣 大正興業(一、〇〇〇)

第三三章 信託會社營業成績 信託事業の職能及其近狀に就ては既に法令條文を援用して記述する處あつたから、信託業務の内容を以て其の如何なる制度法條に準據して營業せられたるかは知悉されたであらうと思ふ。即ち本章は信託事業會社各論に入る順序であるが各會社内容の大小に依らず府縣別に分類して之れが數字的解明を試みる以て全國三十餘會社の内容に論及するであらう。先づ順序として東京府より始めらる。

三井信託株式會社 (東京市町田區有樂町) 資本金 三千萬圓 拂込資本 七百五十萬圓 信託總額 六千九百萬圓

三井信託の約り 我國内は勿論、國際的財界に於ける「三井」の地位が如何なるものであるかは、此處に論ずるの學ばないで、總括其の遠なき程の多種多様な關係事業中最も最近に着手せられ、而も業況隆々として幾多先進國事業を凌へに躍若たらしむるものは實に三井信託なのである。三井王國の名を背負ひし其の資本に依つて營業する事業が、到底他の追従を許さぬ優越に在る事勿論ながら、開業幾多に及ぶに先進有力同業會社の譽を壓する業績を挙げ若くは歩武を固く行く同社の如きは蓋し異數中の異數と稱すべきである。大正十三年三月資本金三千萬圓(拂込額七百五十萬圓)を以て創立されて以來、僅かに滿一ヶ年を経過したに過ぎない今日、既に四千七百餘萬圓の金錢信託、二千百餘萬圓の諸信託を併せ有し、之等信託財産に對する半季間の總收益八十餘萬圓を計上して夫々受託者に配當し而も會社固有利益七十九萬餘圓を舉げるの好績を示してゐる事實は、全く斯業界に於ける大なる誇りであると共に、其前途開發の餘地



國際信託株式會社 (有樂町一丁目)

資本金 五千萬元
拂込資本 一千二百五十萬圓
積立金 二百三十六萬圓
信託總額 七千八百萬圓

三井銀行及三井家を背景とする三井信託、山口銀行及山口家を背景とする山口信託は共に我國信託事業界に於ける代表的のものであると同時に、大資本家及び大銀行業者が信託事業に資本を投ずるの傾向益々顯著となつて來た事は争はれない事實であるが、最近特に著しいものとして住友系の住友信託、安田系の共済信託の二者は何れも二千萬圓以上の大資本を擁して新業界に新しく活躍の歩を進めたのである。此の如く大信託會社の背後には必ず大資本家の隠れてゐる事を知らねばならない。同社は本年五月の創立で資本金五千萬圓、總額一億圓の十六萬七千株までを十五銀行が引受け、其他にも同行重役個人として引受けてゐる株数は相當多數に上つてゐる。試みに一萬株以上の大株主を挙げて見るに次の如くである。

▲十六萬七千株 十五銀行頭取成瀬正三 ▲三萬三千四百株 笹田三郎 ▲二萬五千六百株 久米同族社長久米良作 ▲二萬二千三百五十株 成瀬正行 ▲一萬株 前田善三 ▲二萬株 神戸棧橋會社社長南郷三郎 ▲一萬六千株 平林其雄 ▲各一萬株 松方善輔、松永安左衛門、山本昇雄、原田汽船、日本信託銀行、渡邊三郎、赤見鉄馬、平林光治、門岡一郎、熊本クニ

以上十七名で以て總株数の約五割に近き四十萬五千株を占めてゐるに徴するも、同社の内容が如何に堅實性に富んでゐるかを知られる。以下其の一斑を叙述するであらう。

同社が創立された大正九年當時は歐戰好況期の最高潮に達した時代であり、經濟界は極度に膨脹してゐた時であつたから開業後まもなくして柔況頗る良好を加へ、三年後の十二年下期には既に七千餘萬圓の信託預金を吸收したのである。而して同年下期には關東大震災に際會したためであるが、僅かに事務所什器を焼失したのみで數ふべき損害をも蒙らず諸貸付其他運用方面に於て需要の頻繁なりし結果、収入利息其他に於て却つて増收を告げ利益安定は殆んど記録破り云ふも良好なるを得たのである。左に同年以後の業績を掲記して見る(單位千圓)

Table with columns for years (大正十二年, 十三年, 十四年) and rows for interest (利息), dividends (配当), and other financial metrics.

國際信託株式會社營業成績比較表

Comparison table for International Trust Co. showing financial metrics like 保證料 (Guarantee Fee), 雜費 (Miscellaneous Expenses), 合計 (Total), and 支出 (Expenditure) across years 1923, 1924, and 1925.

織田信託株式會社 (南千代田)

資本金 三百萬圓
拂込資本 二百七十萬圓
積立金 三十萬圓
信託總額 百八十五萬圓

同社は本年七月の創立で東京株式取引所仲買人として證券界に名聲を馳せ織田昇太郎氏が、證券界を優越するに同時に新業の前途あるを遂観して其の業務を開始し、爾來最も堅實なる營業方針に終始した結果、業績著しく良好を加へ今や多數業間に在りて充實せる内容、絶大な信用力を以て重きを任ぜられてゐる。これを三井、國際の兩社に比すれば美稱の上に遜色なきを保し難し、其の資本力の點よ

織田信託株式會社營業成績比較表

りして利率を算出すれば必ずしも業績の優劣を断じ難き程度に力強さを感せずには居られないのである。即ち信託預金其他信託總額は僅々二百萬圓弱にあれば會社固有利益は毎期十數萬圓乃至十餘萬圓を計上するの良好を示し、而も株主配當等を行はずして其の大部分を準備積立及繰越金として留保し堅實なる内容を更に鞏固ならしめん事に努力してゐるに徴するも其の誠實性を知らねばならぬであらう。同社は人格主義者たる織田昇太郎氏を社長とし今忠佐太郎氏及小平房吉氏常務の任に在り専ら經營の衝に當つてゐるが、何れも當代稀に見る實務精通家として好評あり、其の世人信用の度は益々博大なるべきを疑ひ得ないのである。現任重役左の如し

- 取締役社長 織田昇太郎
常務取締役 小平房吉
取締役 織田佐太郎
取締役 森盛一郎
監査役 横井孝助

Financial statement for Oda Trust Co. with columns for years (大正十三年, 十四年, 十五年) and rows for assets (資産) and liabilities (負債).

現金	1,100,000
預金	1,100,000
債権	1,100,000
不動産	1,100,000
その他	1,100,000
合計	5,500,000

**日本勸業信託株式會社** (東京市麹町区)  
 資本金 百 萬 圓  
 拂込資本 八十七萬圓  
 諸積立金 三十五萬圓  
 信託總額 四百萬圓

當社は日本勸業銀行の姉妹會社たり、其の別動隊として營業所を同銀行構内に置き金融界に重きを爲してゐる。大正三年十一月の創立で業務も相當古く、信託業務に於ける威力亦

**日本勸業信託株式會社營業成績比較表**

資 産 ノ 部		大正十三年十一月末	大正十四年十一月末
（固有）	未済資本	110,000	110,000
（固有）	有價証券	1,100,000	1,100,000
（固有）	預金	1,100,000	1,100,000
（固有）	不動産	1,100,000	1,100,000
（固有）	その他	1,100,000	1,100,000
（固有）	合計	5,500,000	5,500,000

**大信託信託株式會社** (東京市麹町区)

資本金 百 萬 圓  
 拂込資本 二十五萬圓  
 諸積立金 五 萬 圓  
 信託總額 四千萬圓

當社は大信銀行の姉妹會社で、大正五年十月の創業である。信託總額四千餘萬圓を算し、業況良好の如く觀せらるゝが、これを詳細に區分するに金銭信託に屬すべきもの僅々七十萬圓餘に過ぎず、其の六割強即ち二千六百餘萬圓までが金銭債權の信託である。是れは向は些か物足りない感なきを得ない。併し前年までは無配當であつたが十四年上期には四百二十餘萬圓の配當を拂ひ、八分四厘八毛の配當率を行ひ、亦亦殊異に對し

あるから將來有望なるべきを否まれないであらう。現重役は左の諸氏である。

取締役 久保田勝美 取締役 甲藤 通  
 同 三井得三 同 川田 豊吉  
 監査役 甲藤 大器 監査役 松山 國太郎

大信託信託株式會社營業成績表 (大正十四年十一月末現在)

資 産 ノ 部	大正十三年十一月末	大正十四年十一月末	
（固有）	未済資本	110,000	110,000
（固有）	有價証券	1,100,000	1,100,000
（固有）	預金	1,100,000	1,100,000
（固有）	不動産	1,100,000	1,100,000
（固有）	その他	1,100,000	1,100,000
（固有）	合計	5,500,000	5,500,000

**東京信託株式會社** (東京市)

資本金 五 百 萬 圓  
 拂込資本 二百三十七萬五千圓  
 諸積立金 五 十 萬 圓

當社は明治三十九年三月資本金百五十萬圓を以て創立され本邦に於ける信託會社中の古參會社である。當初の信託會社は信託の本質より稍や脱線したる不動産管理及賣買仲介等を主要業務と爲せる觀あり、當社亦主として此方面に活躍し相當の成績を挙げ、毎期七乃至八厘の利益配當を續けたが、大正四年末頃より業況不振を來し同五年上期には十五萬六千餘圓の減損を生ずるに至り重役の更迭、内容の刷新等極力挽回策を講じた結果、翌六年より年五分の配當を爲すに至り更に歐戰好況期に入るに及んで漸次業績の良好を告げ、大正八年五百萬圓に増資し一割の配當を行ひ得るに至つたのである。斯くの如くして現今には内容極めて充實し、諸積立七百八十餘萬圓、負債五百二十餘萬圓、株主配當年八厘を保持して多數同業間に重要視せらるゝに至つたのである。現任重役何れも財界に名ある諸氏であるが、特に藤山社長を始め専務取締役として經營一切の重任に處する石川重吉氏は、錚々たる名を知られ、其の多年の努力は同社今日の隆盛を齎したものであることを否まれないのである。

第一信託株式會社 (東京市)  
 設立 大正九年十月  
 資本金 百 萬 圓  
 拂込額 二十五萬圓  
 積立金 二萬五千圓  
 負債 二十七萬七千圓  
 代表者 專務取締役 松村英三郎 (大正十三年十一月末現在)

**朝日信託株式會社** (東京市)

設立 大正十三年二月  
 資本金 二 百 萬 圓  
 拂込額 五十萬圓  
 資産額 五十萬二千圓  
 負債額 二 千 圓  
 配當率 (大正十三年十一月末現在)

朝日信託株式會社 (東京市)  
 設立 大正十三年二月  
 資本金 二 百 萬 圓  
 拂込額 五十萬圓  
 資産額 五十萬二千圓  
 負債額 二 千 圓  
 配當率 (大正十三年十一月末現在)

**關西信託株式會社** (北濱西丁日)

資本金 一 千 萬 圓  
 諸積立金 一 百 萬 圓  
 信託總額 二千餘萬圓

當社は明治三十九年三月資本金百五十萬圓を以て創立され本邦に於ける信託會社中の古參會社である。當初の信託會社は信託の本質より稍や脱線したる不動産管理及賣買仲介等を主要業務と爲せる觀あり、當社亦主として此方面に活躍し相當の成績を挙げ、毎期七乃至八厘の利益配當を續けたが、大正四年末頃より業況不振を來し同五年上期には十五萬六千餘圓の減損を生ずるに至り重役の更迭、内容の刷新等極力挽回策を講じた結果、翌六年より年五分の配當を爲すに至り更に歐戰好況期に入るに及んで漸次業績の良好を告げ、大正八年五百萬圓に増資し一割の配當を行ひ得るに至つたのである。斯くの如くして現今には内容極めて充實し、諸積立七百八十餘萬圓、負債五百二十餘萬圓、株主配當年八厘を保持して多數同業間に重要視せらるゝに至つたのである。現任重役何れも財界に名ある諸氏であるが、特に藤山社長を始め専務取締役として經營一切の重任に處する石川重吉氏は、錚々たる名を知られ、其の多年の努力は同社今日の隆盛を齎したものであることを否まれないのである。

**大日本信託株式會社** (東京市)

設立 大正九年二月  
 資本金 五 百 萬 圓  
 拂込額 百二十五萬圓  
 積立金 六 萬 圓  
 資 産 二百三十萬圓

誇るべき財閥的背景 關西財界を統制する鮮やかなる一線を劃し、多數の事業に投資して豐饒たる一大財閥を形成せるものは實に山口吉郎兵衛氏を中心とする一派である。二億三千萬圓の預金を有する山口銀行を本據とし一億に近い大阪野村銀行を別動隊に、更に本邦生命保險界に斬然として群を抜く最大最良の日本生命と相並んで財界の原動力たり支配權を掌握するの勢力者たる山口家の資本力は、遂に偉大なる哉と稱さねばならぬ。其創業歴史に於て時又其營業内容に於て新業界の權威たる關西信託株式會社に山口家を背景として營まれるものであり、種々關係事業中の評々たる一事業たるを失はぬのである。信託業法實施されて以來、及其以前に於て新業界を經營するもの實に三十餘社に達するが、就中其の創業歴史に於て其の内容實質に於て同社の如きは眞に新業界代表的理想的信託會社として推賞するに何等躊躇すべきものではない。明始四十五年春、資本金二百萬圓を以て創立されて以來、年々共に進展し財界の推移に伴つて常に善處の方策を講じ、克く時流に適應して其の經營の上に些の過誤を生ぜしめず、今や資本金一千萬圓、拂込額四百萬圓を以て新時

代に於ける新事業中の花形として目醒しき活躍振りを示し、諸積立金九十萬圓、諸債権總額一千八百八十餘萬圓の多きに達し、半期間の信託利益金四十九萬圓を計上して各受益者に分配し、一面會社別有勘定に於ては克く二十萬圓に餘る利益を算し、年分の株主配當を行つてゐる云々隆盛振りを示してゐるのである。

**最近業績比較** 歐戰を一轉機として我經濟界に劃期的の大變化を來さしめたる事は今更ら叙述するの要なきが、信託事業に在りても亦著しき變遷を招來し歐戰以後の發展は實に目覚ましきものあり、其の内容の膨脹率亦激増の一途を辿つたのである。就中當時好況の中心地たりし大阪に本據を有する同社の如きは信託事業の未だ一般世人に完全なる理解を望み難かつた時代に於て、尚ほ且つ甚だ見るべき業績の隆盛を示したのである。此く好況期に際して十分なる基礎を固め、財界反動期に入り更に關東其他の大震災等の不祥事に當面しても何等の影響を蒙らさず、泰然自若、事毎に寧ろ内容の充實を期せしむる云々云々、今や牢固不拔の可からざる業績を築き上げ益々隆々たる進歩を遂げてゐる。試みに大正十一年當時と最近の業績を對比研究するに單位千圓

拂込資本	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
諸積立金	一、三〇〇	一、九〇〇	二、六〇〇
信託總額	三、三六〇	二、六〇〇	二、八〇〇
信託貸付金	八、九〇〇	四、六〇〇	三、〇〇〇
信託放款金	七、五〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇
預金及現金	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
常期利益金	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
配當率	一年一割二分	一年八分	一年八分

以上は何れも信託勘定のみの計數であるが、これらの數字を基礎として資本力及び運用方面の各割合を算出するに次の如く表示し得る。

積立資本に對する割合	信託總額に對する百分比
積立金	二、八〇〇
預金	五、〇〇〇
信託貸付金	四〇% 三四% 一%
信託放款金	四、四〇〇
預金及現金	四、七〇〇
常期利益金	六、三〇〇
配當率	六、四〇〇
右表に依れば積立金は各期を通じて二割二分乃至九分の間にあり、信託總額五倍前後を往來してゐる。更に運用方面に於ては貸付及放款預金金を通じて常に七十%前後であつて、三十%前後は不動其他固定財産として蓄積されてゐる。信託事業は銀行業と異り常備的の支拂準備金を必要とせず、銀行に於ける定期預金に等しく、一定期日の間に於て委託せられた金品に對し相當の利殖方法を講ずれば宜いのである。特殊契約の信託を別として多くは取付其他不時に支拂を要する事なく任意に放款を委託されてゐる以上、其の金額を自由に運用放貸する事に何等の支障ないのであるが、而も大抵他人の財産を委託せられるのであるから、それらに對して損害を與へしむる事は絕對に許されぬ。隨つて無謀の運用は極めて危険であり委託者に對する誠實なる所以でない。此意味	

る過剰として顯れたる定評あり、而も温厚寛大なる人格者として徳望ある理想的の名支配人である。坂野、高山、弘世、菅谷、瀧本、佐々木の諸氏は何れも山口王國の城代家老として克く一國一城の總帥たり、就中弘世氏の日本生命に於ける佐々木氏の銀行部に於ける、或は事務、或は常務として經營の重責に任じ我國代表的の事業として誇り得る成果を納めてゐる。岩井、町田の兩相談役亦共に山口家の美譽を擧げた重

に於て同社が常に七十%前後の運用に止る、爾餘は堅實なる第二線の準備として防範準備を爲してゐる事は誠に當を得た措置である云々はねばならぬ。此の如く誠意と堅實とを信條として而かも年間に於ける信託財産より五十萬圓近き利益を擧げ、委託者に對して夫れ／＼利益分配を行つてゐる事は、取りも直さず經營當事者の手腕卓越せる事を物語る唯一の證左であり、又以て同社内容の堅實と信用の強大とを最も強く裏書きするの事實である。信託財産に關する信託勘定に於て斯くの如く優秀なる成果を納めてゐる同社は、又資本關係に於ける會社別有の諸勘定に於ても甚だ見るべき業績を擧げてゐる。既に信託事業の本論に於て詳述した通り、該業務は普通銀行業務と異り信託せられた財産の運用に依つて生じたる利潤を全部會社自身の利益とするものでなく、信託に依る一定の手數料を受入れるのみであるから、運用の巧妙なる結果如何に巨額の利潤を得たか云々云つてそれは全部委託者、利益であつて會社自身の利益とはならない。隨つて信託財産に關する勘定と會社固有の勘定と別個に計算せられる所以であるが、云はゞ會社の諸計算は信託に對する保證であり信用であるから、此の保證となり信用となる會社内容の良否は直ちに會社に對する信用の強弱を論ぜらるる標準となる譯である。故に會社當事者の苦心焦慮するもの無理でないが同社は夙に堅實主義を信條として會社内容の充實に努めてゐるので、固有勘定科目の如きも別表累計表の如く著しく優良なる成績を示し、一期間に三十餘萬圓乃至二十餘萬圓の純利益を計上し、年一割二分乃至一割の好配當を保持して來つたのである。尤も最近に於ては各種事業共に配當減を感ぜられたれ、銀行の如き何れも減配銀行の折損であるから、同社の如きも八分配當を留めて居る一面積立金乃至準備金を増加して内容の充實に充當されてゐるが故に、業績益々堅實家國の度を加へて行く譯で、此の傾向は事業界の爲に慶すべきであらう。

**優越せる經營者** 以上に依つて同社の内容と業績の大体を知り得た事と思ふが、凡そ何事業に拘らず如何に巨大な資本力強き財閥背景を有するも、經營者に其の人物を得れば初期の成績を窺ひ難い。此の意味から云へば同社今日の聲譽を得たる最大原因は經營當事者に卓越せる手腕を有してゐる事に歸因するものと云ひ得る。現任重役諸氏の顔面れを見るに

**關西信託株式會社營業成績比較表**

資産ノ部	第二十五期			第二十六期			第二十七期		
	大正十三年十一月末	大正十四年五月末	大正十四年十一月末	大正十四年五月末	大正十四年十一月末	大正十五年五月末	大正十四年五月末	大正十四年十一月末	大正十五年五月末
拂込未済資本金	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
地方債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
社債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
貸付有價証券	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
所有不動産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
有價証券貸付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
不動産貸付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
銀行ノ預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
郵便貯金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
保證債務見返	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
管理預有價証券見返	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
代理事務立替金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未収入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
未収入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
營業用什器	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
現金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
計	26,800,000	26,800,000	26,800,000	26,800,000	26,800,000	26,800,000	26,800,000	26,800,000	26,800,000
負債ノ部									
資本									
積立金									
預金									
貸付									
有價証券									
銀行									
郵便									
保證									
管理									
代理									
未収入									
未収入									
營業用									
現金									
計									
利益金處分									
常期純利益									
法定積立金									
別途積立金									
役員賞與金									
株主配當金									
後期繰越金									
信託利益總額									

**安田信託株式會社** (大正十四年三月三十一日)

資本金 三千萬圓  
 拂込資本 七百五十萬圓  
 積立金 三萬一千圓  
 信託總額 二千六百餘萬圓

安田王國の資本に依つて營業する、幾多事業中、金融事業は其の最も主要なるものである。こは銀行部に於て詳述した處の如くである。而してこれが進撃手を承はる當社は亦王國の主要事業の一たるを失はないのである。大正十四年資本金三千萬圓を以て創立され、本社並に主力部隊を關西に置き大阪を中心として其の羽翼を廣く關西一帯の金融界に張り出す大いに努むる處あつた結果、當社と相前後して開業せる住友

信託其の罰を争ひ遂に彼をして一罰を免せしむる目覺ましき業況を顧み得たのである。即ち従前關西の天地に輝然として聳立した關西信託三者が巴戟戦を演じたる結果は、金銭信託のみならず安田一千五百六十萬圓、關西一千七百五十萬圓、住友一千八百萬圓で其の首位を占め、全國信託會社中三井の七千三百七十餘萬圓を第一位とし國際の七千九百萬圓を第二位とし、而して當社第三位を占むるに至つたのである。更に利益勘定に於ても信託利益金三十七萬七千餘圓を計上して各受益者に分配し、會社固有の純益十一萬九千餘圓を舉げて其の全部を積立及繰越して内容の充實に努めて信用力の増大を期してゐる。現重役は左の諸氏で安田王國の諸君を始め、關東、關西の財界代表の名士を網羅した處に絶大の資本的威力を示してゐる。當社の前途は誠に洋々たるものあるべきを疑ひ得ないのである。尙ほ當社は初め共済信託と稱せし大正十五年三月安託に改稱せり。

**安田信託株式會社營業成績表**  
(第二期大正十四年十一月末現在)

<b>(負債ノ部)</b>	
資本金	三〇〇,〇〇〇
社員身元保証金	四、六〇七
未経過利益	一八、二〇〇
常期純益金	一六、五九六
計	三〇一、五八三
<b>(資産ノ部)</b>	
拂込未済資本金	三〇一、五八三
國債	二二、五〇〇,〇〇〇
株式	九〇〇,〇〇〇
株	一三九、五七八
有價証券擔保貸付金	二〇、三七五
銀行預金	四、八〇二,四〇〇
銀行振替貯金	九〇,五〇〇
郵便振替貯金	一四一、四四八
銀行引受手形	四九
立金	二八七、四〇〇
假借	一六、一五二
營業用什器	三、一六八
現金	五、五二八
計	三〇一、五八三

住友銀行の別動隊として住友家の魁たる財界の巨魁信用方に立脚し、大正十四年八月を以て創業せる當社は、近時漸く勃興し來らんとする新業界に鮮やかなる色彩を放つに至りしめたものである。住友家の財的眞價は贅言するの要なし、従つて當社の對社會的信用を博する事の大なるべきは言を俟たず、其の業績の上にも多大の興味を期待されたものであるが創業早々の業績を見るに及んで、其の利益率の上に向は幾分憚らない感のあるは如何なるものか、即ち當社第一期勘定は八月より十一月末に至る約四ヶ月間の營業日數であるが、此間に於て一千萬圓の金銭信託三三百八十餘萬圓の第一種金銭信託及其他の諸信託を合して總額一千四百餘萬圓に達した事は、先づ驚愕せる當然の事實として利益勘定に於て三萬八千餘圓に過ぎなかつた事は些か期待を裏切られたかの感なきを得ない。併しながら實際の業績の果するは尙ほ今後の事であるから創業早々の結果を以て業績の良否を斷ずるは當らず只だ期待する處多かりし割合に其の事實これに期はざりし云ふまでであつて、當社の陣容其他より見て前途自覺しき

**住友信託株式會社** (大正十四年八月創業)  
(三訂目)

資本金	二千萬圓
拂込資本	五百萬圓
信託總額	一千四百餘萬圓

信託勘定  
(負債ノ部)  
一、五、〇〇〇,〇〇〇  
五、三、九、五三七  
九、〇〇〇,〇〇〇  
七、五、一三七  
一、八、一五  
八、〇〇〇〇  
四、三、六七〇  
一、四、二八二  
一、〇〇〇〇  
五、九、五七〇  
二、一、五、一四一  
計 二、一、五、一四一

利益金處分  
此處分  
一、九、二、八三三  
一、一、〇〇〇  
一、六、一、五一一  
八、八、一、三二二  
計 二、六、八、二、四九九

住友信託株式會社營業成績表  
(第一期大正十四年十一月末現在)

<b>(負債ノ部)</b>	
拂込未済資本金	一五、〇〇〇,〇〇〇
諸有價証券	五、三、九、五三七
有價証券擔保貸付	九、〇〇〇,〇〇〇
諸預金	七、五、一三七
貸付有價証券	一、八、一五
保證債務見返	八、〇〇〇〇
立金	四、三、六七〇
營業用什器	一、四、二八二
現金	一、〇〇〇〇
計	五、九、五七〇
<b>(資産ノ部)</b>	
拂込未済資本金	一〇、〇〇〇,〇〇〇
借入金	一、三、五、〇〇〇
擔保付保證債務	八、〇〇〇〇
假借	二、九、〇五五
未経過利益	一、一、三、五五
常期純益金	三、八、六〇三
計	二、一、五、一四一

虎屋信託株式會社  
(大正十四年八月創業)  
(三訂目)

資本金	二百萬圓
拂込資本	七十萬圓
積立金	九萬五千圓
信託總額	六百五十萬圓

**虎屋信託株式會社營業成績比較表**

項目	大正十三年十一月末	大正十四年十一月末
資本金	2,000,000	2,000,000
拂込資本	700,000	700,000
積立金	95,000	95,000
信託總額	6,500,000	6,500,000
負債ノ部	5,950,000	5,950,000
計	6,500,000	6,500,000

項目	北攝信託株式會社			
	第七期 大正十二年 十一月末	第九期 大正十三年 十一月末	第十期 大正十四年 五月末	第十一期 大正十四年 十一月末
有價証券	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
不動產擔保貸付金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
信託金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
銀行預金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
貸付金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
未收金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
現金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
合計	7,770,000	7,770,000	7,770,000	7,770,000

**攝津信託株式會社** (大阪府西區北區江) (御池通四丁目)

當社は大正八年十二月の創立で關西財界の雄、岸本家の事業である。拂込資本金二十五萬圓に對する約二十倍の信託額を有し毎期十數萬圓の信託利益金を各受益者に配當し、會社固有利益亦一萬數千圓を計上し業況漸次改善の度を加へつゝある。社長は岸本家太郎氏、古山島藏氏支配人の任に就き鋭意經營に策してゐる。

攝津信託株式會社營業成績比較表

項目	北攝信託株式會社			
	第七期 大正十二年 十一月末	第九期 大正十三年 十一月末	第十期 大正十四年 五月末	第十一期 大正十四年 十一月末
資本金	100,000	100,000	100,000	100,000
拂込資本	250,000	250,000	250,000	250,000
諸積立金	110,000	110,000	110,000	110,000
信託總額	550,000	550,000	550,000	550,000
有價証券	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
不動產擔保貸付金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
信託金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
銀行預金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
貸付金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
未收金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
現金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
合計	7,770,000	7,770,000	7,770,000	7,770,000

**北攝信託株式會社** (大阪府)

當社は大正七年七月の創業で資本金の割合に並況良好の方である。諸積立金十餘萬圓を有し毎期六萬餘圓の純益を挙げ年一割一分の株主配當を行ひ得る内容の堅實さを有し、一般より頗る信賴されてゐる。最近の營業成績左表の如し

北攝信託株式會社營業成績表

項目	北攝信託株式會社	
	大正十四年 五月末	大正十四年 十一月末
資本金	100,000	100,000
拂込資本	250,000	250,000
諸積立金	110,000	110,000
信託總額	550,000	550,000
有價証券	1,200,000	1,200,000
不動產擔保貸付金	1,200,000	1,200,000
信託金	1,200,000	1,200,000
銀行預金	1,200,000	1,200,000
貸付金	1,200,000	1,200,000
未收金	1,200,000	1,200,000
現金	1,200,000	1,200,000
合計	7,770,000	7,770,000

**大正信託株式會社** (大阪府西區末吉橋通)

當社は大正十年以來の營業で業歴は相當古い會社である。隨つて事業成績も其に見るべきものあり、純利益常に十餘萬圓を算して居る。さきに万成信託の間に合併談話をしたが具體化すに至らず恰かも藤田組に於て信託會社經營の計畫あり遂に其の買収に應ずる事となり、十五年春以來藤田家の手に移つたのであるから前途益々發展の度を加へるであらう。

大正信託株式會社營業成績表

項目	大正信託株式會社	
	大正十四年 五月末	大正十四年 十一月末
資本金	300,000	300,000
拂込資本	750,000	750,000
積立金	400,000	400,000
合計	1,450,000	1,450,000

**万成信託株式會社** (大阪府)

當社は大正七年十一月の創業で資本金は僅少であるが、業

項目	万成信託株式會社	
	大正十四年 五月末	大正十四年 十一月末
資本金	50,000	50,000
拂込資本	200,000	200,000
積立金	200,000	200,000
信託總額	450,000	450,000

況しては可なり見るべきあり、毎期年一割乃至九朱の配當を維持し來つた會社である。近時信託會社合併の噂へらるゝに際し、資本合同の有益なるに鑑み大正信託の合併問題に連座して以來前途の見定めつかず、果して如何に成り行くか疑問である。然し新業の堅實なる發達を期する上より云ふも須からず資本集中大同に就くべきである。當社最近の營業成績左の如し

万成信託株式會社營業成績表

(大正十四年五月末現在)

固有勳定	
(資産之部)	
未拂込株金	三〇〇,〇〇〇
所有不動産	七〇,七九七
政府供託國債	四九,九七九
所有有價證券	六二,五八九
營業用圖書什器	一〇,五一八
不動產抵當貸付金	八九,九九三
有價證券抵當貸付金	二,七五〇
管理立替金	六,八九三
假拂金	一九,八六一
債務ノ保證見返	二五,〇〇〇
振替貯蓄金	二九八
銀行預金	三四,六一六
現金	三二,九四四
合計	七〇六,二四〇
(負債之部)	
株主預り金	五〇〇,〇〇〇
諸預り金	一一五,三〇九
假借受金	一一,〇一七
擔保債務ノ保證	二五,〇〇〇
法定積立金	一七,五〇〇
別途積立金	三,六八三
前期繰越金	一五,〇七一
常期利益金	一八,六五七
合計	七〇六,二四〇

銀行預金	
現金	七〇,三四六
合計	四六,三三二
(負債之部)	
金銀ノ信託	九六,〇〇三
土地及其定着物ノ信託	四〇,〇〇〇
有價證券ノ信託	一一,五〇〇
合計	一〇,一五〇
利益金處分	
總收入金	五一,五三四
總支出金	三三,八七六
差引當期純益金	一八,六五七
前期繰越金	一五,〇七一
合計	三三,七二〇
法定積立金	一一,〇〇〇
別途積立金	一一,〇〇〇
社員退股手當積立金	一〇,〇〇〇
役員賞與金	一〇,〇〇〇
株主配當金	一〇,〇〇〇
後期繰越金	一五,九二九

日下部信託株式會社

(岐阜市中竹屋町)

資本金	百 萬 圓
拂込資本	二十五 萬 圓
積立金	九 萬 九 千 圓

當社は岐阜縣に於ける財界の代表的有力者たる日下部氏一派の事業で、大正九年一月の創業である。極めて堅實主義を信條とする處に多大の信頼を得、業況甚だ見るべきものがある。新業發達の過渡期に際し、眞實内容充實に専念する折柄なるを以て未だ利潤の多きを望み難しと雖も、而も毎期一萬餘圓の純利益を舉げ前期繰越金を合して三萬餘圓の利益金全部を準備積立金とし、既に十萬圓を有し利益金の一厘をも社外に出でせず、以て基礎の鞏固を固りつつある處に眞面目なる經營方針を窺ひ知るを得べく、同社の發展並し速きにあらざるべきを疑はないのである。現重役は左の諸氏で日下部社長並に御友事務は共に部下の有力者であり經營手腕に卓越せる名士である。前途の飛躍期して待つべきもの多かるべく誠に地方には稀らしき實業健全なる事業家揃ひと云ふを恐まれないのである。

取締役社長 日下部久太郎 常務取締役 御友 重徳  
取締役 日下部彌三郎 監査役 宮田 彌助

日下部信託株式會社營業成績比較表

資 産	第九期	第十期
	大正十四年五月末	大正十四年十一月末
所有未済資本金	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇
所有有價證券	三三三,三三三	三三三,三三三
所有預金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
合計	一,一三三,三三三	一,一三三,三三三
負 債	第九期	第十期
	大正十四年五月末	大正十四年十一月末
株主預り金	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇
諸預り金	一一五,三〇九	一一五,三〇九
假借受金	一一,〇一七	一一,〇一七
擔保債務ノ保證	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇
法定積立金	一七,五〇〇	一七,五〇〇
別途積立金	三,六八三	三,六八三
前期繰越金	一五,〇七一	一五,〇七一
常期利益金	一八,六五七	一八,六五七
合計	七〇六,二四〇	七〇六,二四〇

資 産	第九期	第十期
	大正十四年五月末	大正十四年十一月末
所有未済資本金	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇
所有有價證券	三三三,三三三	三三三,三三三
所有預金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
合計	一,一三三,三三三	一,一三三,三三三
負 債	第九期	第十期
	大正十四年五月末	大正十四年十一月末
株主預り金	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇
諸預り金	一一五,三〇九	一一五,三〇九
假借受金	一一,〇一七	一一,〇一七
擔保債務ノ保證	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇
法定積立金	一七,五〇〇	一七,五〇〇
別途積立金	三,六八三	三,六八三
前期繰越金	一五,〇七一	一五,〇七一
常期利益金	一八,六五七	一八,六五七
合計	七〇六,二四〇	七〇六,二四〇

神戶信託株式會社

(神戸市)

設立	明治四十年二月
資本金	三百 萬 圓
拂込資本	百七十二 萬 圓
積立金	十二 萬 圓
資産	一千五百五十 萬 圓
負債	一千 萬 圓
代表者	専務 鹿尾幸一

濟生信託株式會社

(神戸市)

設立	大正二年三月
資本金	二百 萬 圓
拂込資本	百十 萬 圓
積立金	十四萬五千 圓
資産	百九十 萬 圓
負債	六十五 萬 圓
配當率	年 五 分

勸業信託株式會社

(神戸市)

設立	大正十一年五月
資本金	百 萬 圓
拂込資本	二十五 萬 圓
積立金	二萬二千 圓
資産	百三十五 萬 圓
負債	百八 萬 圓
配當率	年 一 割

日華合同信託株式會社

(神戸市)

設立	大正九年十二月
----	---------

神戶信託株式會社

(神戸市)

資本金	百 萬 圓
拂込資本	八十 萬 圓
積立金	二萬五千 圓
資産	八十五 萬 圓
負債	五 萬 圓
配當率	年 六 分
代表者	社長 田村新吉

大和信託株式會社

(神戸市)

設立	大正十一年二月
資本金	百 萬 圓
拂込資本	二十五 萬 圓
積立金	二 萬 圓
資産	三十六 萬 圓
負債	十 萬 圓
配當率	年 一 割 一 分

眞野信託株式會社

(神戸市)

設立	大正九年二月
資本金	三十 萬 圓
拂込資本	七萬五千 圓
積立金	三 萬 圓
資産	二十三 萬 圓
負債	十二 萬 圓
配當率	年 一 割 一 分

名古屋信託株式會社

(名古屋市)

設立	大正八年十一月
資本金	百五十 萬 圓



**仙臺信託株式會社** (仙臺市)  
 設立 大正十四年八月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込資本 二十五萬圓  
 代表者 事務取締役高城耕三  
 (大正十三年十一月現在)

**青森信託株式會社** (青森市)  
 設立 大正十年八月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込資本 二十五萬圓  
 積立金 二萬五千圓  
 負債 四十五萬圓  
 配當率 年一割  
 (大正十三年十一月現在)

**北陸信託株式會社** (高岡市)  
 設立 大正九年六月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込資本 七十萬圓  
 積立金 二萬五千圓  
 負債 百三十萬圓  
 配當率 年九分三厘  
 (大正十三年十一月現在)

**第三信託株式會社** (金澤市)  
 設立 大正十年九月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込資本 二十五萬圓  
 積立金 一十八萬圓  
 負債 二萬八千圓  
 配當率 年五分  
 (大正十三年十一月現在)

**南海信託株式會社** (和歌山市)  
 設立 大正九年五月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込資本 二十五萬圓  
 積立金 一十八萬圓  
 負債 二萬八千圓  
 配當率 年五分  
 (大正十三年十一月現在)

**讚岐信託設立** (香川縣高松市)  
 大正十五年四月資本金二百萬圓を以て設立された同社では重役を左の通り選任した。  
 取締役社長 藤田勝太郎 常務取締役 藤川利三郎  
 取締役 中村新太郎 取締役 瀧尾 等  
 同 佐藤 貞善 同 北村 菊吉  
 同 宮武 恒造 同 香西 貞彪  
 同 入谷 哲平 監査役 武田 謙  
 同 監査役 堀田賢二郎 同 鎌田 謙

**新潟信託設立計畫** (新潟縣新潟市)  
 資本金三百萬圓を以て新潟信託株式會社を設立すべく認可申請中である。  
**新設計畫續出**  
 大阪藤田組では大正信託を買収し鴻池銀行系統新設の計畫あり、東京崎銀行にも資本金一千萬圓の信託會社を計畫中にて近く設立するべく名古屋銀行亦東京信託會社を新設すべく準備中である外八千代生命の八千代信託、舊日米信託の千代田信託等を始め各地方に於ても新設計畫相當なる規模であるから全國總數も遠からず四十社に達すべき見込である。

**住友信託重役變動** 同社社長住友吉左衛門男逝去並に中田錦吉氏病歿に伴ふ重役の更迭左の如く行はれた。即ち取締役住友吉左衛門、佐藤重雄兩氏當選し取締役會長に湯川寛吉氏、事務に吉田眞一氏、常務に佐藤重雄氏何れも選任された。

**信託協會全國大會**  
 銀行局長並に信託協會々長演說要旨  
 大正十四年十月二十七日大阪中央公會堂に於て全國信託協會大會を開催し全國の各信託事業代表者參會し頗る盛會を極めたが其席上大藏大臣代理松本銀行局長並に米山信託協會々長は大休左の如き演說を試みた。參考までに録録する。

**銀行局長演說概要**  
 信託協會は今回の總會に於て社團法人とする事に決議されたが、従前信託業法によりまして雖然たる組織を備へ斯業發達の緒についたと同様に信託協會も茲に法律上その他の點に於て陣容を完備すること、相成り、斯業發達に利便を得る、に至つたことは信託業が社會制度上並に金融制度上に於ける地位及びその將來に鑑みて、實に

**大正興業信託株式會社** (長崎市)  
 設立 大正九年四月  
 資本金 百五十萬圓  
 拂込資本 五十萬圓  
 積立金 三萬圓  
 負債 七十五萬圓  
 配當率 年八分  
 (大正十三年十一月現在)

**増補欄**  
 信託協會組織變更  
 信託協會にては大正十四年秋季信託業者大會に於て同會の組織を社團法人に變更する事に決定し、大藏省へ認可申請中であつたが、十五年三月二十二日付を以て認可の指令があつたので急行する事に決した。而して同會員として全國信託會社三十三社が全部加入して居り更に近く讚岐信託も加入する筈であるから全會員は三十四社なる譯である。尚ほ同會役員は左の如く理事十名、監事二名で會長は三井信託木山梅吉氏、副會長は關西信託加藤小太郎氏である。  
 理事 (會長) 米山梅吉 (三井信託) 副會長 (關西信託) 加藤小太郎 (關西信託) 吉田眞一 (住友信託) 多田正雄 (日本勸業信託) 高橋虎太郎 (廣生信託) 久保田勝美 (大信託) 山本半雄 (國際信託) 藤尾幸一 (神戸信託) 小平房吉 (信託) 肥田勝藏 (虎尾信託)  
 監事 濱崎定吉 (安田信託) 前山久吉 (東京信託)

**三菱信託設立** (東京市)  
 三井、安田、住友、十五、山口(大阪)等の各銀行は何れも同業信託會社を有し著しき活躍を試み居れるに拘らず、獨り三菱の信託會社を有せざる所より其の實現を企畫中であつたが、念々資本金三千萬圓(或は五千萬圓)なすやも知れずの三菱信託を設立するの議決定し今秋十月若しくは十一月頃より開業の運びに至るべしと云はれて居る。而して其の重役は銀行部と同様に會長並に事務を置く事とし會長には東京海上保險の事務長吉氏、事務には銀行重役田村秀實氏が就任する事に内定して居る。尚ほ三菱信託出現の時は従来の既存信託會社が主力を全信託に對するに及ばぬ程には財産信託

購買の至らざる。現在我國に於ける信託會社は信託の信託業免許の時から僅に二年餘の歲月を併しただのみであるが、その數三十有三に達したのである。併しながら現在の状態は眞に發達の第一歩を踏み出したといふに過ぎないのであつて活動の天地は寧ろ今後にあるのであり。信託業の發達に就きまして政府の希望とするところは短き歲月の間に信託會社の數や資本金が増大致すといふよりも、寧ろその基礎及び内容が最も堅實なること、眞實なる信託の必要に由來したる會社の業務が益々盛大に赴くことが更に望ましく考へます。政府の從來より來りたる方針、また將來に及ぶ方針も要するに之に外ならぬのであります。近來政府は信託會社の検査を略一進行しまして社會一般が信託云ふ事情を理解し、種々なる場合に之を利用するものが漸次増加せんといふ、あることを明に認めたのであります。此の際に於て精選せられたる現在の信託會社が益々その内容を堅實にするやう努められることは信託會社として社會に對する重大なる責務であること、にまた斯業發達の點から申しましても最も大切な時期であるに存じます。

**米山會長演說要旨**  
 我が信託協會開始以來既に七年を経過す、而して銀行保險と相並んで財界重要機關として將來の成功期に待つべきに至り、茲に我等は益々其團結を鞏固にして信託業の使命を全く其本分を成就するに適當するため、協會の組織を改めてこれを社團法人とするの定款は今や議決を見るに至り、總て主務官廳の認可を得るに共に進んで更に大に活動の境域に入るべき準備を爲せり。我が信託協會は今大の總會を以てその發達の歴史に一期を劃せるものと稱すべきである。大正十三年末突如として省令の改正を見、その新業の上非常に打撃を與へたるは勿論之が救済に容易ならざるを以て、我等は日夜切實して慎重審議の結果、十五箇條の希望事項を具して誠意熱心これを當局に訴へ、最も困難なる事情の下に最善を盡してもつて直面せる苦痛を軽くし、斯業の發達を健全にせんことに努力した。例せば信託會社が遺言執行者、鑑定人、清算人又は破産管財人たり得べき規定を希望し、信託業法第十一條第八號銀行又は信託會社の引受ある手形の買入に主務大臣の認可ある會社の引受又は裏書ある手形を加へられたこと、有價證券の信託契約に付元本の増補修項を認められたこと、擔保附信託の引受は信託會社に限り之を容れ得ること、に改められたこと、金銀信託の最低金額を改められたこと、物上擔保信託に對しては擔保を徵せずして保證を爲し得ること、に改正せられたこと、運用方法の特定せざる金銀信託補足契約の最高利益歩合を改められたこと、信託不動産の移轉登録税を變更または軽減せられたこと、の如き、寧ろ信託會社自體の責務を増加するもかへつて委託者の利便を計らんとするもの、若くは當然の要求に屬し

假令指定金銭信託期間改正の爲めの苦痛を蒙るゝことなし、  
も新法の下業開始以來實地研究の結果として提出し、業  
務の性質に伴ふ必然の希望として、これが達成を監視したるも  
のならば、我等が慶すべきは  
今や保險業法施行規則の改正を見事に保險會計財産及び  
責任準備金運用信託の途開かるゝの希望を達せること  
信託の智識を國民に普及せしむるため、國定教科書中に教  
材として編入せられたる希望も大に當局の認可する所な  
るべし。  
信託會計の會計士たり得べき希望もまた少くも同法案  
起草に際せる當局の考慮を蒙るゝ所となること  
信託不動産の移轉登録改正の希望も迅速に採用を見さ  
るゝ迄も其の相續法の適用を妨げずして信託の利用に使  
なるべきこと、是また當局の認可する所なるべし。  
我等は今や終了せる總會に於て、二個の決議を發表した。凡  
そ金銭信託に其間の多少期間の長短に制限あるべき理由は

全く之を認むる能はず、我等は徒に改正省令の還元を讀せ  
ず、當然の理由に基き廣き見解による主務官廳の公平なる  
判斷に適切な措置を希望す、是れ決議第一の精神であ  
る。獨り不動産登録改正は信託に關係ある法令にして  
信託の利用を發達を阻害するものは之が改正を促すため、  
業の十五箇條の希望事項を維持すること、是れ決議第二の  
精神である。斯くて我等は内に益々其内容を充實して法律  
上經濟上安全有效なる組織的信用機關となり、外には益々  
信託協會の團結を鞏固にして其活動の範圍を擴張し、如此  
にして金融の上には靜的資財を集合して産業資金の運用に  
供し、一方公益信託を増進を計り、信託業務の使命を完ふし  
て其効果を挙げなくてはならぬ。信託會計の管理に屬す  
べき金銭が現在の一億乃至二億萬圓を倍加し、今より十年  
の後に於ては屬すべき巨額に達し、永久的に公私經濟の助  
長に貢獻すべき確信を有するものである。

全國銀行總覽終

大正十五年五月二十一日印刷  
大正十五年六月十日發行

全國銀行總覽

不許複製

定價金貳拾圓

大阪北區芝田町七十一番地

著作兼發行者 田中力之助

大阪市東淀川區中津町五十三番地

印刷人 光延義民

大阪北區芝田町七十一番地

發行所 日本經濟研究會

423

220

終